

令和 7 年度  
こども・若者意見聴取アンケート  
～結果報告書～

令和 8 年 3 月  
都城市

---

# 目次

第1章 調査概要	1
第2章 調査結果(小学3年生～6年生)	2
2-1 対象者属性	2
2-2 学校以外での過ごし方	3
2-3 大人との関わり	4
2-4 自分の将来	5
2-5 悩み相談	7
2-6 自由意見	9
2-7 幸福度	10
第3章 調査結果(中学生)	13
3-1 対象者属性	13
3-2 自分の将来	14
3-3 子育て	17
3-4 居場所	19
3-5 悩み相談	20
3-6 自由意見	22
3-7 幸福度	23
第4章 調査結果(高校生)	26
4-1 対象者属性	26
4-2 自分の将来	27
4-3 子育て	30
4-4 居場所	32
4-5 悩み相談	33
4-6 自由意見	35
4-7 幸福度	36
第5章 調査結果(若者)	39
5-1 対象者属性	39
5-2 職場環境	40
5-3 自分の将来	42
5-4 悩み相談	46
5-5 自由意見	48
5-6 幸福度	49

---

---

第 6 章 こども計画における数値目標 .....	52
6-1 こども・若者の視点に立った数値目標 .....	52
6-2 基本目標に向けた施策・取組の数値目標 .....	52
第 7 章 共通設問の整理 .....	53
7-1 自分の将来 .....	53
7-2 子育て .....	55
7-3 居場所 .....	56
7-4 悩み相談 .....	57

## 第1章 調査概要

### 1. 調査の目的

本調査は、こども基本法に則り、こどもや若者たちから意見を聴取し、その意見をこども施策に反映させるために、都城市内の小学校・中学校・高校・大学・専門学校に通うこどもや都城市内に住む若者に向けて広く意見を募るために実施した。

### 2. 調査対象

①小学3年生～6年生 ②中学生 ③高校生 ④若者(～39歳まで)

【参考】※R7.5.1時点の児童・生徒数 ①6,592人 ②4,881人 ③4,228人

### 3. 調査期間

①～②:令和7年8月4日(月)～8月24日(日)

③～④:令和7年9月22日(月)～10月13日(月)

### 4. 調査方法

アンケートフォームによるオンライン回答

①～④:市公式HP及びインスタグラムに掲載、こども政策課窓口、図書館、各総合支所、各市民センター、各地区公民館にチラシを設置。

①～②:保護者と学校の連絡ツール「Sigfy(学校連絡帳アプリ)」を利用。

※Sigfy(学校連絡帳アプリ)の活用のない学校には、生徒数分のチラシを配布。各児童館及び児童センターにチラシを設置。

③:各高校の生徒数分の周知チラシを配布。

④:各大学・専門学校等の生徒数分のチラシを配布。

『みやざき若者サポートステーションサテライト都城』にチラシを設置。

### 5. 集計結果

合計 1,065 件の回答がありました。年代ごとの内訳は以下のとおり。

調査対象	小学3年生～6年生	中学生	高校生	若者(～39歳まで)
回答件数	191件	142件	488件	244件

### 6. 集計分析上の注意事項

◇対象者属性以外の設問の集計については、小数点第2位以下を四捨五入した割合で算出しているため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。また、四捨五入した結果、1%以下であった場合、数値は示していない。

◇複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答数に対してのそれぞれの比率を示している。そのため、合計が100%を超える場合がある。

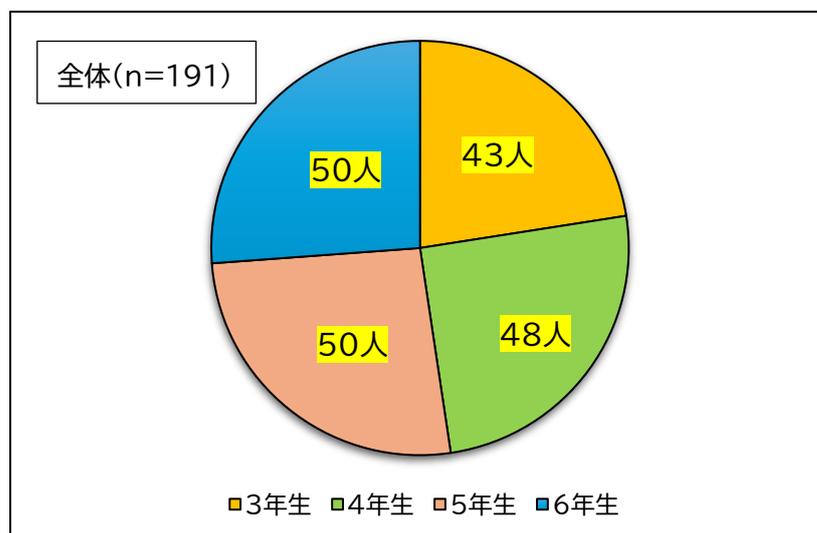
◇属性別の分析等において、回答件数が少ないものについては、その結果は参考程度に留め、分析コメントを省略する場合がある。

◇図表中の「n」は、集計対象者数(あるいは回答者限定設問の条件に該当する人)を示している。

## 第2章 調査結果(小学3年生～6年生)

### 2-1 対象者属性

○ 学年



## 2-2 学校以外での過ごし方

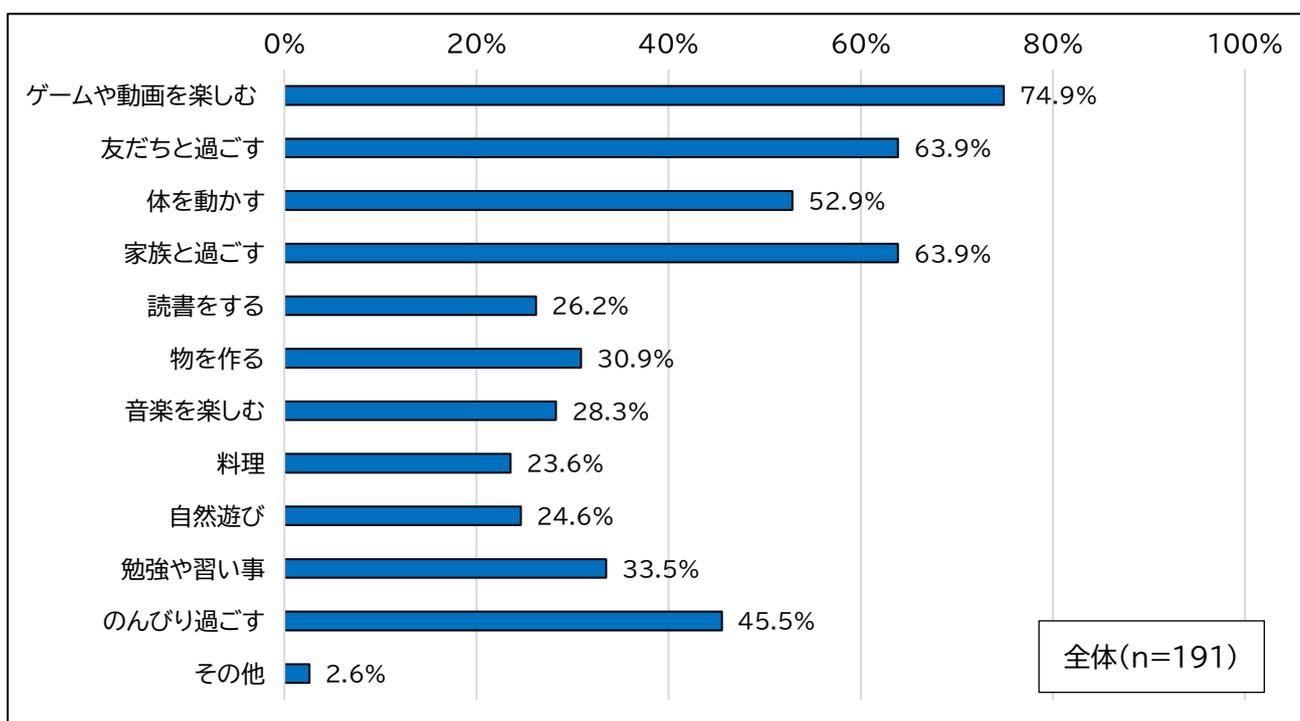
## 問3 放課後や休日に何をしておきたいですか？(いくつえらんでもいいよ)

回答割合としては、「ゲームや動画を楽しむ」が最も高く、次いで「友達と過ごす」、「家族と過ごす」が高い結果となった。「ゲームや動画を楽しむ」が多い結果となったことについては、子どもにとってデジタル機器が主要な余暇手段となっていることが分かる。

また、「友だちと過ごす」「家族と過ごす」については、身近で安心できる関係性を重視している傾向が見られ、子どもは場や機会があれば、交流を求め、関わりたいという潜在的ニーズを持っていると考えられる。

そのほか、上位の回答であった「体を動かす」からは、気軽に体を動かせる環境を求めていること、「のんびり過ごす」からは、刺激的な活動よりも安心して過ごせる時間や場所を求めていることが分かる。

今後、子どもが安心して選択できる多様な過ごし方を用意することが重要と考える。



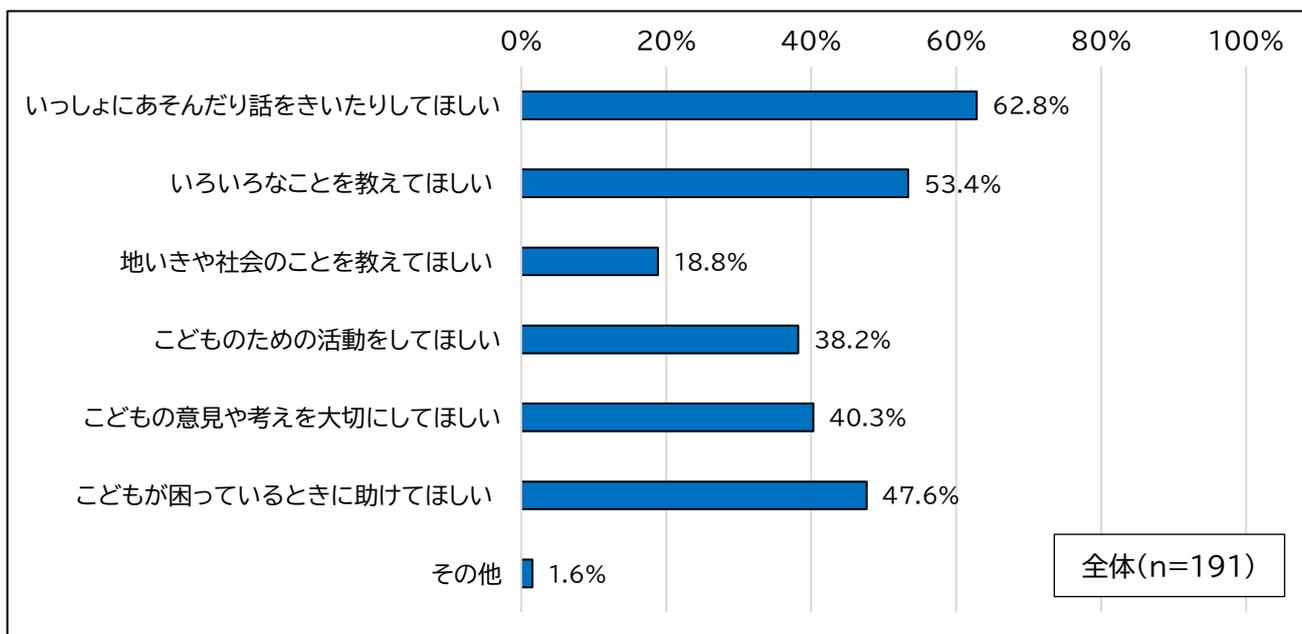
## 2-3 大人との関わり

問4 自分の周りの大人たちにしてもらいたいことはありますか？  
(いくつえらんでもいいよ)

回答割合としては、「いっしょにあそんだり話をきいたりしてほしい」が最も多く、次いで「いろいろなことを教えてほしい」が高い結果となった。この結果から、子どもたちは大人に対して、指導・管理する存在ではなく、時間を共有し、対話し、学び合える存在であることを求めていることが考えられる。

また、「子どもが困っているときに助けてほしい」「こどもの意見や考えを大切にしてほしい」の回答からは、一人の人間として尊重されることを重視しており、特に、悩みやトラブルに対して相談できる大人の存在が、子どもにとって重要であることが示されている。

これらから、子どもたちのニーズとしては、人との関わりや信頼関係に重きを置いている点に特徴がある。

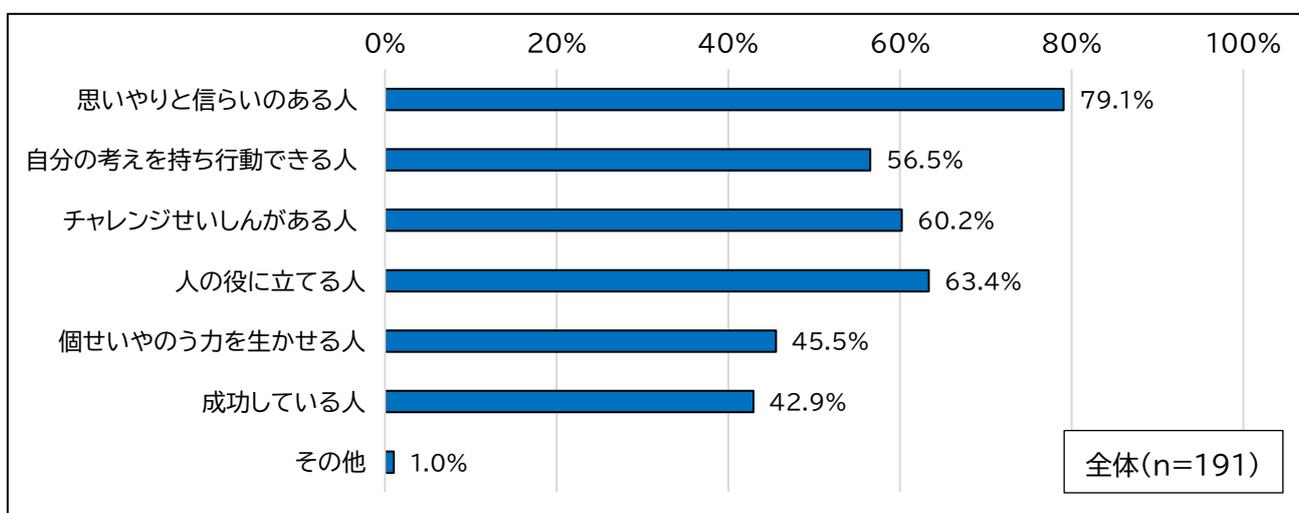


## 2-4 自分の将来

## (1) 将来像

問5 あなたが「こんな人になりたい」と思うものを選んでください。  
(いくつえらんでもいいよ)

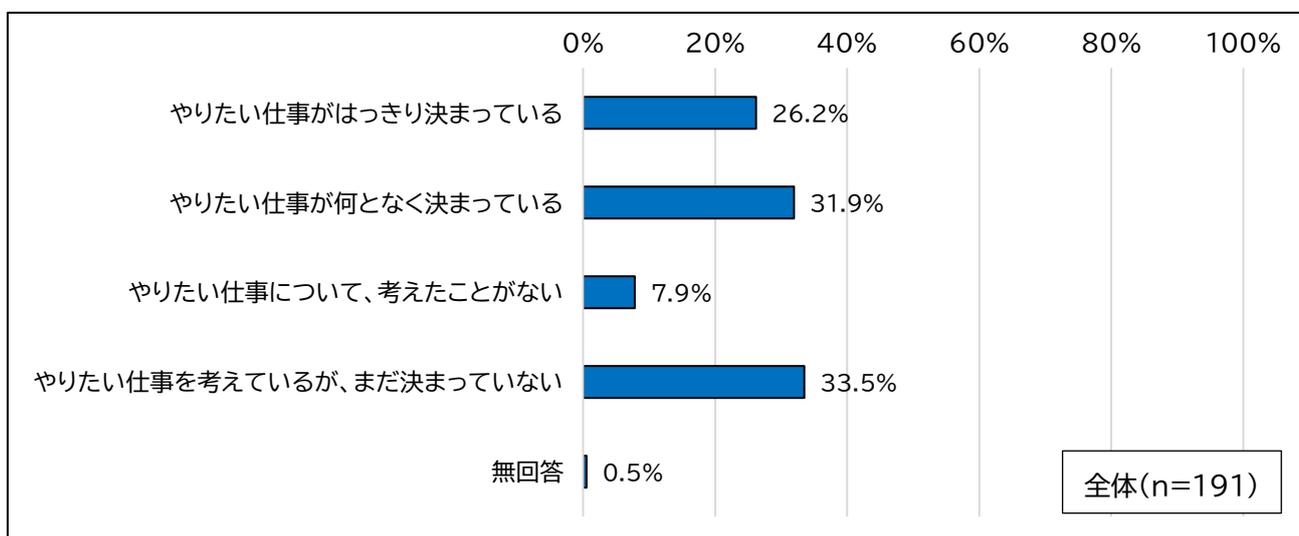
回答割合としては、「思いやりと信らいのある人」が最も高く、次いで「人の役に立てる人」が高い結果となった。また、「チャレンジせいしんがある人」「自分の考えを持ち行動できる人」が上位となっていることから、こどもたちは経済的成功や社会的地位よりも、人との関係性や内面的な成長を大切にする傾向が見られ、人との関係性・主体性・挑戦を重要視していることが考えられる。



## (2) 将来の仕事

問6 しょうらい、やりたい仕事はありますか？

「やりたい仕事を考えているが、まだ決まっていない」と回答した割合が最も高かったが、やりたい仕事が決まっている割合は、過半数を超える結果となった。



問7 しょうらい、「やりたい仕事が決まっている」「やりたい仕事は何となく決まっている」と答えた方～それはどんな仕事ですか？(自由記述)～

小学生がやりたい仕事として挙げた上位の職業からは、人と関わる仕事や専門性を要する職業への関心が高いことが分かる。これらの職業は、日常生活や学校生活の中で接する機会が多く、体験や身近なロールモデルの影響を受けている可能性がある。

※一部のみ記載

- ・モデルとして活躍するダンサーになりたいです ・今得意な事 ・保育士、バレエ選手、パン屋さん
- ・書道の先生、パティシエ、美容師 ・動物病院の先生になりたいです ・学校の先生
- ・患者さんが元気になるために、薬剤師になりたい
- ・年下のこどものお世話をすることが好きなので、保育士になりたい。
- ・獣医師、パイロット ・科捜研か化学捜査官 ・子供に関わる仕事 ・芸能人になりたいと考えている。
- ・保育士 ・小学校の先生、リポーター ・小学校の先生、リポーター ・アニメーター
- ・アニメーターになりたいです ・スポーツ選手、警察官 ・サラリーマン ・人の役に立てる仕事
- ・プロゲーマー ・パティシエ ・美容師、皮膚科、小児科 ・お花屋さん
- ・警察 ・プログラマー ・恐竜の発掘や鑑定をする人 ・自衛隊 ・歌手 ・大工 ・パティシエ
- ・ユーチューバー ・救急救命士 ・バスの運転手 ・病院 ・薬剤師
- ・薬剤師・ユーチューバー・保育士さん ・自動車整備士 ・医者になりたい ・医療系に進みたい
- ・都城には小動物を診てくれる動物病院が少ないから小動物を主に診る獣医師になりたい
- ・バドミントン選手(監督) ・保育士、美容師 ・看護師さん ・美容師、保育士 ・YouTuber
- ・電車のJR九社宮崎区間の運転士 ・浄化センターで働きたい ・美容院の人 ・イラストレーター
- ・IT系や基盤などの、電子系の会社に、就職したいと、現在考えている
- ・本業 イラストレーター、副業 YouTuber ・パン屋さん ・医者、歯科医師 ・薬剤師か医師か看護師
- ・獣医さん ・動物に関わる仕事 ・小児科医などの医療関係の仕事になりたい
- ・人の役に立つ仕事、習い事を生かした仕事 ・動物園のしいくいん ・パソコンを使う仕事
- ・薬剤師、管理栄養士で迷っているから ・スポーツ選手 ・寿司職人 ・看護師か薬剤師になりたい
- ・サッカー選手 ・お寿司屋さん ・薬剤師さんかアプリケーションエンジニアになりたい
- ・柔道の関係すること ・建築士 ・水族館の飼育員さん ・ロボットを作る人になりたい …etc

【職業別 TOP10】

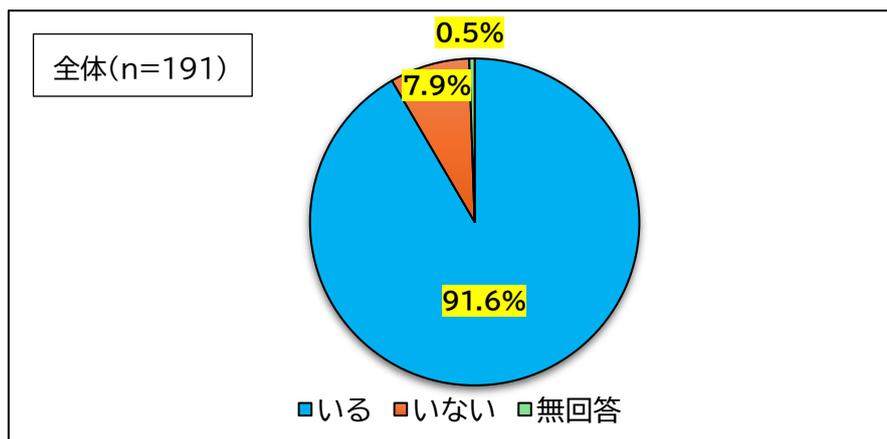
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
職業	保育士	薬剤師	美容師	医者	看護師	獣医師	パティシエ パン屋さん	小学校 教諭	ダンサー	イラストレーター サッカー選手 YouTuber
件数	10件	8件	7件	6件	6件	5件	5件	5件	4件	4件

## 2-5 悩み相談

### (1)相談相手

#### 問8 困っている時や、なやんでいる時に相談できる人はいますか？

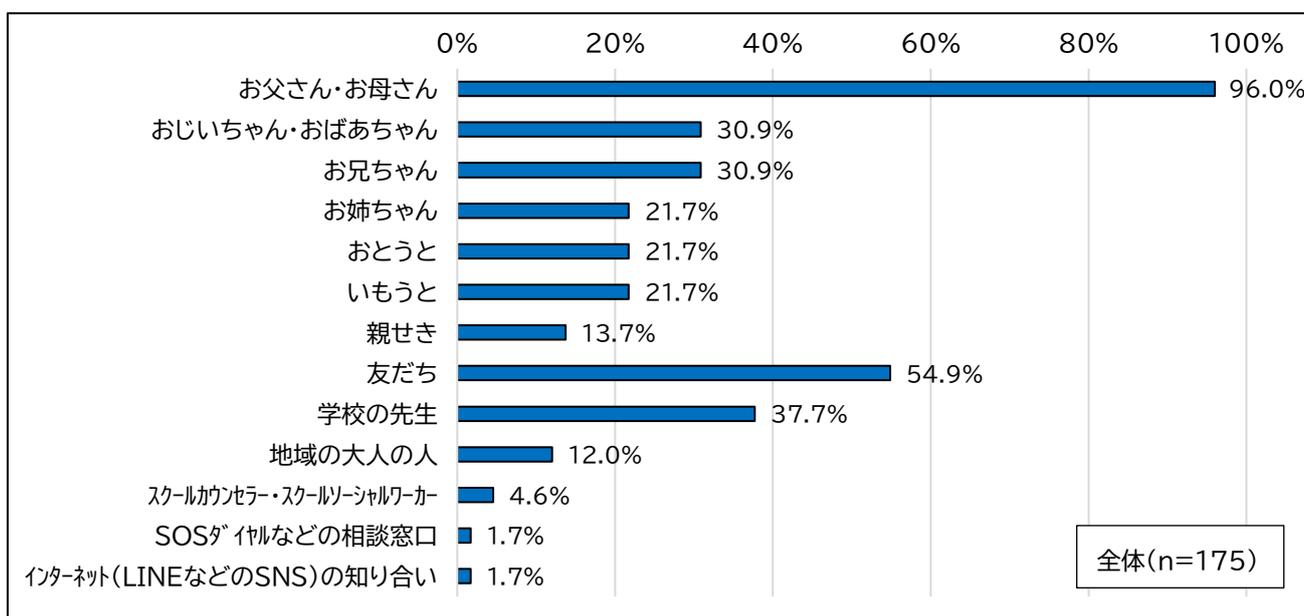
大多数の小学生が「いる」と回答しており、一定の相談基盤が形成されていることが分かる。一方で、「いない」と感じている児童も少数ながら一定数いることも分かった。



#### 問9 困っている時や、なやんでいる時に相談できる人は「いる」と答えた方～それは誰ですか？～(いくつえらんでもいいよ)

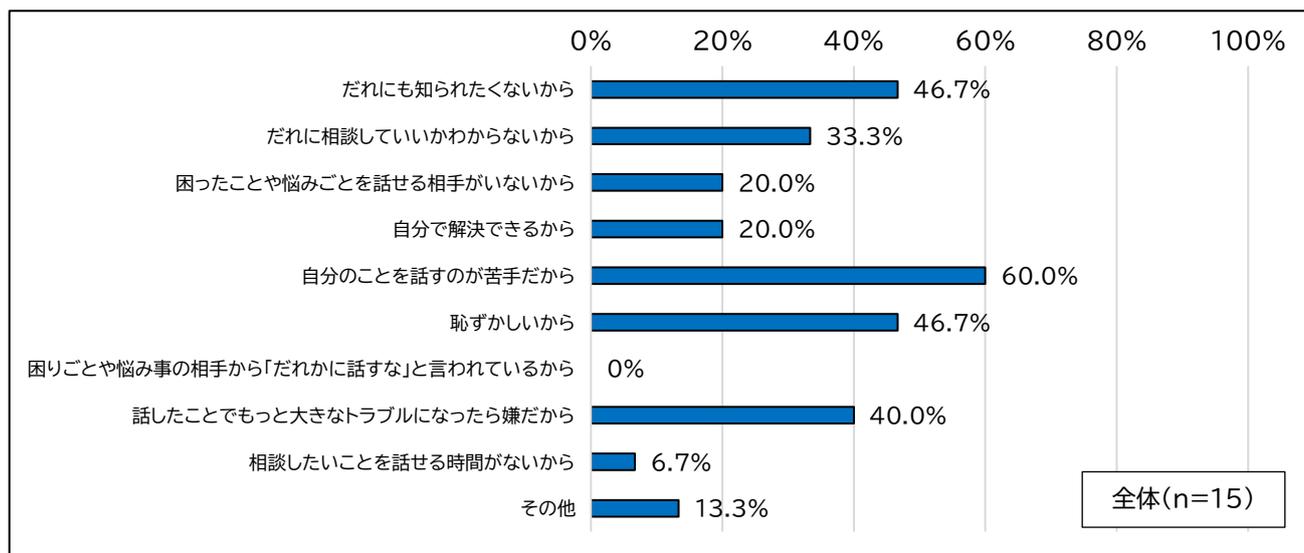
最も割合が高い相談相手は「お父さん・お母さん」であり、家庭が小学生にとって、最も身近で安心できる相談先であることが明確に示された。次いで「友だち」「学校の先生」が多く、学校・友人関係も重要な相談相手となっている。

一方で、専門職(カウンセラー等)や公的相談窓口等については、相談先として選ばれる割合が低く、身近ではあるが相談対象として十分に認識されていない実態がうかがえる。



**問10 困っている時や、なやんでいる時に相談できる人はいますか？  
「いない」と答えた方～その理由は何ですか？～(いくつえらんでもいいよ)**

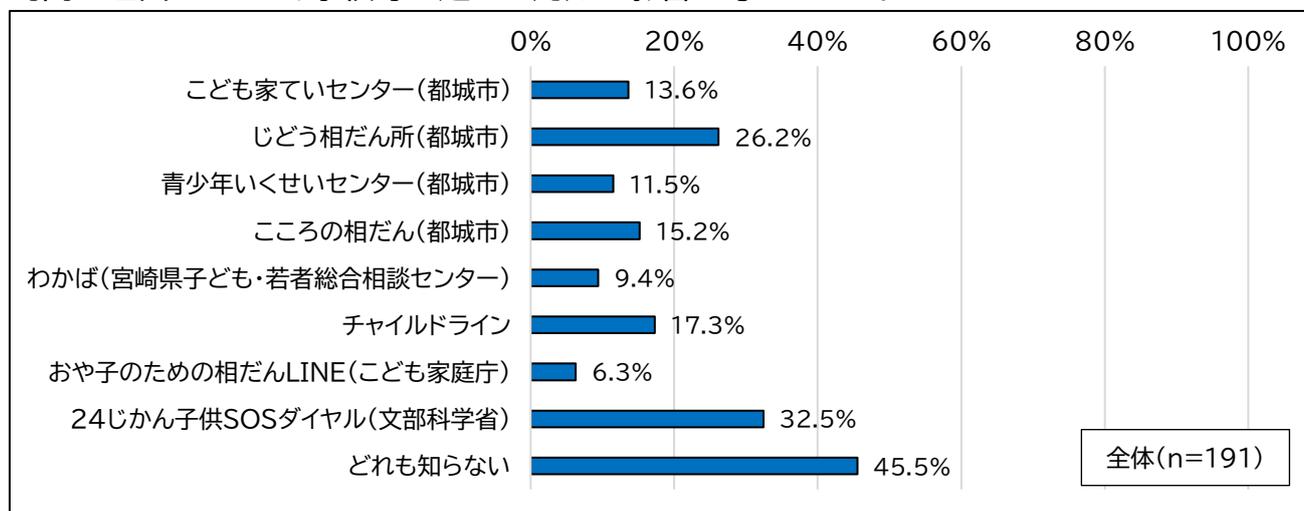
相談できない理由としては、相談相手の不在そのものよりも、心理的な抵抗感や不安が多く挙げられている。特に、話すことへの苦手意識や恥ずかしさ、二次的トラブルへの懸念などから、相談したい気持ちはあるが、踏み出せない状態にあるため、単に相談窓口を設けるだけでなく、安心して話せる環境づくりが重要であると考えられる。



**(2)相談窓口の認知度**

**問11 あなたは、次のような相談窓口を知っていますか？  
知っているものをえらんでください(いくつえらんでもいいよ)**

最も割合の高かった回答は「どれも知らない」であり、相談窓口の認知度が十分に浸透していない現状が明らかとなった。一方で、文部科学省が実施する SOS ダイアルの認知度が比較的高い理由としては、学校等を通じた周知の影響と考えられる。

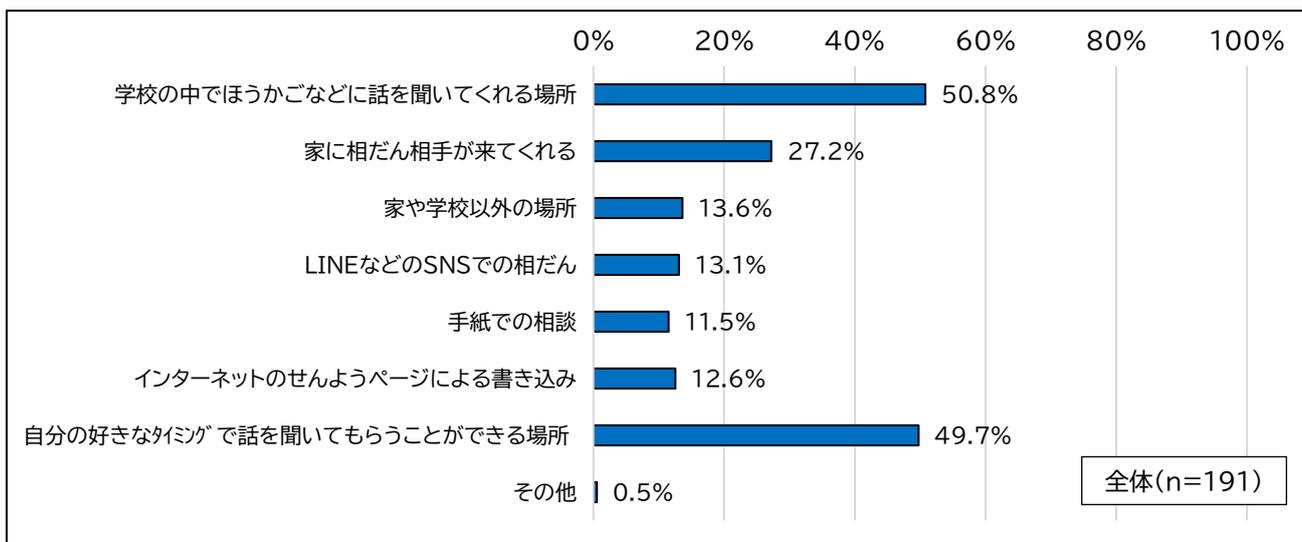


## (3)希望する相談場所や方法

問12 あなたが困ったりなやんだりしたとき、なんでも相談できるとしたら、どんな場所や方法だったら話がしやすいですか？（いくつえらんでもいいよ）

回答からは、学校などの身近で安心できる場所や自分のペースで相談できることを重視していることが分かった。

一方、SNS やインターネット、手紙といった非対面型の相談方法も一定数選ばれており、直接話すことに抵抗がある児童への選択肢として重要であることが分かる。



## 2-6 自由意見

問13 都城市がもっといいまちになるために、やってほしいことや思うことはありますか？（自由記述）

以下は、いただいた意見の一部を記載したものである。

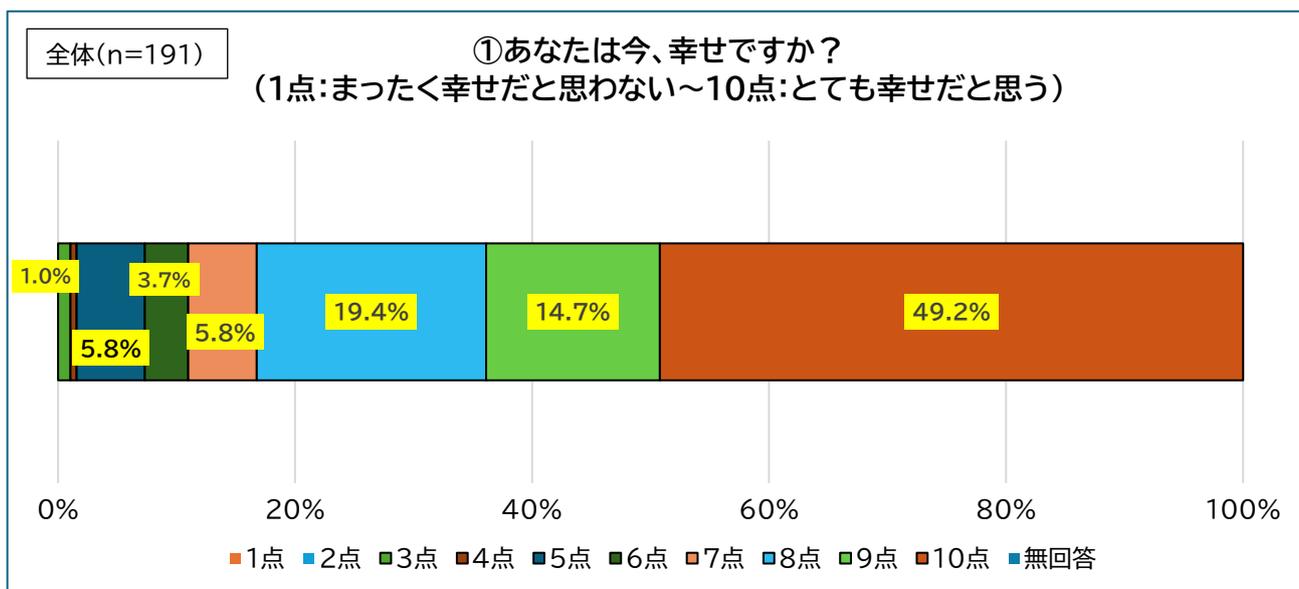
- ・今の都城は、パチンコや、大人が遊ぶ場所ばかりある。だから、こどもの遊ぶ場所も欲しい。
- ・パパやママと一緒に遊べる場所をもっとふやしてほしい。
- ・ポイ捨てを減らしたい。ゴミが多いのでキレイにしてほしい。ゴミ拾いの日を作る。
- ・定期的に親子向けのイベント等を開催してほしい。
- ・走る場所や、雨の日でも遊べる場所が欲しい。遊園地やテーマパークがあるとみんな遊べる。
- ・直接会って悩みなどを話せる場を校区内に作って欲しい。
- ・自習スペースをこどもだけでも行ける場を校区内に作って欲しい。
- ・学校全体にクーラーをつけて欲しい(廊下や体育館)。
- ・公園の遊具を新しくしてほしい。
- ・道路の穴を埋めてほしい。街灯を増やして欲しい。
- ・AED が都城市のどこにあるのかすぐに分かるアプリがあったらいいのになあと思いました。

## 2-7 幸福度

問14 次の質問について、1(最小)から10(最大)の間で教えてください。

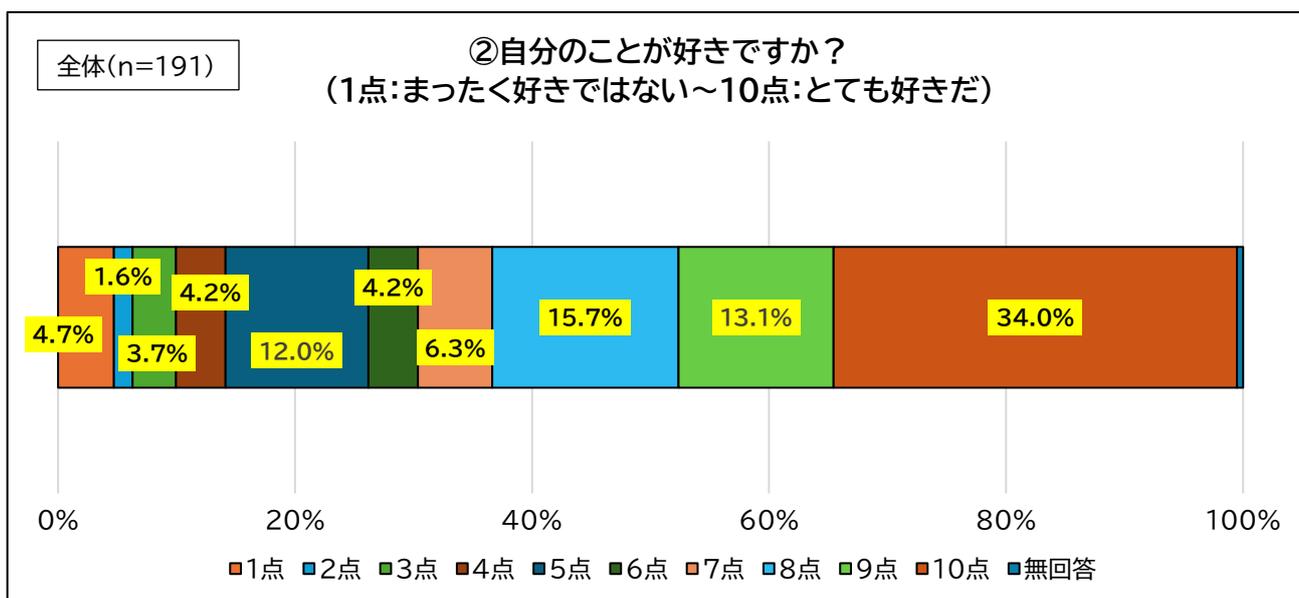
### ①あなたは今、幸せですか？

「10点」が49.2%と最も高く、次いで「8点」が19.4%となっており、平均点をみると、8.7点であった。



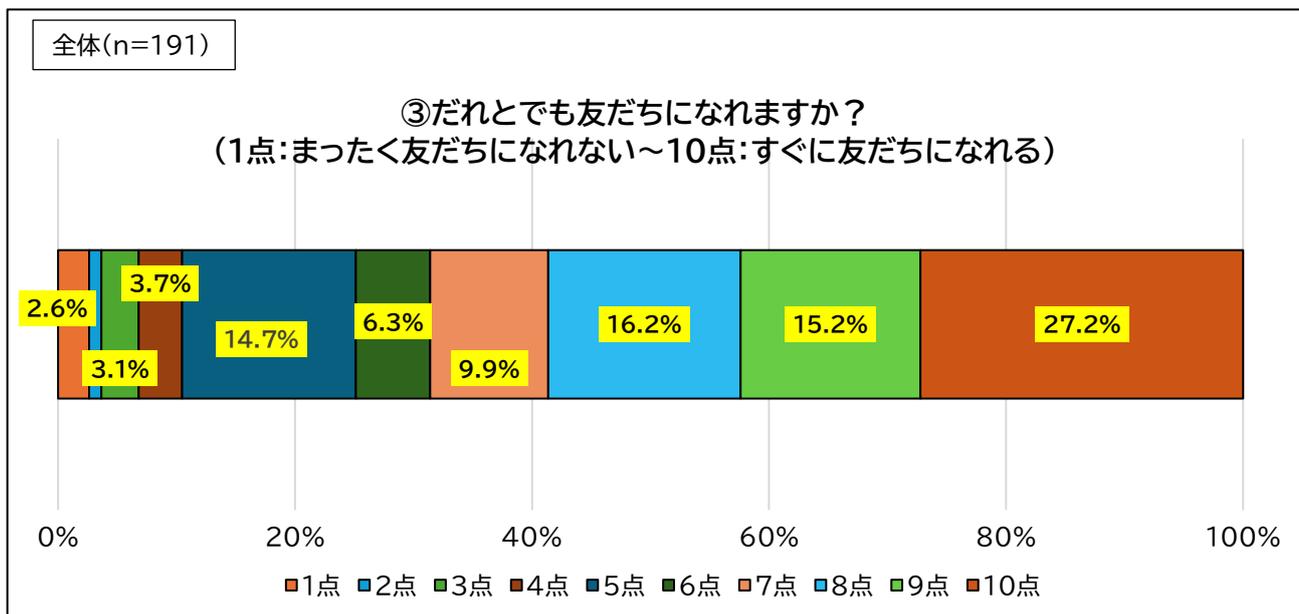
### ②自分のことが好きですか？

「10点」が34.0%と最も高く、次いで「8点」が15.7%となっており、平均点をみると、7.5点であった。



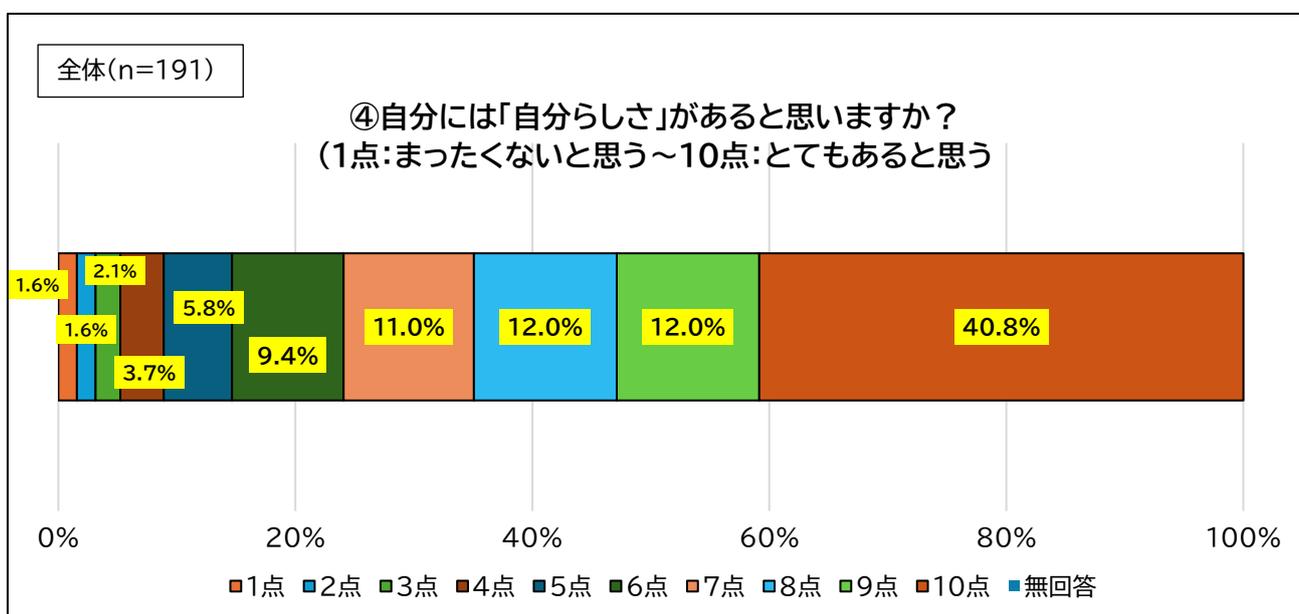
③だれとでも友だちになれますか？

「10点」が27.2%と最も高く、次いで「8点」が16.2%となっており、平均点をみると、7.4点であった。



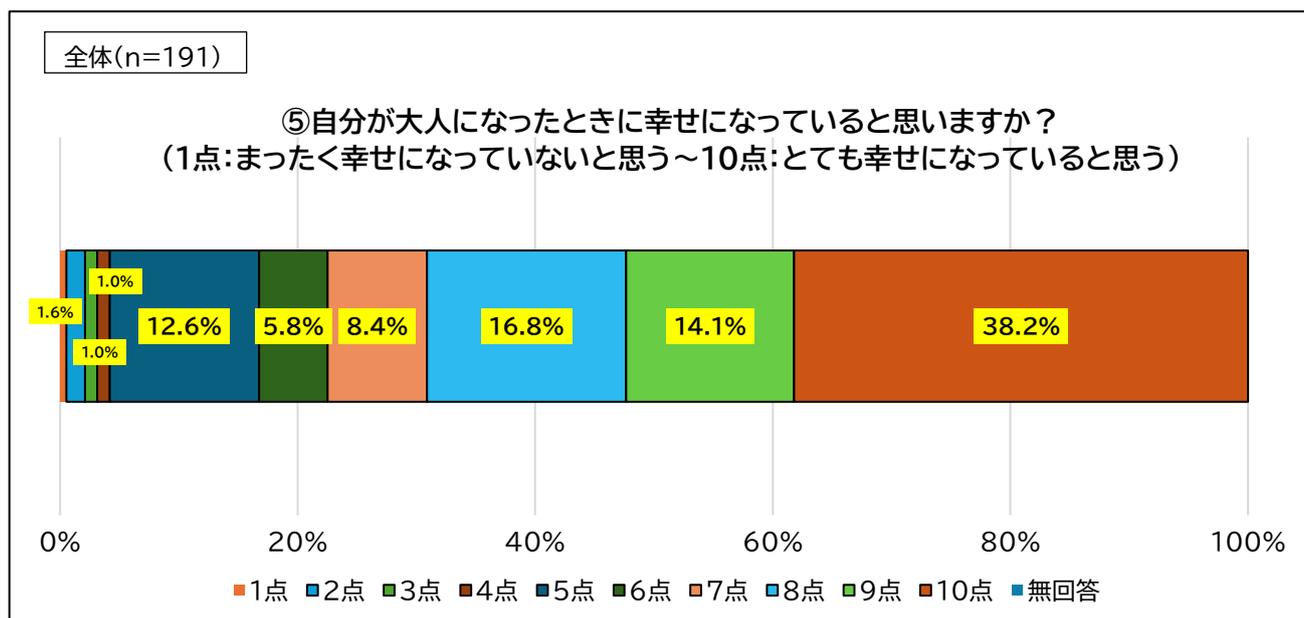
④自分には「自分らしさ」があると思いますか？

「10点」が40.8%と最も高く、次いで「9点」「8点」がそれぞれ12.0%となっており、平均点をみると、8.0点であった。



⑤自分が大人になった時に幸せになっていると思いますか？

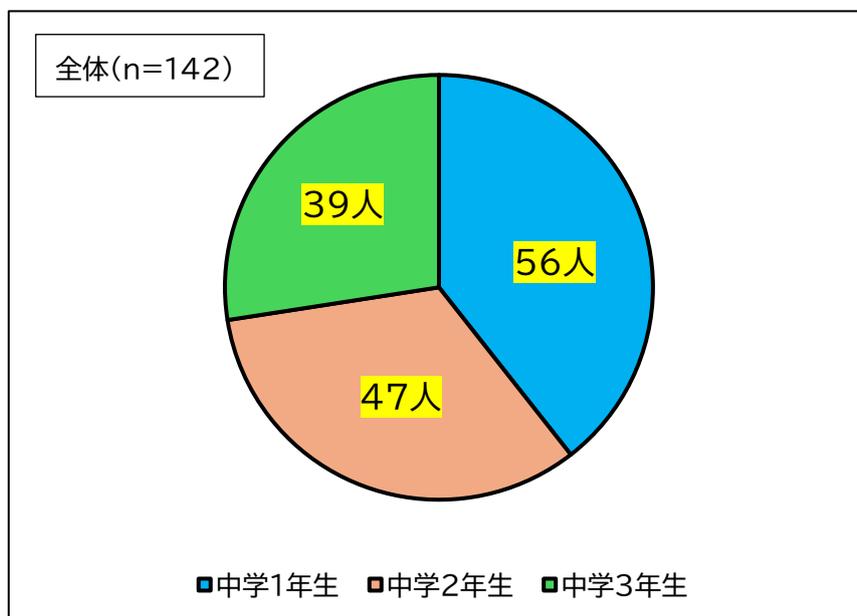
「10点」が38.2%と最も高く、次いで「8点」が16.8%となっており、平均点をみると、8.1点であった。



## 第3章 調査結果(中学生)

### 3-1 対象者属性

○ 学年



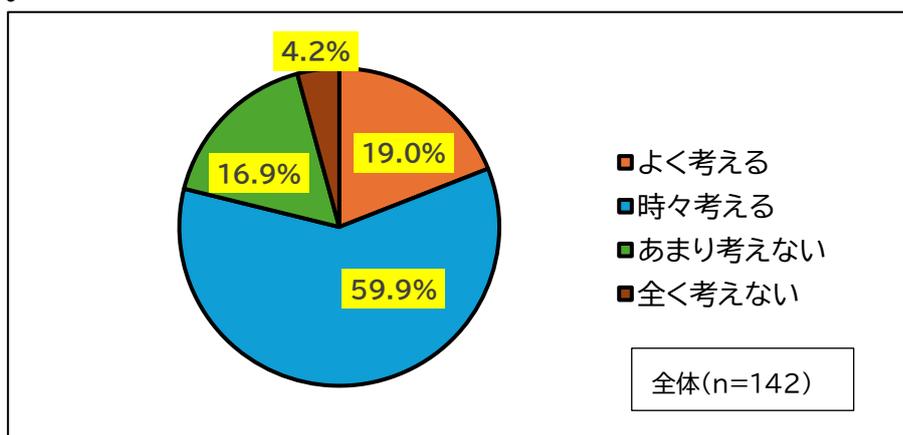
## 3-2 自分の将来

### (1)考える機会

#### 問3 将来の自分について考えたことはありますか？

回答割合をみると、約8割の中学生が頻度に差はあるものの、将来について考えた経験があり、多くの中学生は、将来像そのものに対して無関心ではないことが分かった。

一方で、「よく考える」は19.0%にとどまり、具体的・継続的な思考には至っていない層が多数と考えられる。

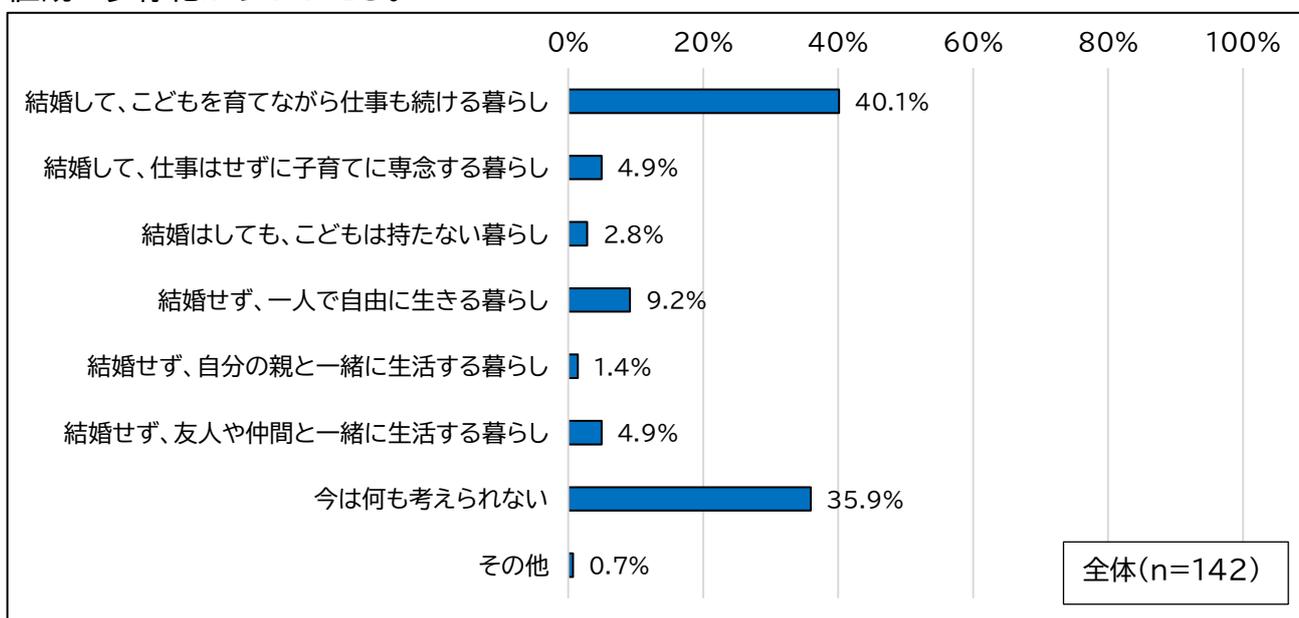


### (2)暮らし

#### 問4 将来、どのような暮らしをしたいと思いますか？

最も割合が高かった項目は、「結婚して、子どもを育てながら仕事も続ける暮らし」であり、共働き・両立型の家庭像が一定程度イメージされていることが分かった。

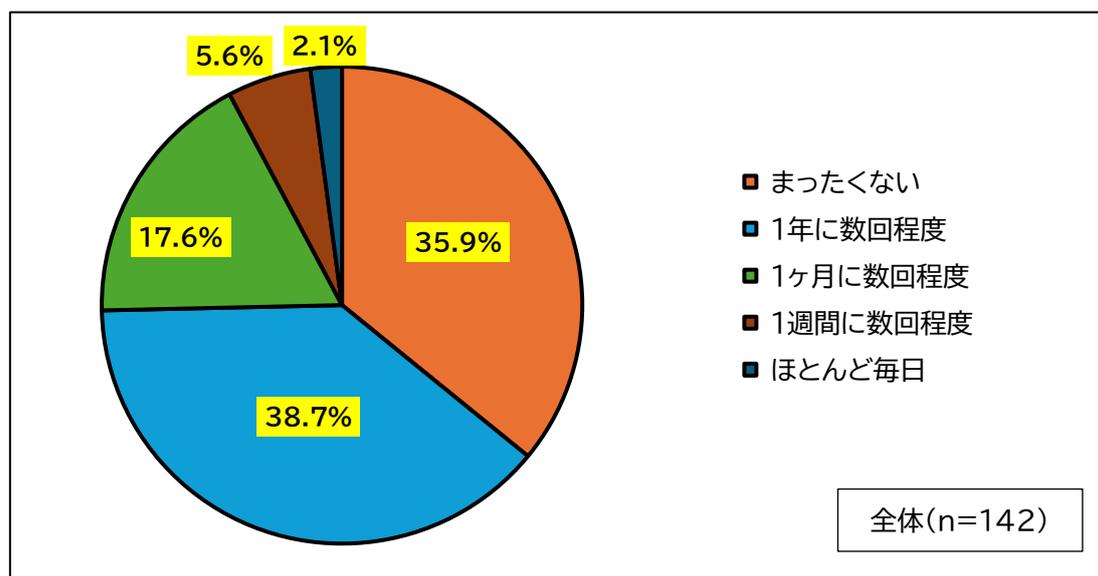
一方、3割以上の中学生が「今は何も考えられない」と回答しており、具体的な生活像を描けていない層が非常に多く、結婚・子育てを前提としない選択肢を選ぶ学生も一定数存在し、価値観の多様化がうかがえる。



## (3)こども

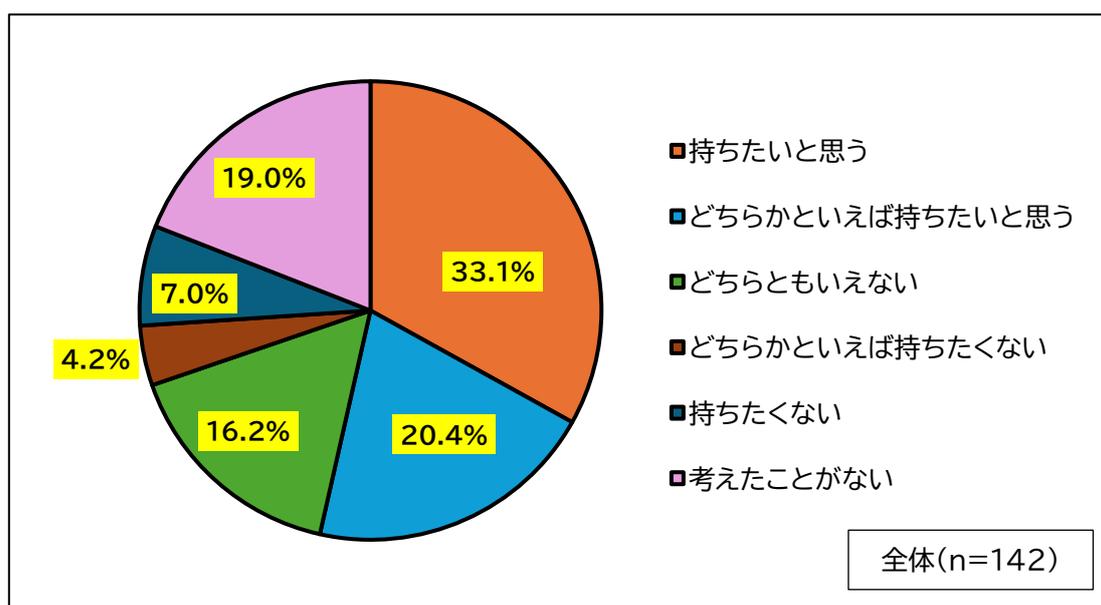
## 問5 普段、兄弟姉妹以外で赤ちゃんや小さなこどもと触れ合う機会がありますか？

回答傾向をみると、多くの中学生が、日常的に乳幼児と接する機会をほとんど持っておらず、中学生にとって、こどもが抽象的なイメージ上の存在にとどまっている可能性が高いことが予想される。



## 問6 将来、こどもを持ちたいと思いますか？

回答傾向として、こどもを持つことに前向きな意向を示す割合は、半数以上であったが、判断を保留・未検討としている割合も高い結果となった。中学生の段階では、こどもを持ちたい・持ちたくないよりも、まだ分からないといった状態であると考えられる。



**問7 将来、こどもを持つことについて「どちらともいえない」「どちらかといえば持ちたくない」「持ちたくない」と答えた方～それはなぜですか？～(自由記述)**

意見をカテゴリー別に分けると、以下のとおりとなり、否定的な意見の多くは、不安や想像上の負担に基づいていることが分かった。特に、お金や出産等への不安に関する意見は、家庭や社会から受け取る情報の影響が大きいと考えられる。

カテゴリー別	主な意見
①自信・責任への不安	育てられるか不安、重い責任を持ってない
②大変さ・負担感	大変そう、忙しくなる、自分の時間がなくなる
③経済的不安	お金がかかる、教育費が不安
④出産・身体的負担への不安	出産が怖い・痛そう、女性の負担が大きい
⑤こどもへの苦手意識	泣き声が苦手、こどもが好きではない
⑥社会・制度への不安	将来の社会情勢が不安、支援のあり方への疑問

※一部のみ記載

- ・今の自分には自信がないから。
- ・私自身こどもに対して苦手意識を持っていたり、こどもを持ったとして私に最後(独立立ちする)までお世話をできないと思ったからです。
- ・子育てが難しそうだから。
- ・体調不良になった時の看病ができる気がしないから。
- ・出産に不安があるから。出産が痛そう。
- ・こどもを持ったら、とても大変そうだから。
- ・別にこどもが好きじゃなわけじゃないから。
- ・こどもの相手をするのが苦手だから。
- ・忙しくなるし、お金がかかるからです
- ・親をみていると仕事、家事、子育てと自分の時間がなく大変そうだから。
- ・一人で生きたいから。子育てが大変そうだし、一人暮らし生きたいから。
- ・お金がかかりそうなのと、育てるのが大変そうだから。
- ・時間やお金がかかって自分時間が減るからです。自由に過ごしたいから。
- ・子育ては大変だから。重い責任を持てる自信がない。

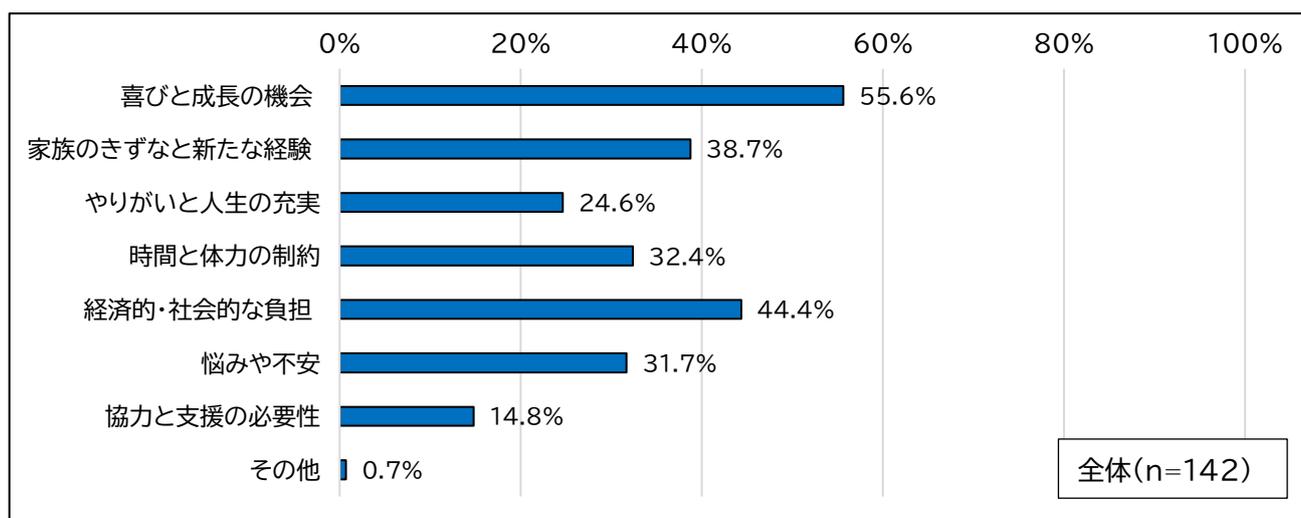
## 3-3 子育て

## (1)子育てのイメージ

問8 こどもを育てることについて、どのようなイメージを持っていますか？  
(特に当てはまるものを最大3つまで選んでください)

回答割合をみると、喜びや家族の絆などといった肯定的イメージが高いものの、経済的・社会的な負担や時間と体力の制約などといった否定的イメージも高い結果となった。

また、「協力と支援の必要性」の割合は低く、子育てを主に家庭内の負担として捉えられている可能性が示唆される。

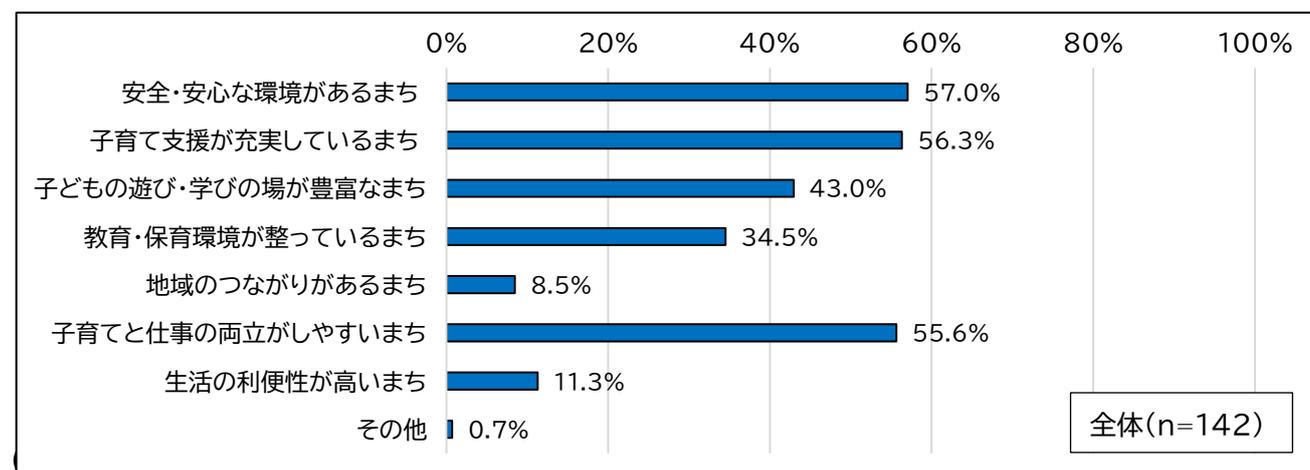


## (2)こどもを育てやすいまち

問9 あなたが考える「こどもを育てやすいまち」とは、どのようなまちですか？  
(特に当てはまるものを最大3つまで選んでください)

『安全・安心な環境』『支援の充実』『子育てと仕事の両立』などといった割合が高く、子育てのしやすさを生活基盤や制度面から捉えていることが分かる。

一方、『地域のつながり』は割合が低く、人とのつながりよりも環境・仕組みを重視する傾向が見られる。



### 問10 あなたが将来、子育てをしたら、どのような支援があると助かると 思いますか？～自由記述～

意見をカテゴリー別に分けると、以下のとおりとなる。意見として経済的支援への要望が多かったことは、進学や仕事など将来設計への不安が背景にあると考えられる。

また、社会構造や制度に対する意見も多く、非常に現実的な視点を持っていることが特徴的であった。

カテゴリー別	意見要約
①経済的支援への要望(最も多い)	こどもに係る費用の無償化、児童手当の増額
②預かり・保育・居場所の支援	預かり施設の充実、遅くまで預けられる保育園
③相談・精神的支援	いつでも相談できる、親子同士が繋がれる場
④遊び・学びの環境整備	公園・図書館の充実
⑤仕事との両立支援	休みが取りやすい職場
⑥社会全体への問題意識	経済格差、奨学金負担、ブラック企業への不安

#### ※一部のみ記載

- ・高校、大学、専門学校の学費無償化。お金を貰える支援。経済的支援。
- ・急な用事ができたときに預けられる施設が欲しい。
- ・家の近くに、遊べる場所を沢山作って欲しい。
- ・こどもを育てるうえで不安なことなどを一緒に解決する施設。子育てについて相談できる場所がある。
- ・今、公園でボール遊びをすると怒られる。道路も怒られる。お年寄りのゲートボールは良いのにおかしいと思います。たまるなとか、みんなで遊びたいだけなのに。
- ・こどもを理解しようとせず、邪魔扱いする大人が多すぎる。中学生、高校生も思いっきり遊べる施設も作って欲しいです。
- ・近くに図書館が欲しい。
- ・こどもの病気の時はそばにいてやれる。
- ・放課後児童クラブなどこども達が過ごしやすいものを手軽にできる。
- ・こども手当の増額。高校生も医療費タダ。
- ・こどもが安全に歩けるように、交通安全の見守り。
- ・子育てをしている人は仕事の時間が少し少なくなるとか。
- ・仕事の休みが増える。
- ・親同士こども同士がいろんな遊びをしてたくさん触れ合える場所があると落ち着くことができ、より多くの方が笑顔溢れる生活を送ることができると思う。
- ・児童手当を増やして欲しい。給食費を無償化して欲しい。制服の無償化。
- ・共働きでもこどもがたのしく過ごせるような環境。
- ・ブラック企業が減って仕事分の給料がもらえるってなったら良いと思います。
- ・将来子育てをする時、すぐに何でも相談出来る窓口や場所があるといいと思いました。

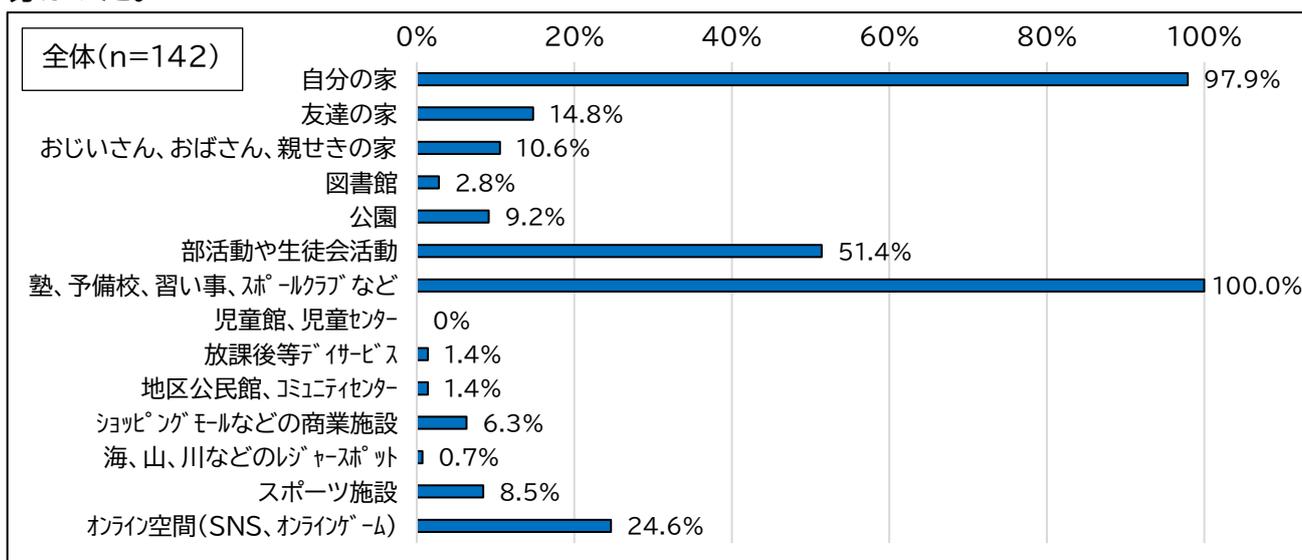
### 3-4 居場所

#### (1)放課後

##### 問 11 放課後、あなたはどこで過ごすことが多いですか？(複数選択可)

中学生の放課後の居場所としては、塾や習い事、自分の家などが突出して高い結果となったが、公共施設(図書館・児童館・公民館)や公園などの割合は極めて低い結果となった。

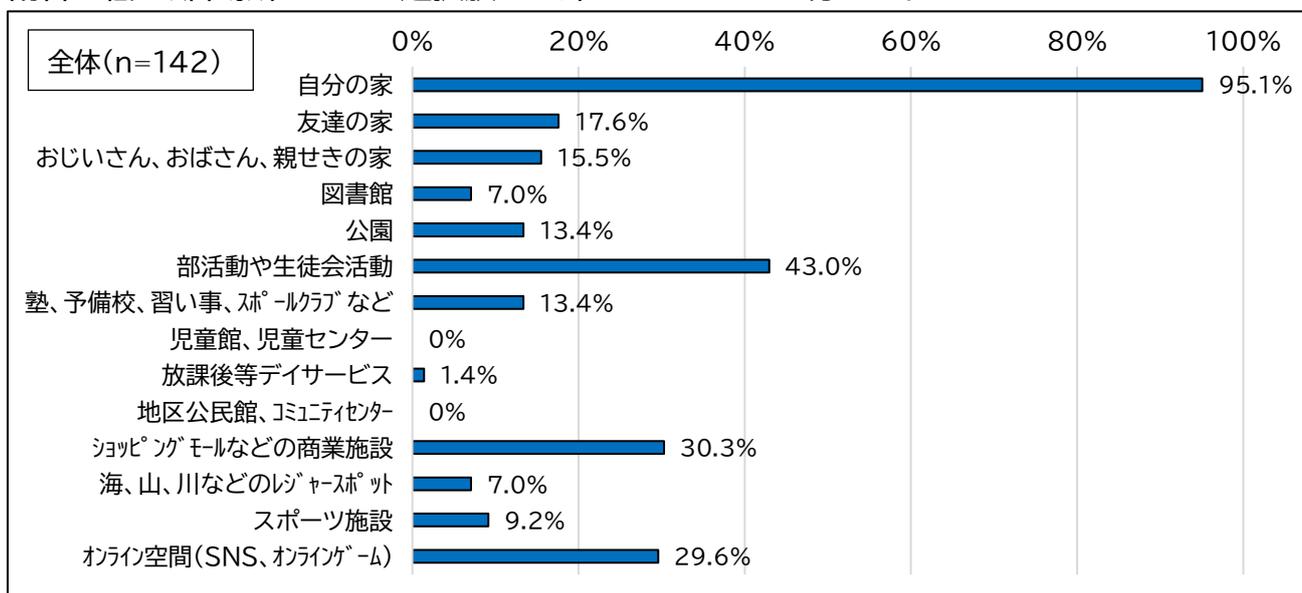
また、オンライン空間の割合はある程度高く、放課後が限られた空間に集中していることが分かった。



#### (2)休日

##### 問 12 休みの日、あなたはどこで過ごすことが多いですか？(複数選択可)

休日の居場所としては、放課後と同様に自分の家の割合が高く、部活動や商業施設、オンライン空間の割合も高い結果となった。また、放課後同様に公共施設(図書館・児童館・公民館)の割合は低く、居場所としての選択肢から外れていることが分かる。

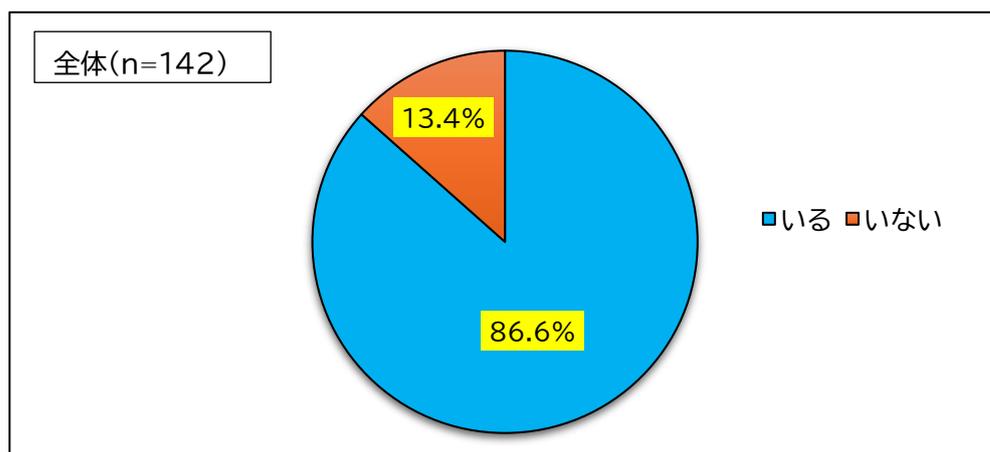


## 3-5 悩み相談

## (1)相談相手

## 問 13 困っている時や、悩んでいる時に相談できる人はいますか？

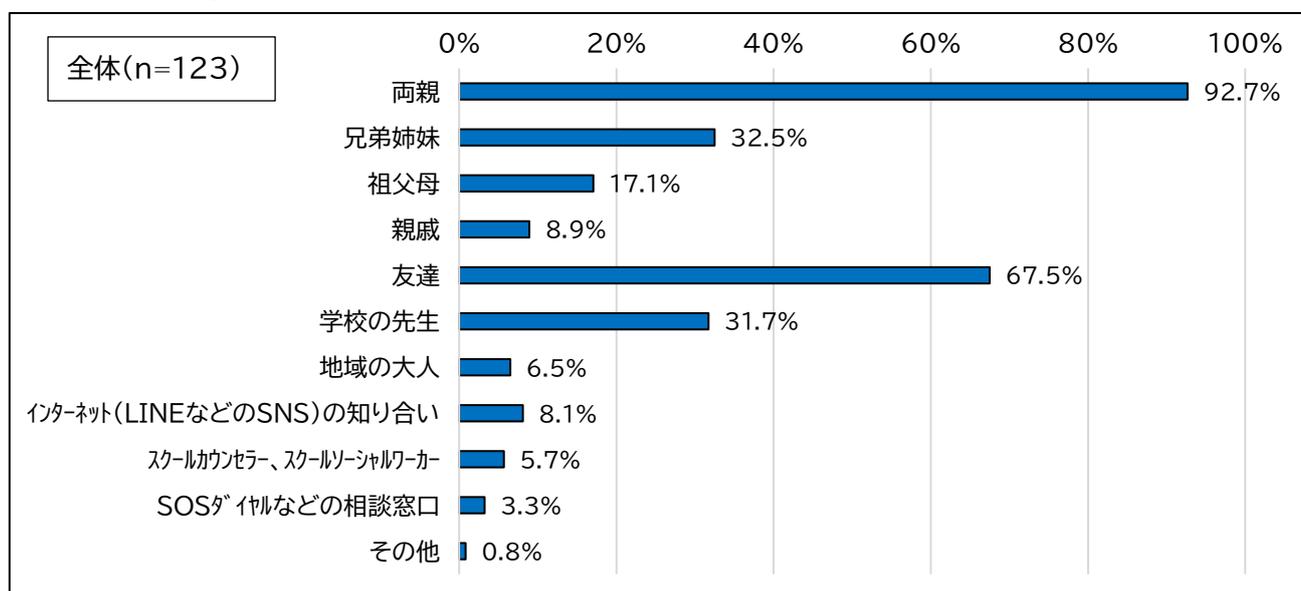
8割を超える中学生が相談できる人は「いる」と回答しており、一定の相談環境が確保されていると判断できるが、一方で、少数ではあるものの、約1割は相談できる人が「いない」と回答された。



## 問 14 困っている時や、悩んでいる時に相談できる人は「いる」と答えた方～それは誰ですか？～(複数選択可)

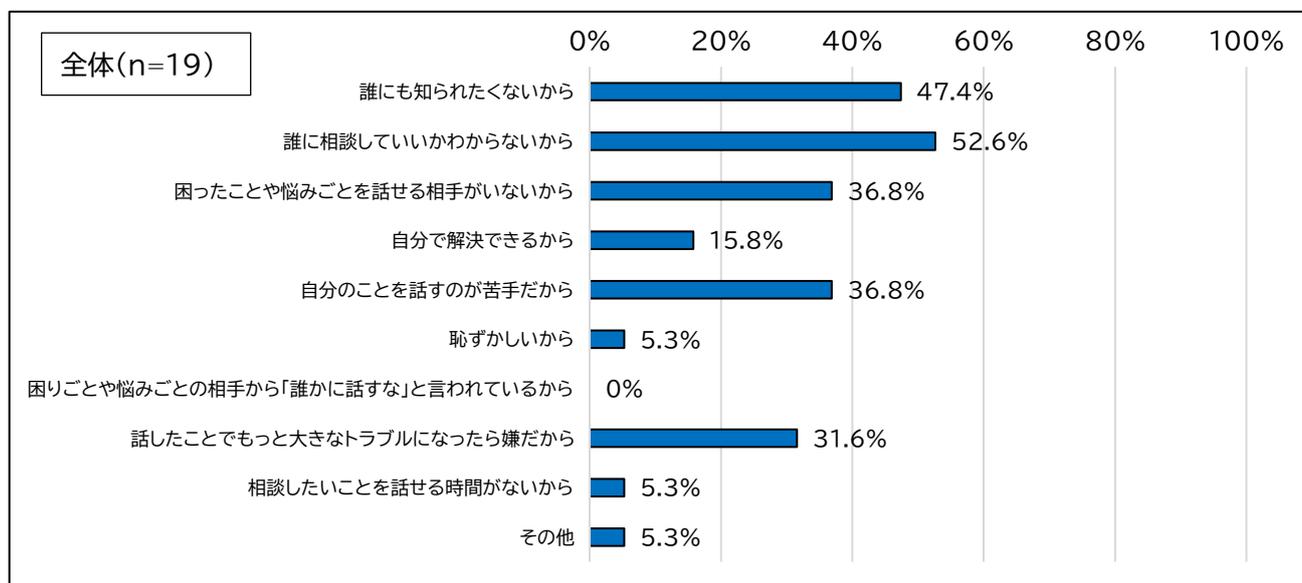
回答割合をみると、中学生の相談相手の中心は、「両親」と「友達」であることが分かった。また、学校の先生は一定数選択されているものの、専門職(スクールカウンセラー等)や公的相談窓口の利用は非常に少ない。

一方で、インターネット上の知り合いなど、直接対面しない相談先を選択する中学生も一定数いることが分かった。



問15 困っている時や、悩んでいる時に相談できる人はいますか？  
「いない」と答えた方～その理由は何ですか？～

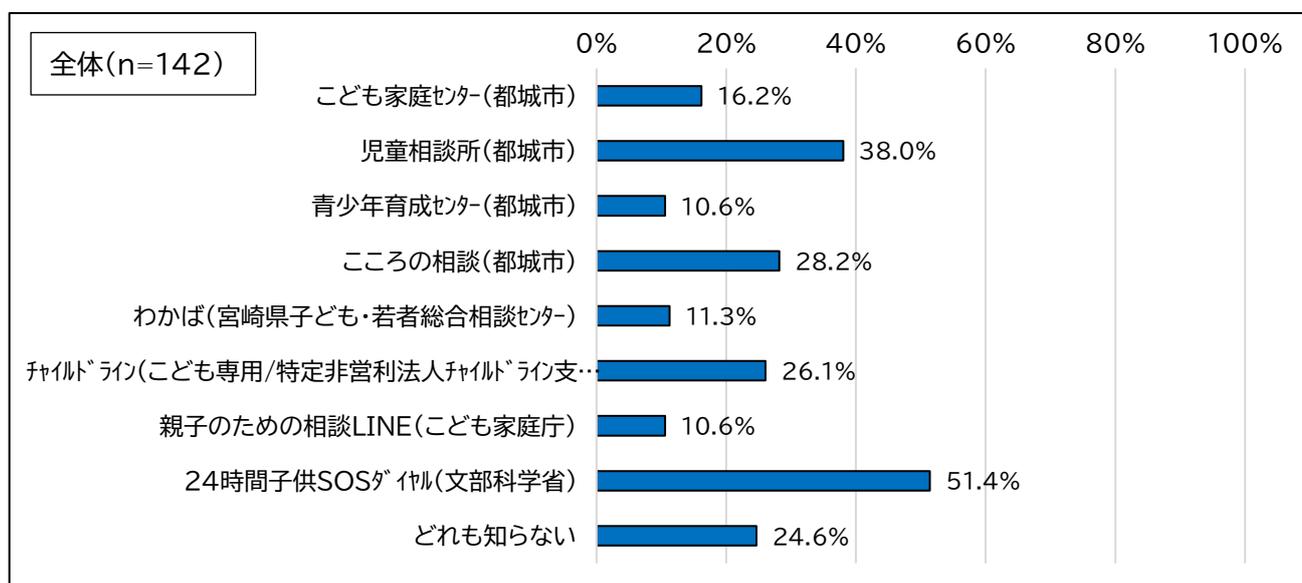
「誰に相談していいかわからないから」と回答した割合が最も高い結果となった。  
また、話すこと自体への心理的抵抗に回答が集中していることから、不安や恐れなどが相談行動を阻害していることが分かる。



(2)相談窓口の認知度

問16 あなたは、次のような相談窓口を知っていますか？  
知っているものを選んでください(複数選択可)

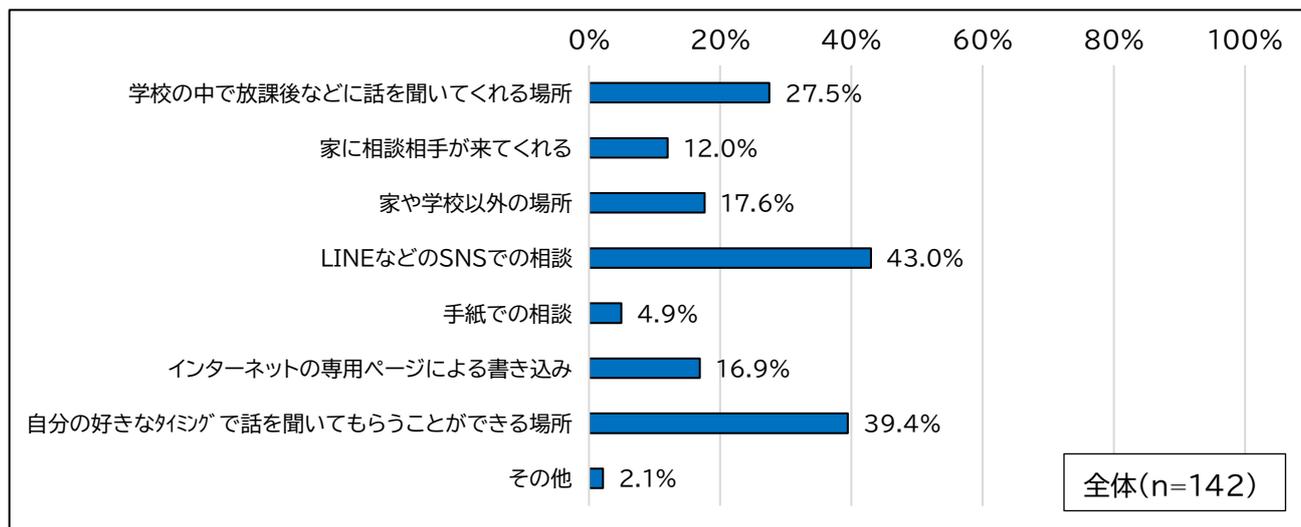
回答割合をみると、国の相談窓口(SOSダイヤル)は比較的認知されている一方、自治体独自の相談窓口の認知度は低い。また、約4人に1人が「どれも知らない」と回答しており、相談窓口の情報が十分に届いていないことが分かった。



## (3)希望する相談場所や方法

問 17 あなたが困ったり悩んだりしたとき、何でも相談できるとしたら、どんな場所や方法だったら話がしやすいですか？（複数選択可）

中学生が求めている相談方法としては、非対面や自分のペースなどを重視していることが分かる。また、時間や場所などが決められた対面相談よりも、気持ちが生じた瞬間に相談できる手段が求められていることが分かる。



## 3-6 自由意見

問 18 都城市がもっといいまちになるために、やってほしいことや思うことはありますか？（自由記述）

以下は、いただいた意見の一部を記載したものである。

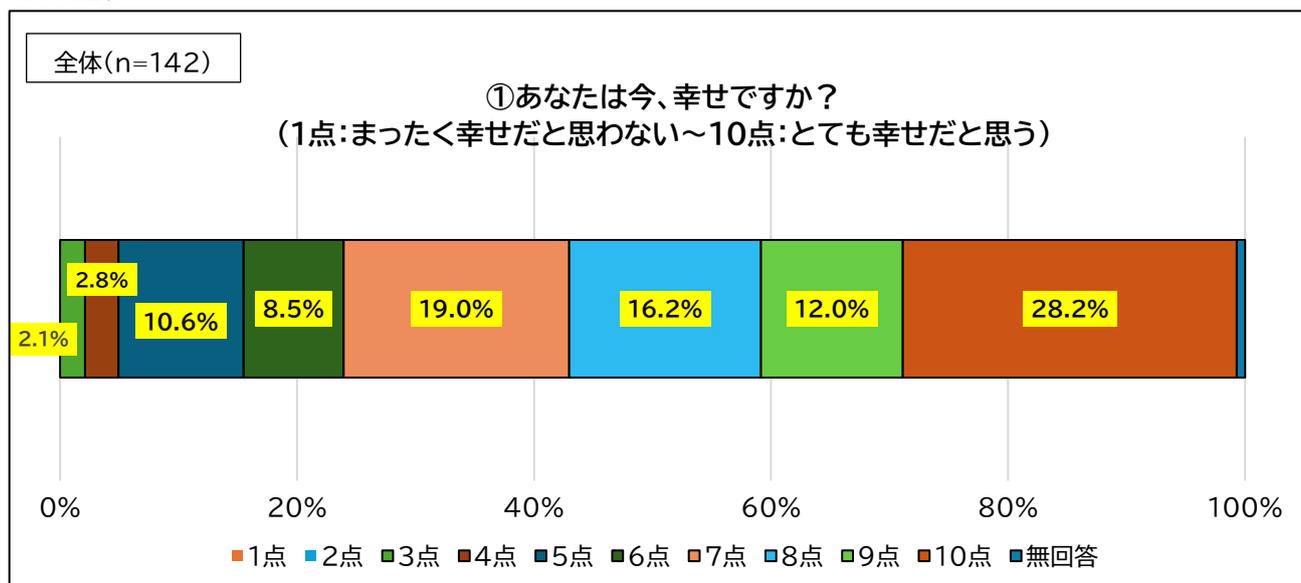
- ・年齢問わず遊べる施設を町中に作ってほしい。
- ・ガタガタの道路をきれいにしてほしい。
- ・登下校中の見守り隊のおじいさん達が減ってきた。(小学生をみて思った、車通りが多いから危ない)
- ・夏休みにこども達だけでも遊べる場所が近くに欲しい。
- ・悩んでいる人に真摯に向き合い、その人の苦しみを一緒に解決して行って欲しいです。
- ・学生が雨でも楽しく過ごせる遊べる施設。友達と気軽に行きたくてゆっくり話しながら過ごせる施設。
- ・図書館を増やして欲しい。大型ショッピングモールが欲しい。
- ・ゴミ拾い活動をして欲しい。
- ・全ての学校のトイレを洋式にしてほしい。トイレが汚くて学校でトイレをするのを我慢しています。他の友達も我慢してトイレに行かない人がたくさんいます。小学生の妹や妹の友達もそうです。
- ・図書館は高校生や大人が使っていて集中できないので学校に自習室を作って。

## 3-7 幸福度

問 19 次の質問について、1(最小)から 10(最大)の間で教えてください。

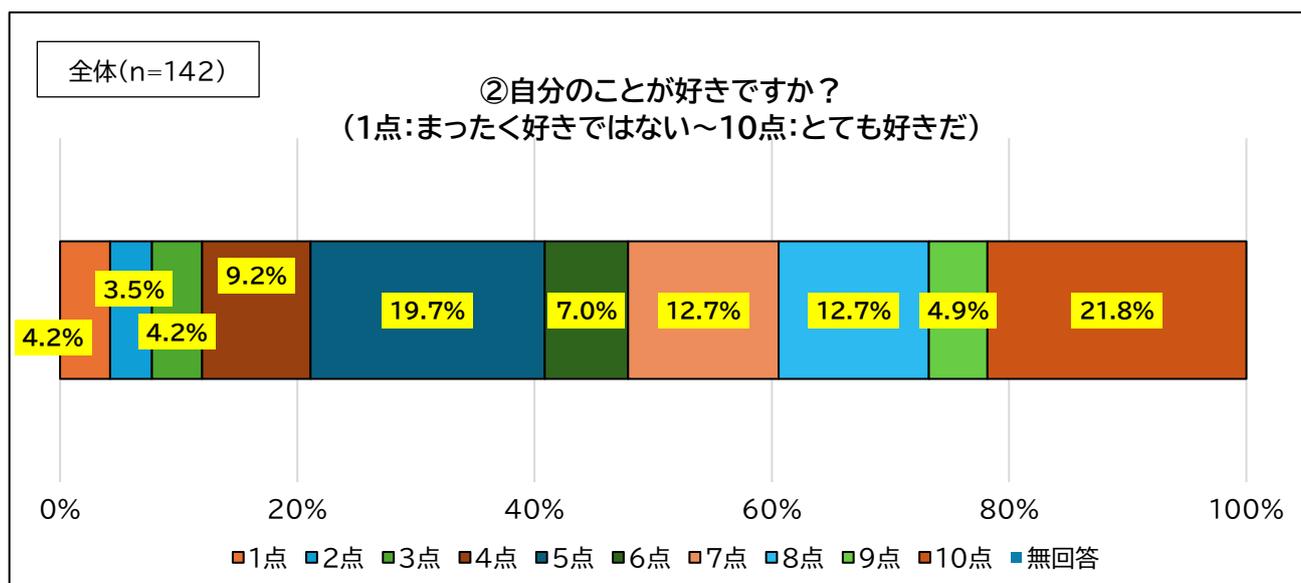
## ①あなたは今、幸せですか？

「10点」が28.2%と最も高く、次いで「7点」が19.0%であり、平均点をみると、7.7点であった。



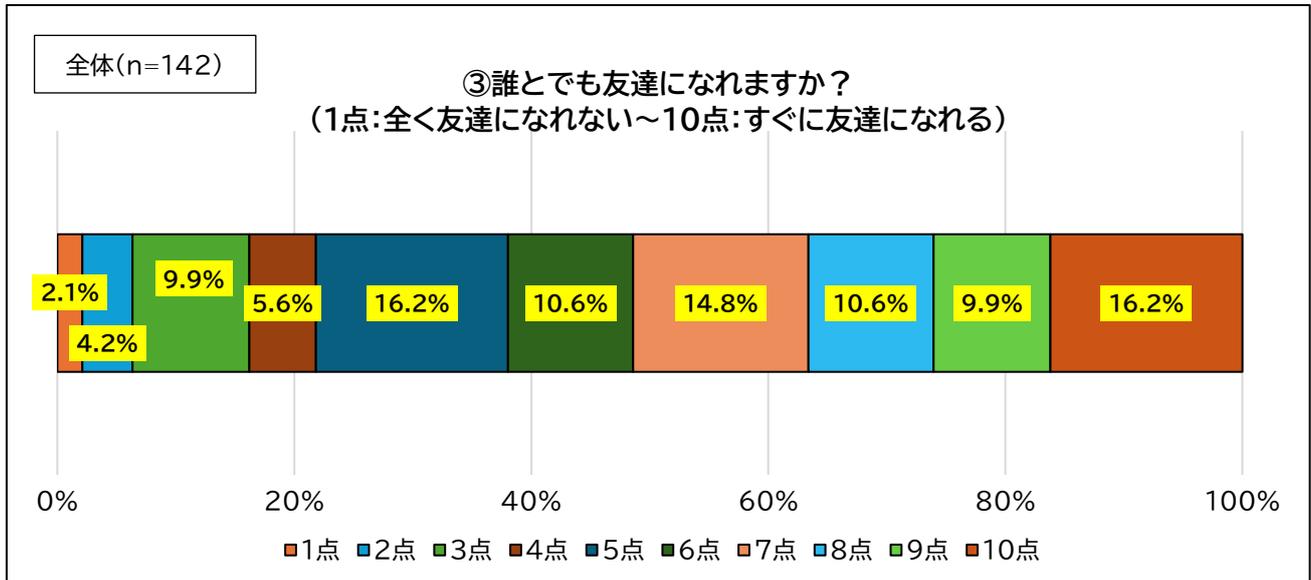
## ②自分のことが好きですか？

「10点」が21.8%と最も高く、次いで「5点」が19.7%であり、平均点をみると、6.5点であった。



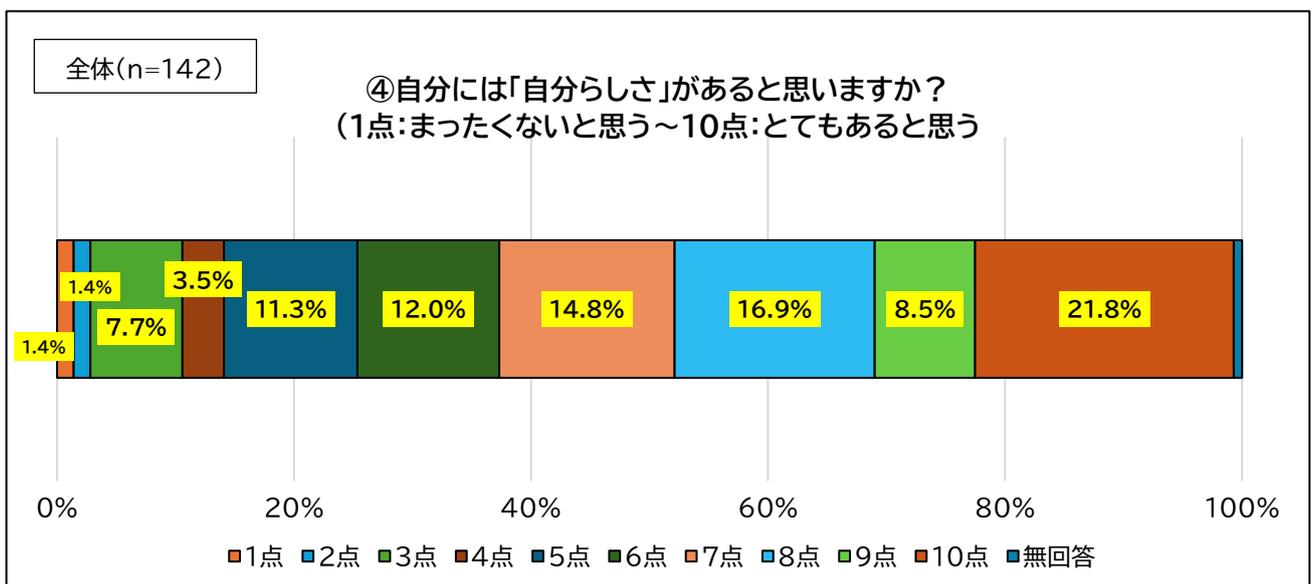
③誰とでも友達になれますか？

「10点」、「5点」が16.2%と最も高く、次いで「7点」が14.8%であり、平均点をみると、6.4点であった。



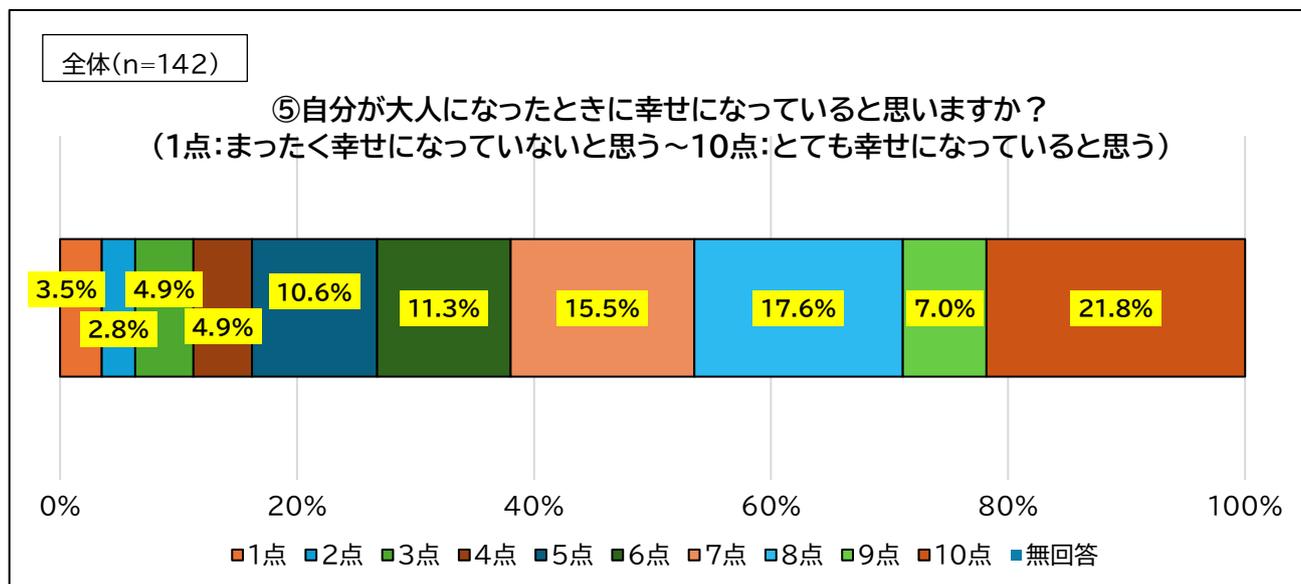
④自分には「自分らしさ」があると思いますか？

「10点」が21.8%と最も高く、次いで「8点」が16.9%であり、平均点をみると、7.0点であった。



⑤自分が大人になった時に幸せになっていると思いますか？

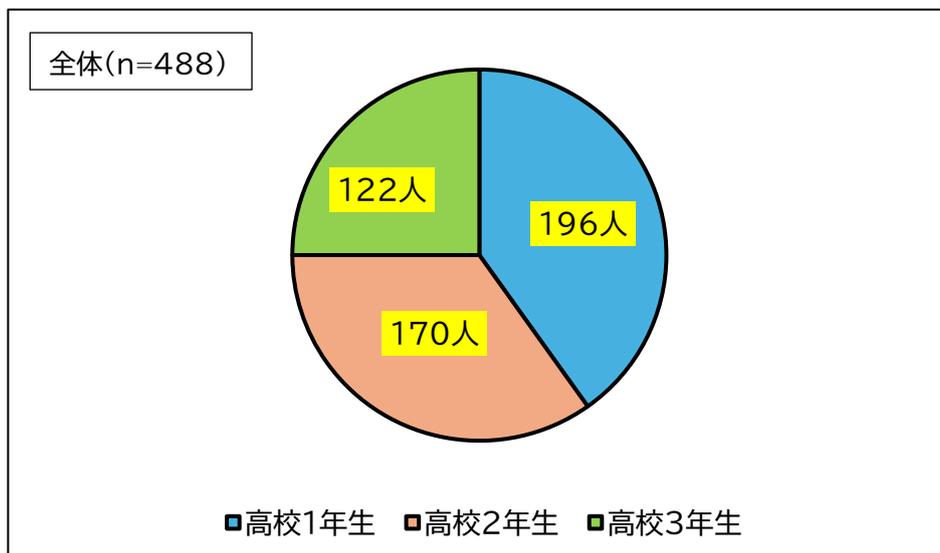
「10点」が21.8%と最も高く、次いで「8点」が17.6%であり、平均点をみると、6.9点であった。



## 第4章 調査結果(高校生)

### 4-1 対象者属性

○ 学年

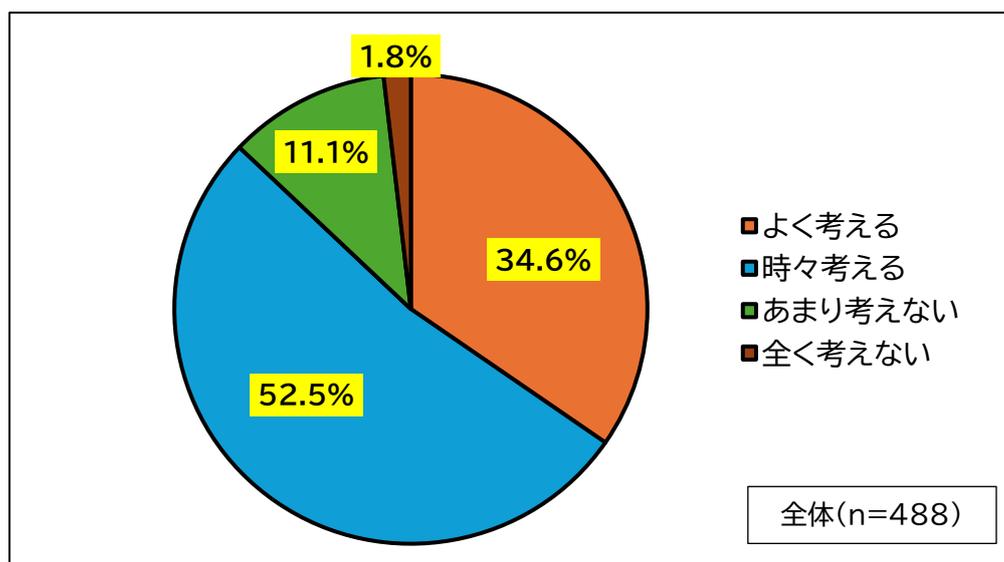


## 4-2 自分の将来

## (1)考える機会

## 問4 将来の自分について考えたことはありますか？

「よく考える」「時々考える」の回答割合を合わせると8割以上であり、多くの高校生が将来について一定の関心を持っていることが分かる。

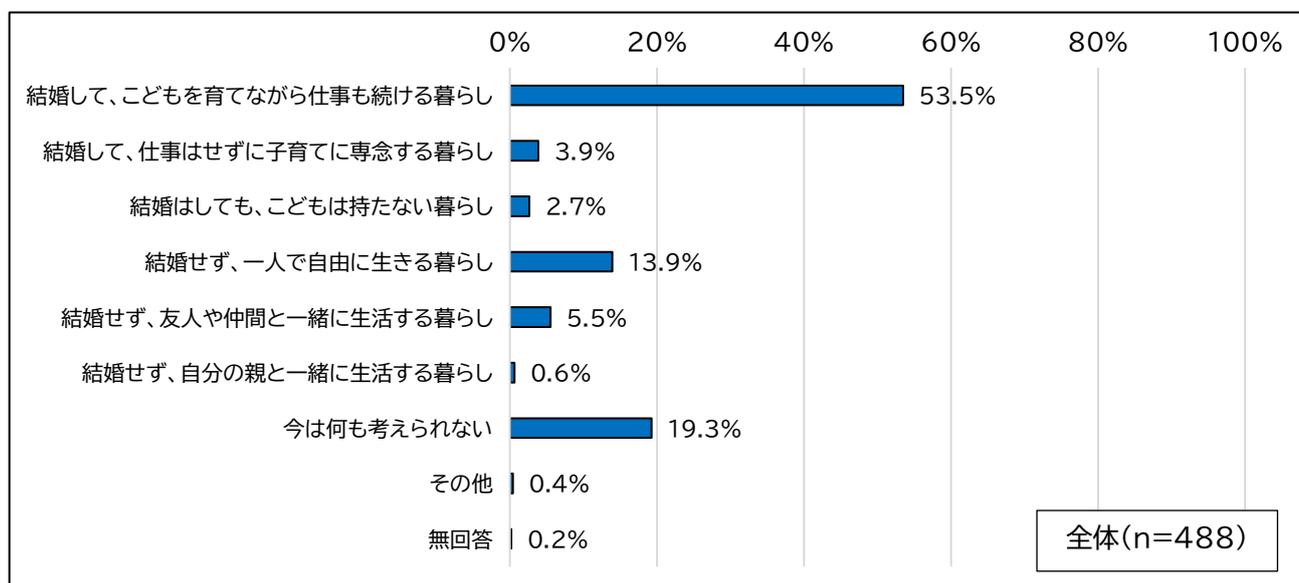


## (2)暮らし

## 問5 将来、どのような暮らしをしたいと思いますか？

回答割合として、最も高かったのは「結婚して、子どもを育てながら仕事も続ける暮らし」であり、理想像としては家庭と仕事の両立を望んでいることが分かった。

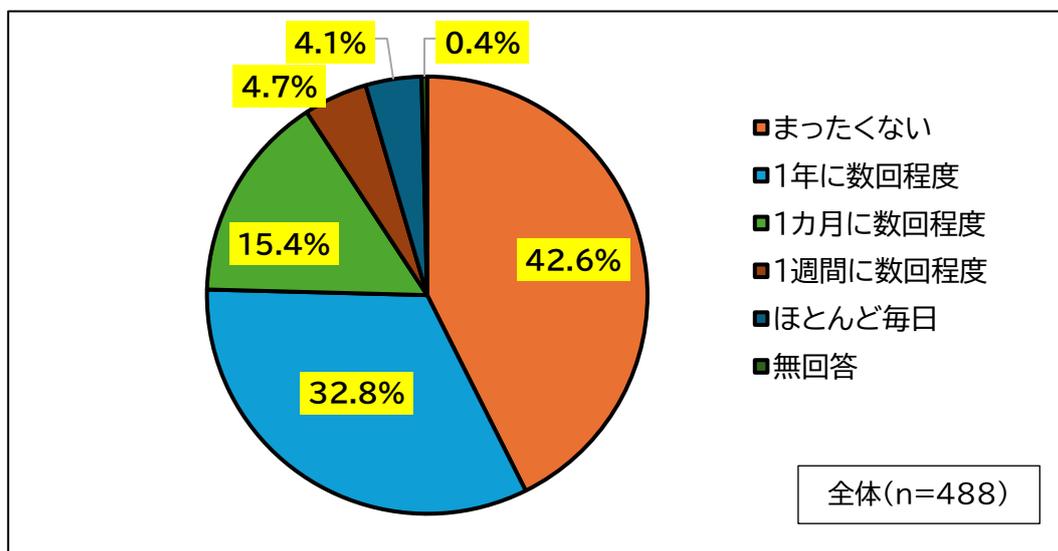
一方で、「今は何も考えられない」が約2割を占め、将来像を明確に描けない高校生も少なくない結果となった。また、非婚志向・単身志向・仲間との生活など、価値観の多様化が表れている。



## (3)こども

## 問6 普段、兄弟姉妹以外で赤ちゃんや小さなこどもと触れ合う機会はありますか？

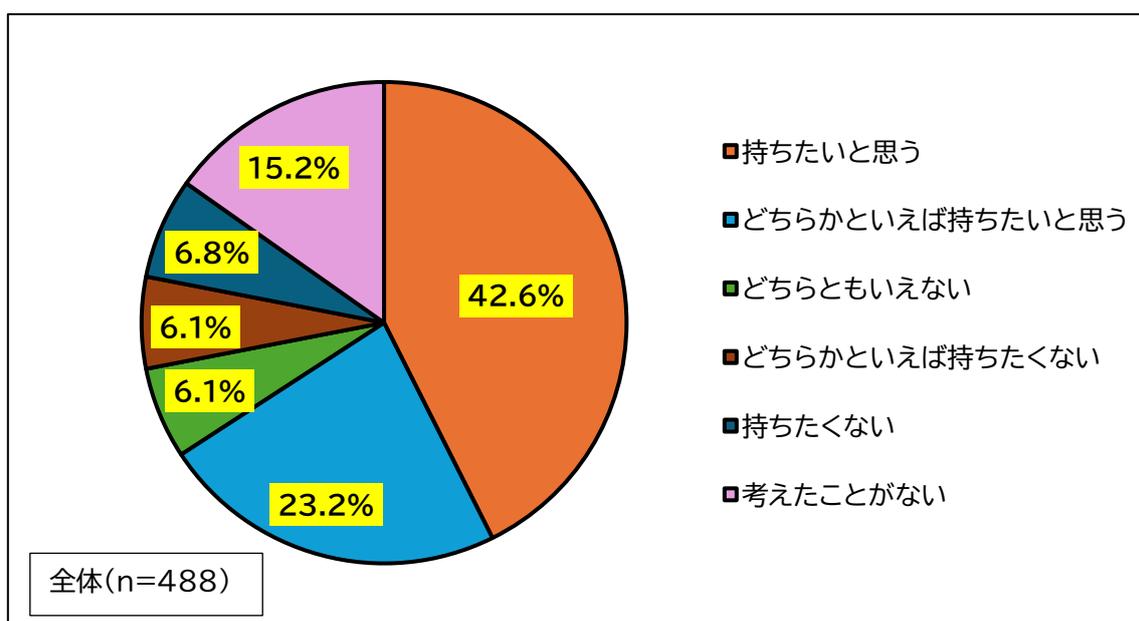
7割以上の高校生が「まったくない」「1年に数回程度」と回答しており、日常的に乳幼児と関わる経験が極めて少ないことが分かった。



## 問7 将来、こどもを持ちたいと思いますか？

回答割合をみると、こどもを持つことに前向きな層は多数いるが、約3分の1は消極的または未検討という結果となった。

また、「考えたことがない」が一定数存在しており、将来設計としてこどもを持つことが選択肢に入っていない層が確認できる。



**問8 将来、こどもを持つことについて「どちらともいえない」「どちらかといえば持ちたくない」「持ちたくない」と答えた方～それはなぜですか？～(自由記述)～**

意見をカテゴリー別に分けると、以下のとおりであり、否定的な意見の多くは、こどもが嫌いという単純な理由ではなく、不安や責任、お金などに起因している。特に、こどもに不幸な思いをさせたくないなどといった記述が多く、非常に慎重で誠実な価値観がうかがえる。

カテゴリー別	主な意見
①自信・責任への不安	育てられる自信がない、責任を負えない
②大変さ・負担感	自分の時間がなくなる
③経済的不安	お金がかかる、将来の物価高・教育費が不安
④出産・身体的負担への不安	出産が怖い、痛みに耐えられない
⑤こどもへの苦手意識	小さい子が苦手、接し方がわからない
⑥社会・制度への不安	将来が不透明、支援が少ない、メリットを感じない

**※一部のみ記載**

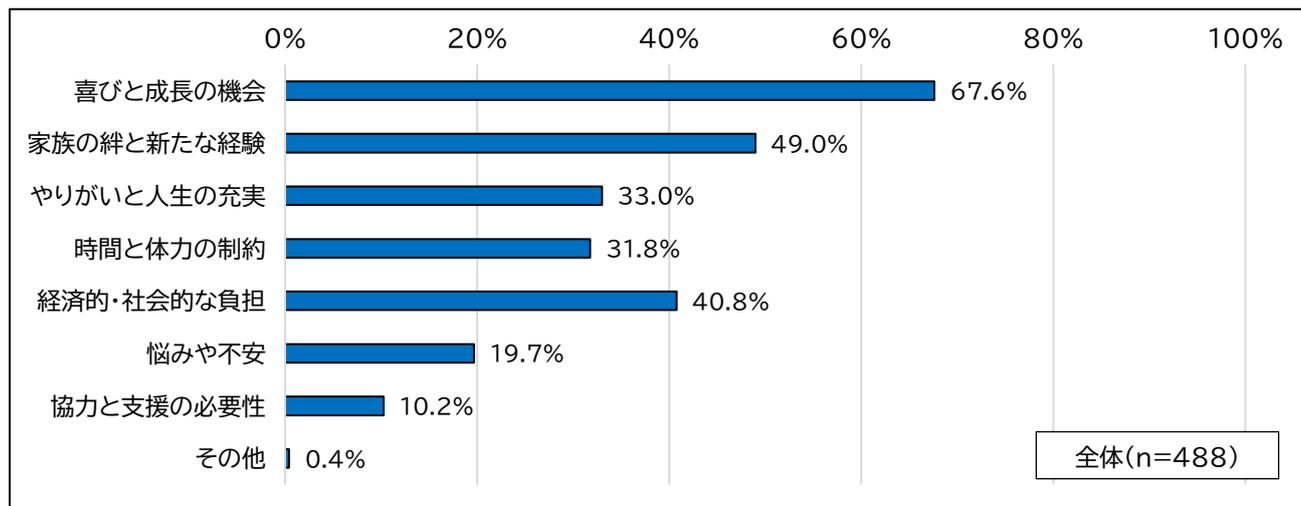
- ・産む際の痛みに耐えられない、出産が怖いから。
- ・小さい子が苦手だから。こどもが得意ではないし面倒に感じそう。
- ・責任を背負いたくないから。
- ・こどもは持ちたいと思ったことがあるけど、子育てが大変そうだし、こどもに対してストレスを感じて育児放棄などにはしたくないから。
- ・一人でのんびり暮らしたい。自分の時間を減らされるのが嫌。
- ・こどもが好きじゃない。こどもを持ちたいと思わないから。
- ・仕事をたくさんしたいから。こどもができれば自分のしたいことが簡単にできなくなるから。
- ・こどもをちゃんと育てられる自信がないから。
- ・生活するのにお金が必要だけど、こどもを育てるとなるとお金が大量に必要なようになるから。
- ・結婚する気が無いから。別にこども欲しいと思ったことがないから。
- ・親としての責任を果たせないと思うから。
- ・こどもを育てることは決して簡単ではないと思うし、自分の人生を大切にしたいから。
- ・金銭的な支援が少ないから。
- ・こどもを持つことにメリットを感じないから。
- ・今は物価高な時代で、私が大人になるときにはもっと悪化しているかもしれないので嫌です。金銭面に余裕がないのに、無理してこどもを産んでそのこどもを苦労させることは絶対にしたくないです。

## 4-3 子育て

## (1)子育てのイメージ

問9 こどもを育てることについて、どのようなイメージを持っていますか？  
(特に当てはまるものを最大3つまで選んでください)

高校生は、子育てを喜びや家族の絆などといった前向きなものとして捉えている一方で、経済的負担や時間的制約に対する不安を抱えていることが分かった。子育ての価値は理解しつつも、現実的な負担感が将来像に影響していることが予想される。

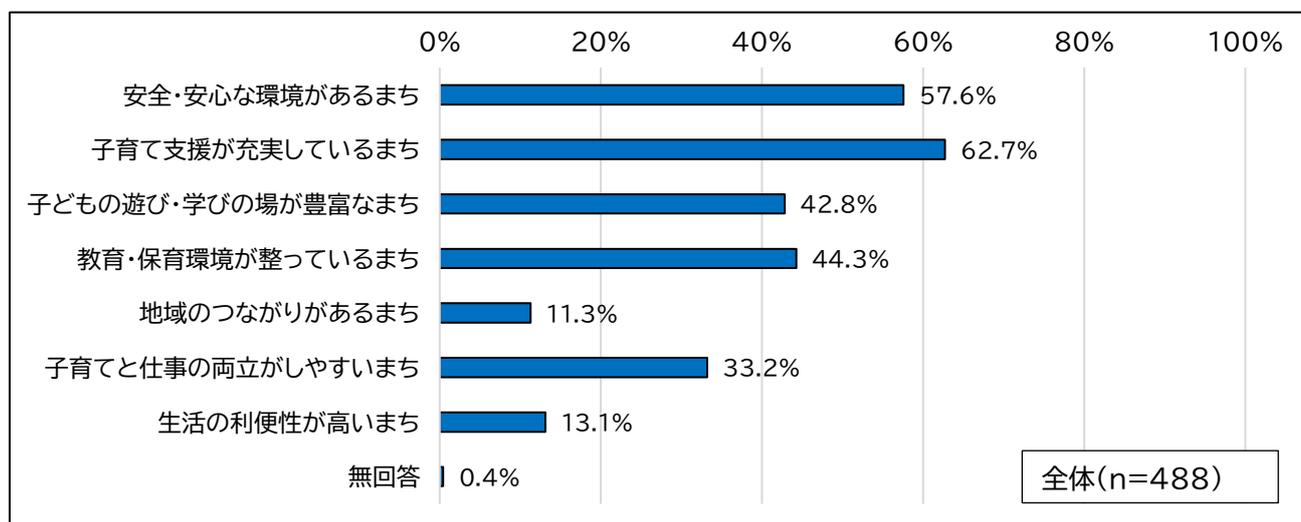


## (2)こどもを育てやすいまち

問10 あなたが考える「こどもを育てやすいまち」とは、どのようなまちですか？  
(特に当てはまるものを最大3つまで選んでください)

回答割合が最も高かったのは、「子育て支援が充実しているまち」であったことから、高校生は子育てをまち全体で支えるものとして捉えており、制度・公的支援の充実さが重要であることが分かる。

また、「地域のつながりがあるまち」の回答が比較的少ない点から、人とのつながりよりも制度・環境面の整備を重視する傾向が読み取れる。



**問 11 あなたが将来、子育てをしたら、どのような支援があると助かると  
思いますか？～自由記述～**

意見をカテゴリー別に分けると、以下のとおりとなる。高校生が求める将来の子育てに必要な支援としては、経済的支援を求める意見が圧倒的に多く、保育施設の充実や、相談できる環境づくりなども挙げられた。

高校生は、子育てを現実的な生活課題として捉えており、安心して子どもを産み育てられる環境整備が重要であることが示された。

カテゴリー別	意見要約
①経済的支援への要望(最も多い)	子どもに係る費用の無償化、支援金
②預かり・保育・居場所の支援	一時預かり、病児保育、夜間・休日対応
③相談・精神的支援	いつでも相談できる場所、親の息抜き、孤立防止
④遊び・学びの環境整備	放課後・休日に過ごせる場所、学習・体験の場の充実
⑤仕事との両立支援	子育てと仕事の両立がしやすい

**※一部のみ記載**

- ・待機児童ができないようにする子供を預かる施設の充実。
- ・どこでもすぐに入れる幼稚園、保育園。
- ・働きながら子育てできたり、経済的なところで支援があると助かります。学校のお金が軽減される。
- ・放課後、遊びや勉強ができる場所がほしい。学びの場が豊富。
- ・子育てをするうえでの仕事との両立が難しいときの職場の支援。
- ・イオンだけではなく、大型のショッピングモールや遊ぶところなどがあつたらいいと思う。
- ・子ども同士の好きなことでの交流会があつたりすると良いと思います。
- ・子育てと仕事の両立ができるようになる支援。子供が誰にも邪魔されずに遊べる場所。
- ・支援金の配布や、児童相談所がいっぱいあればとても助かると思う。
- ・保育園・幼稚園・小・中学校や高校のお金面の免除や支援。
- ・いつでも相談できて、子供をすぐに預けやすい環境。
- ・保育園は基本的日曜日や祝日は子供を見てくれないため、預かりセンターなど助かる。
- ・幼稚園から大学まで授業料無料、医療費高校生まで無料。
- ・支援金支給のような経済的な支援。

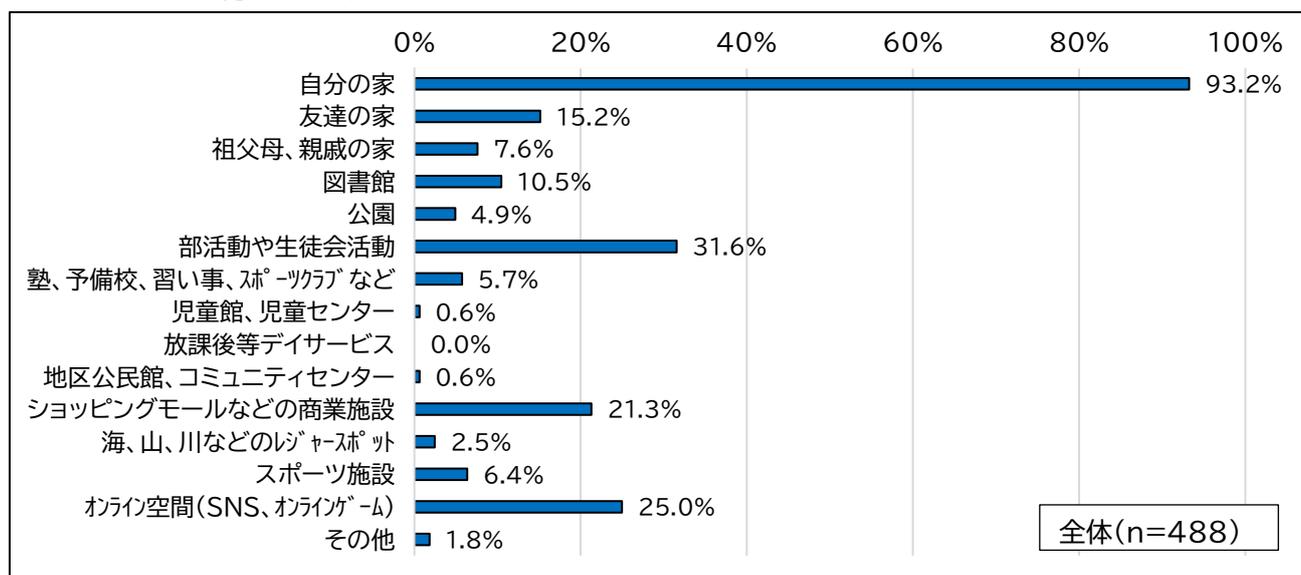
## 4-4 居場所

## (1)放課後

## 問 12 放課後、あなたはどこで過ごすことが多いですか？(複数選択可)

回答として、「自宅の家」が約9割を占めていることから、学校から地域へ直接移動するのではなく、帰宅後に個別・私的な空間で過ごす傾向が強いことが分かる。

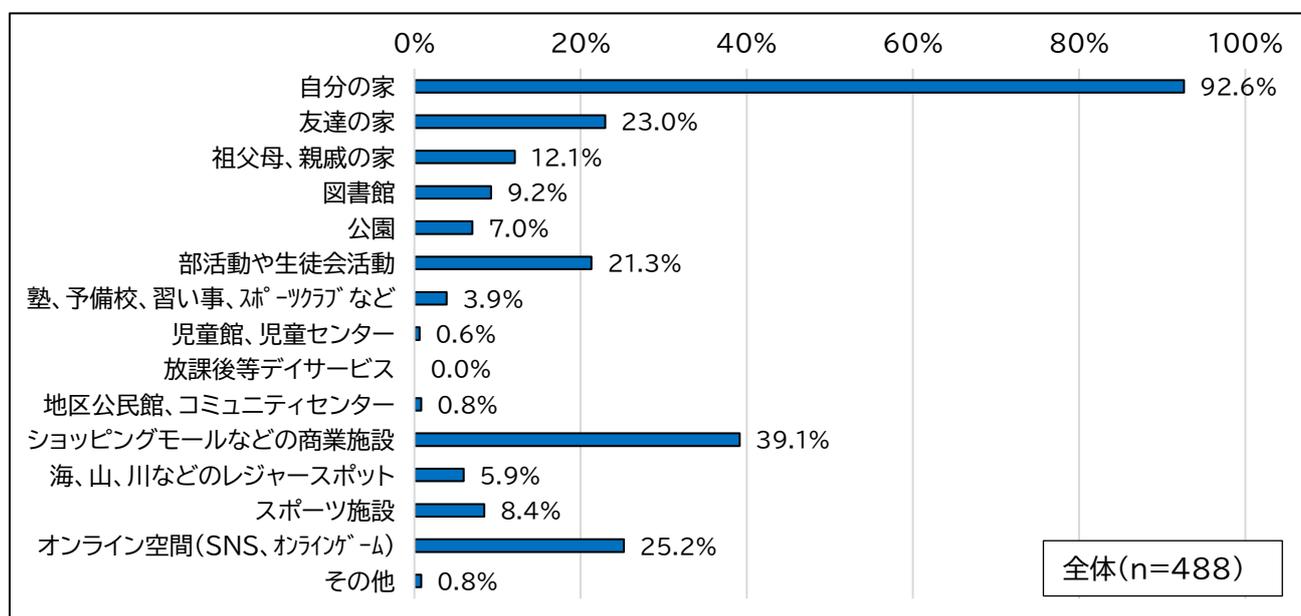
また、公共施設(公民館や児童館等)の割合は低いのに対して、商業施設の割合は高くなっている。なお、オンライン空間の割合が高いことから、放課後の居場所としてデジタル空間が定着していることも分かった。



## (2)休日

## 問 13 休みの日、あなたはどこで過ごすことが多いですか？(複数選択可)

回答として、放課後同様に休日も「自分の家」が最多である一方、商業施設の利用が大きく増加している点が特徴的である。

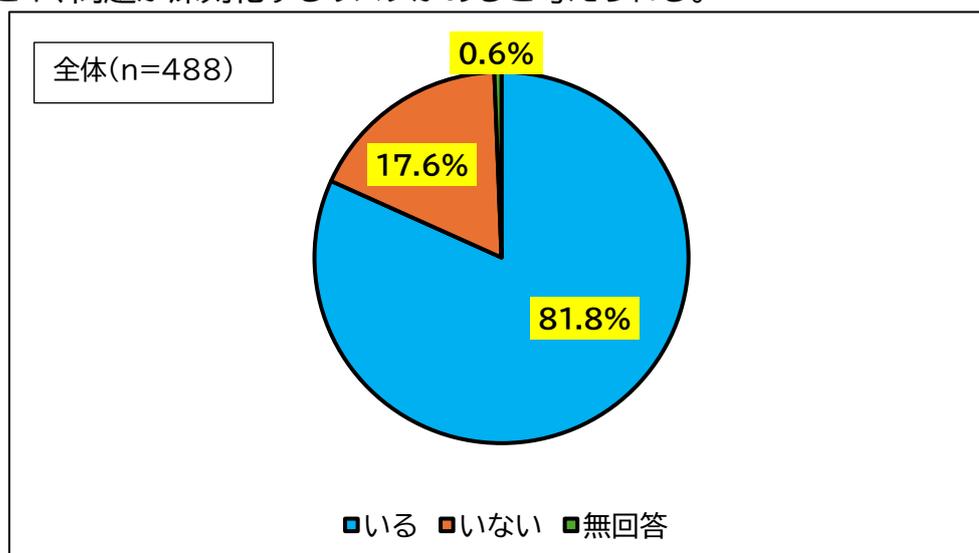


## 4-5 悩み相談

## (1)相談相手

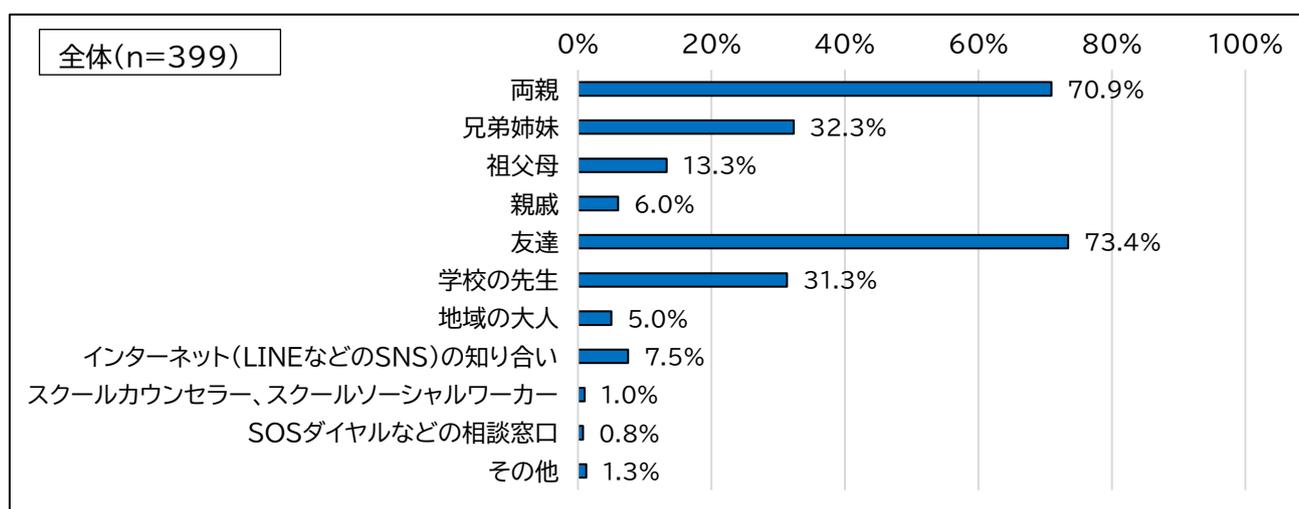
## 問 14 困っている時や、悩んでいる時に相談できる人はいますか？

約8割の高校生は相談できる人が「いる」と回答しているものの、約2割が相談できる人が「いない」と回答しており、決して少なくない割合である。この層は、悩みを抱えた際に孤立してしまうことや、問題が深刻化するリスクがあると考えられる。

問 15 困っている時や、悩んでいる時に相談できる人は「いる」と答えた方  
～それは誰ですか？～(複数選択可)

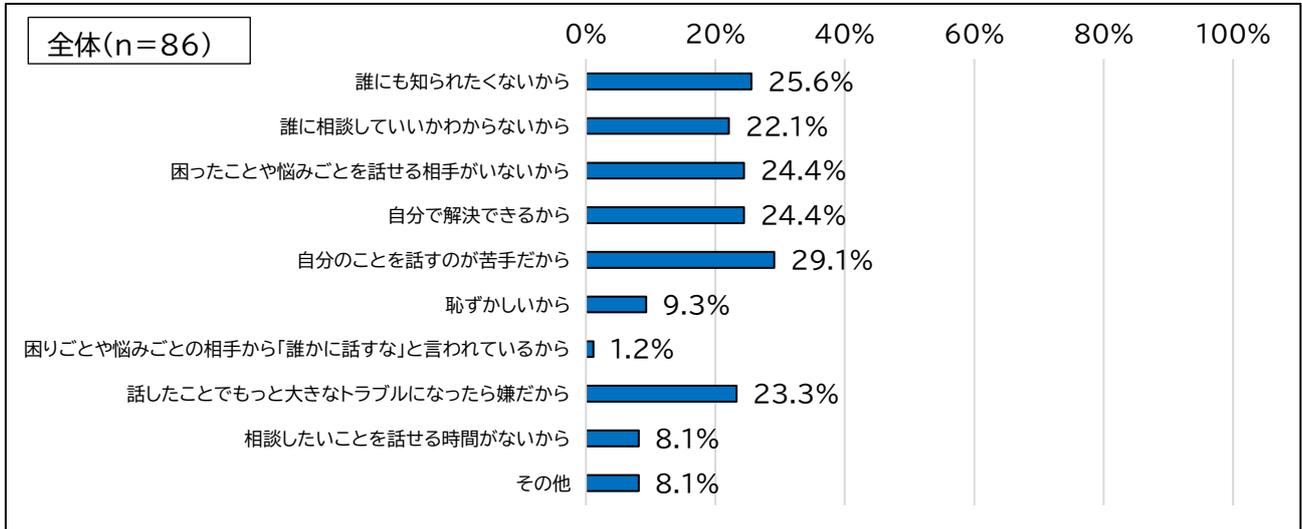
回答としては、「友達」「両親」の割合が高く、日常的な人間関係の中で相談が完結している傾向にあることが分かる。また、「学校の先生」は約4人に1人が選択しているが、友達や家族に比べると優先度は低い。

なお、専門的相談先(スクールカウンセラー等)の割合は極めて低いことから、高校生は制度よりも関係性を重視して相談先を選んでいることが予想される。



問16 困っている時や、悩んでいる時に相談できる人はいますか？  
「いない」と答えた方～その理由は何ですか？～

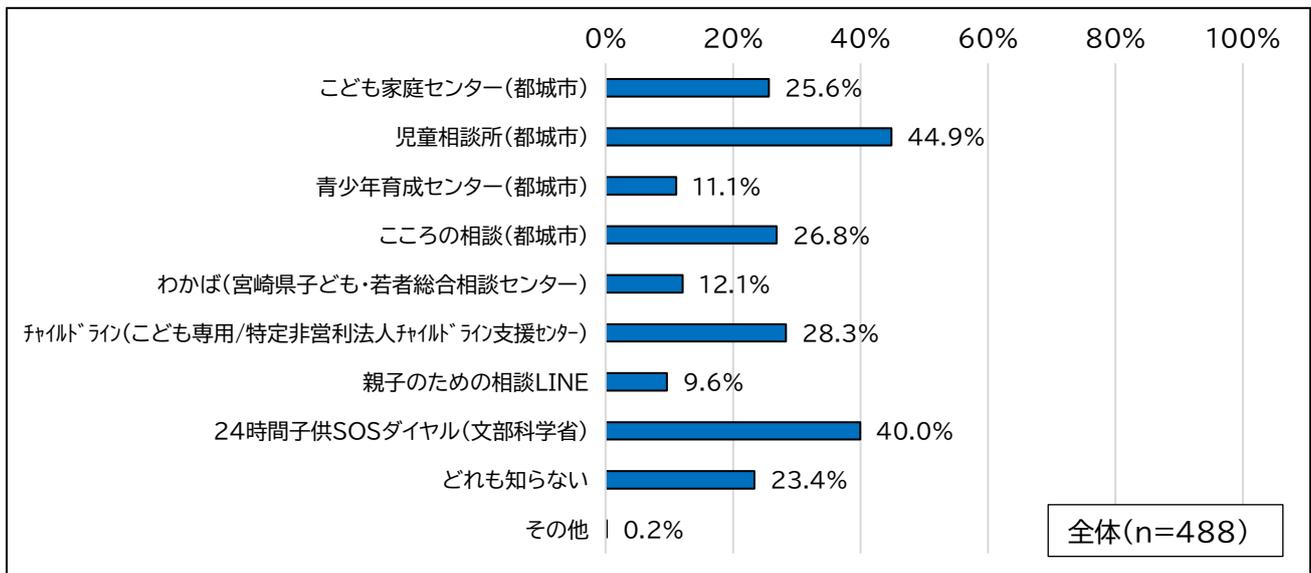
回答として、『話すのが苦手』『知られたくない』『恥ずかしい』など、相談行為そのものへの抵抗感が強いだけでなく、「誰に相談していいかわからない」という回答も一定数あり、相談窓口の見えにくさが示唆される。



(2)相談窓口の認知度

問17 あなたは、次のような相談窓口を知っていますか？知っているものを選んでください(複数選択可)

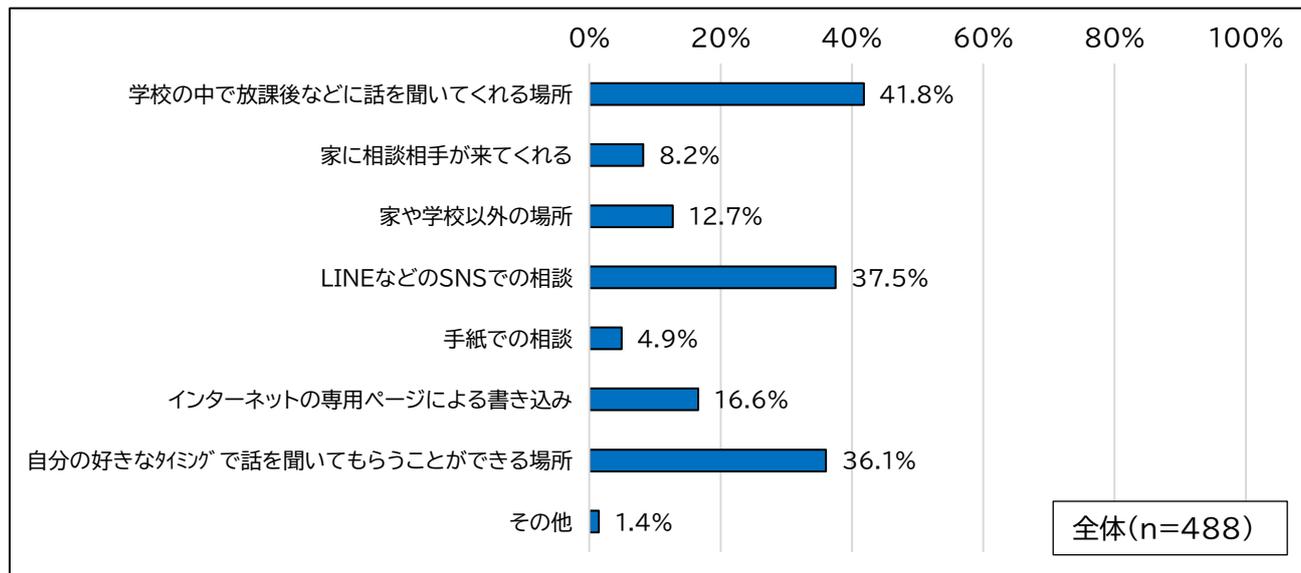
回答割合として、SOSダイヤルや児童相談所などの認知度は一定程度あるが、約4人に1人は「どれも知らない」と回答しており、相談窓口の存在自体が届いていない層が一定数存在することが分かった。



## (3)希望する相談場所や方法

問 18 あなたが困ったり悩んだりしたとき、何でも相談できるとしたら、どんな場所や方法だったら話がしやすいですか？（複数選択可）

回答割合をみると、学校内であっても、授業時間外であれば話しやすいという意向が強い。また、SNSでの相談や自分のタイミングを重視する回答の割合が高く、相談のしやすさは場所よりも距離感・時間の自由度が大事であることが分かる。



## 4-6 自由意見

問 19 都城市に足りないものは何だと思いますか？（自由記述）

以下は、いただいた意見の一部を記載したものである。

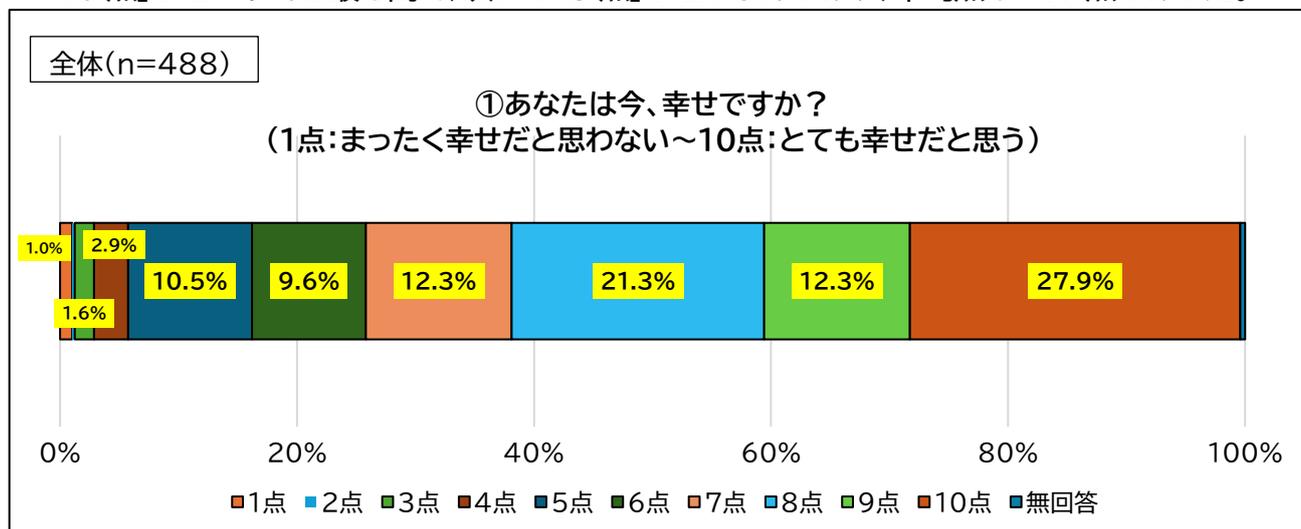
- ・放課後に遊んだり勉強できる場所がほしい。
- ・ショッピングモールや中学生や高校生が遊ぶ場所(ボーリング・カラオケなど)。
- ・道路が狭いところがある。
- ・中学生から高校生を含めた青年期の人たちが体を動かして遊べる施設。ラウンドワンのようなもの。
- ・道路をきれいにしてほしいガタガタだから。
- ・遊び場・テーマパーク。
- ・公共交通機関(車を持たない子は1時間に1本の電車じゃ不便)。
- ・図書館以外の自習スペース。
- ・個室で飲み物など飲食可能な学習スペース。
- ・県外から来た人への経済的支援はあるのにずっと住んでいる人への支援が少ない。
- ・歩道が凸凹すぎて、自転車とか転びそう。狭くて、草が生えているところが多い。
- ・図書館以外の勉強スペースや、無料または安く使える自由スペースなど？
- ・夜の街灯

## 4-7 幸福度

問 20 次の質問について、1(最小)から 10(最大)の間で教えてください。

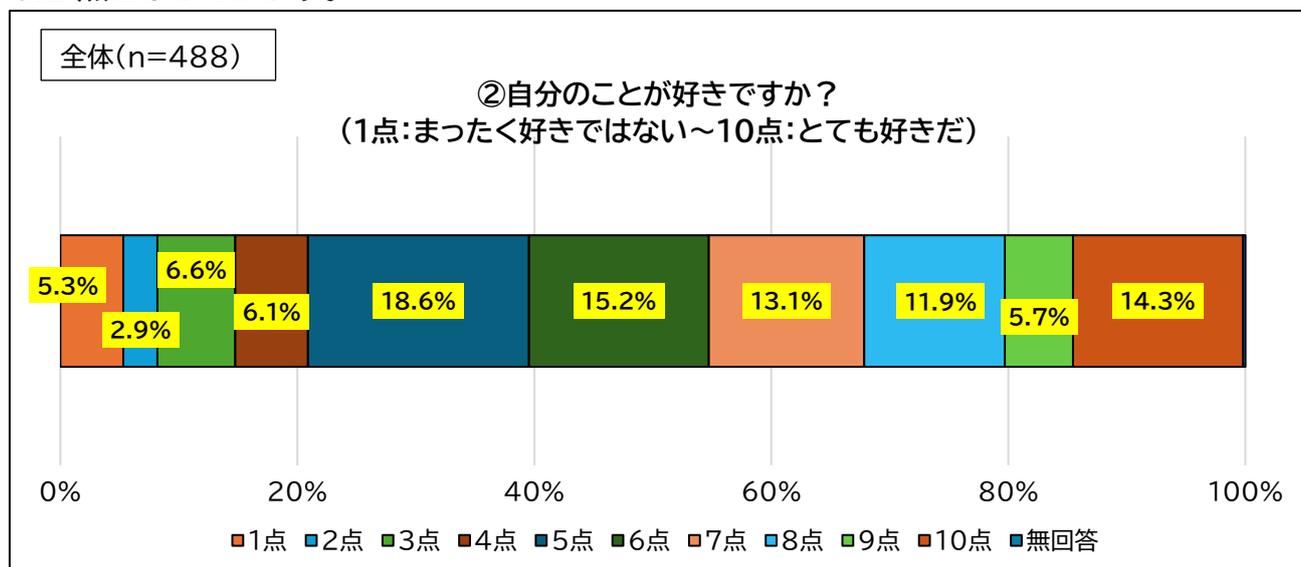
### ①あなたは今、幸せですか？

「10点」が27.9%と最も高く、次いで「8点」が21.3%であり、平均点は7.7点であった。



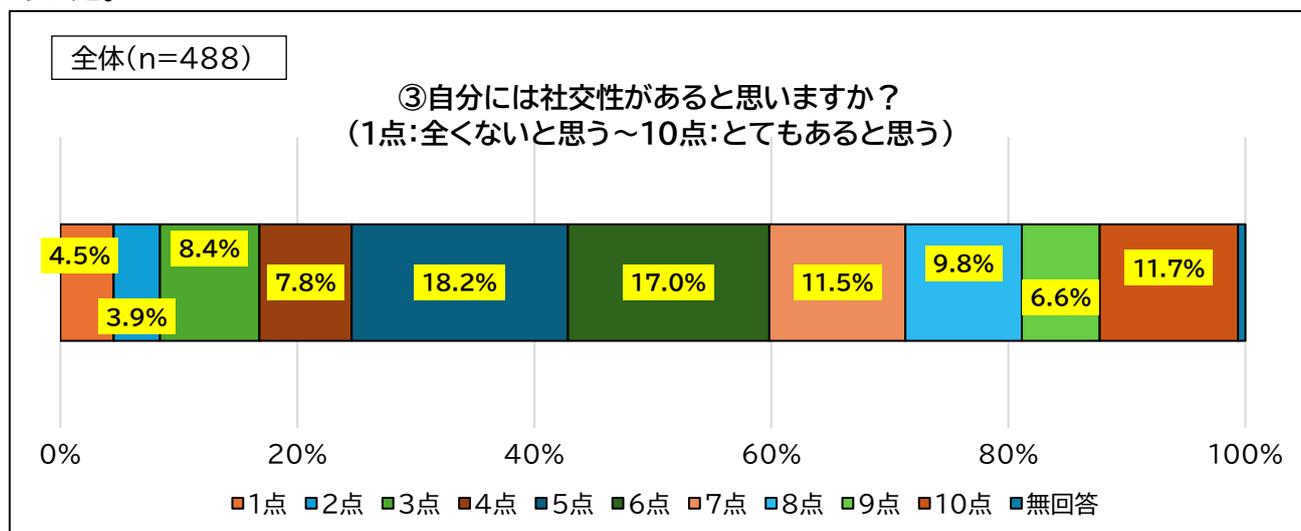
### ②自分のことが好きですか？

「5点」が18.6%と最も高く、次いで「6点」が15.2%となっています。平均点をみると、6.2点となっています。



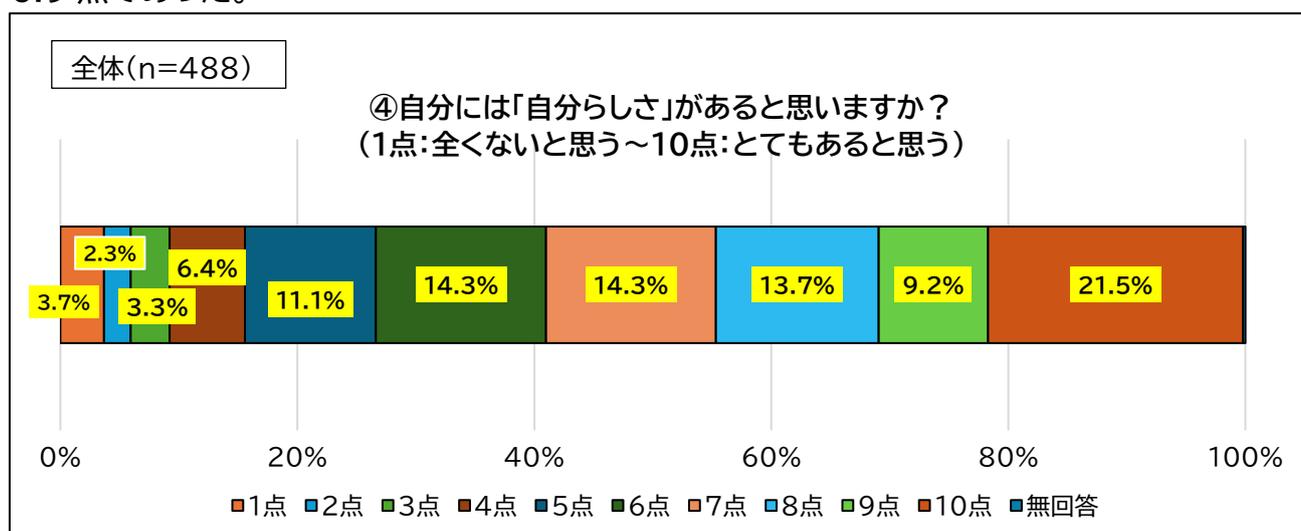
## ③自分には社交性があると思いますか？

「5点」が18.2%と最も高く、次いで「6点」が17.0%であり、平均点をみると、6.0点であった。



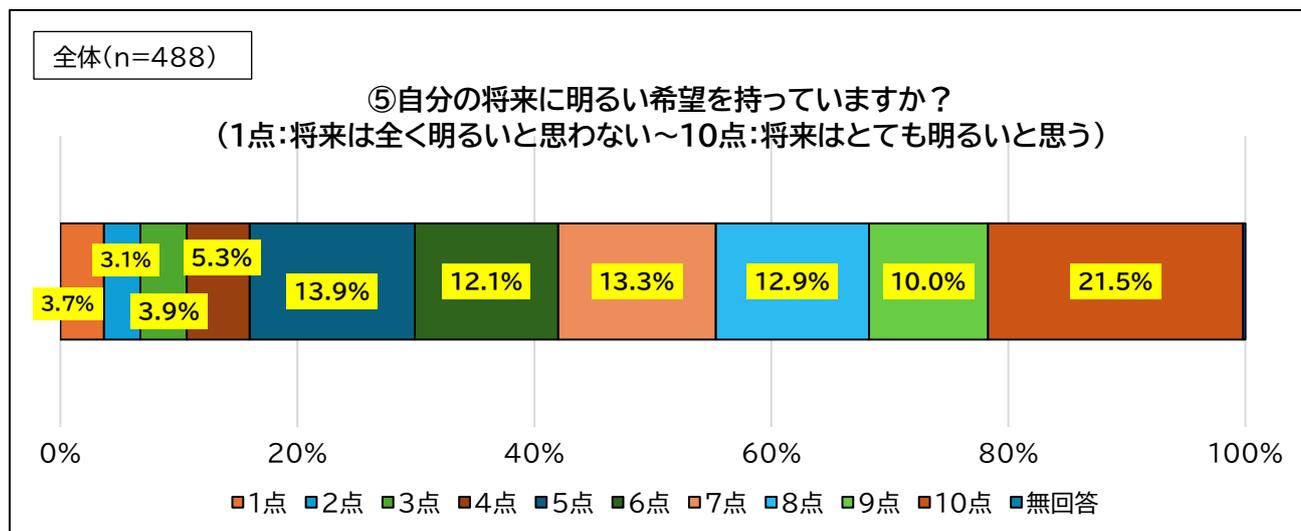
## ④自分には「自分らしさ」があると思いますか？

「10点」が21.5%と最も高く、次いで「7点」「6点」が14.3%であり、平均点をみると、6.9点であった。



⑤自分の将来に明るい希望を持っていますか？

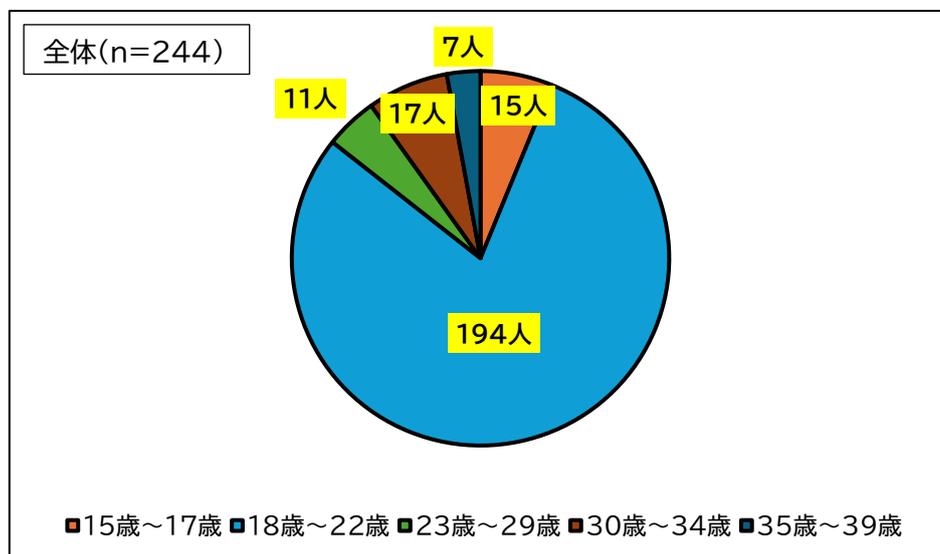
「10点」が21.5%と最も高く、次いで「5点」が13.9%であり、平均点をみると、6.8点であった。



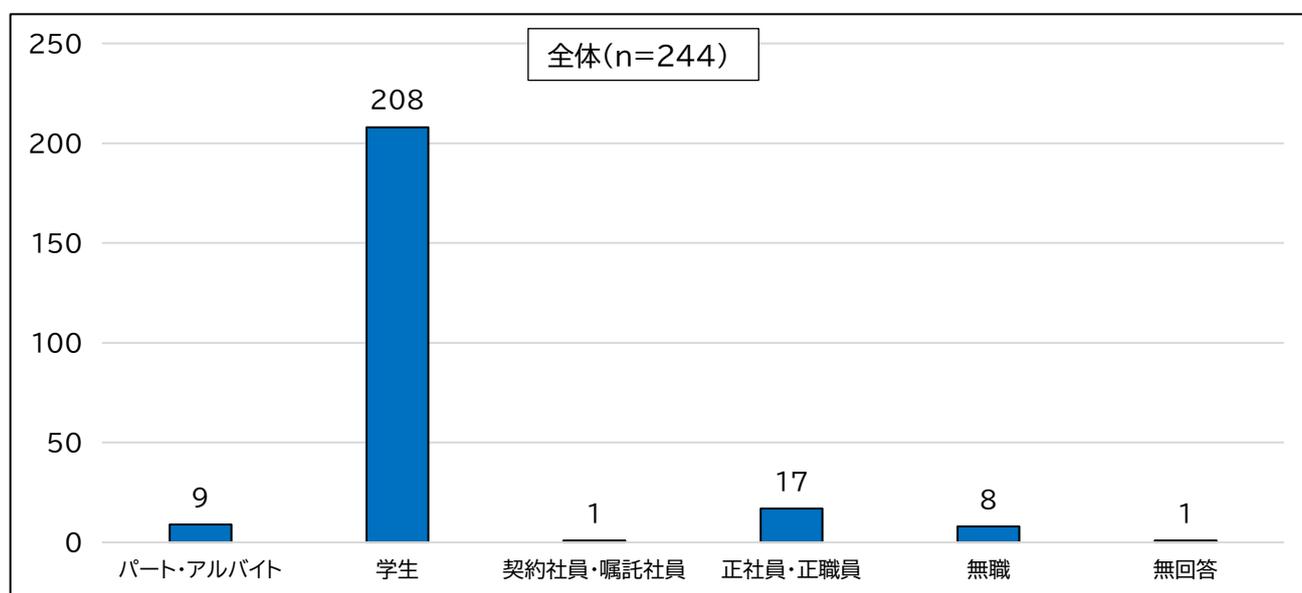
## 第5章 調査結果(若者)

### 5-1 対象者属性

#### (1) 年齢



#### (2) 現在の就業状況

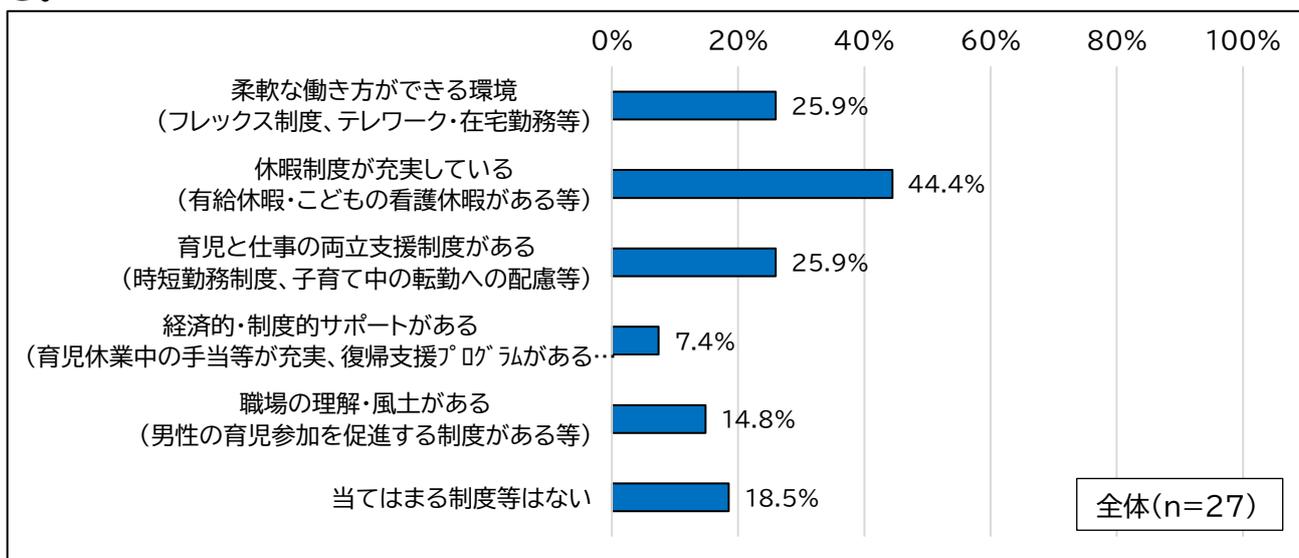


## 5-2 職場環境

### (1)子育て支援制度

問5 「正社員・正職員」「契約社員・嘱託社員」「パート・アルバイト」の方  
～あなたの職場環境(子育て等)を教えてください～(複数選択可)

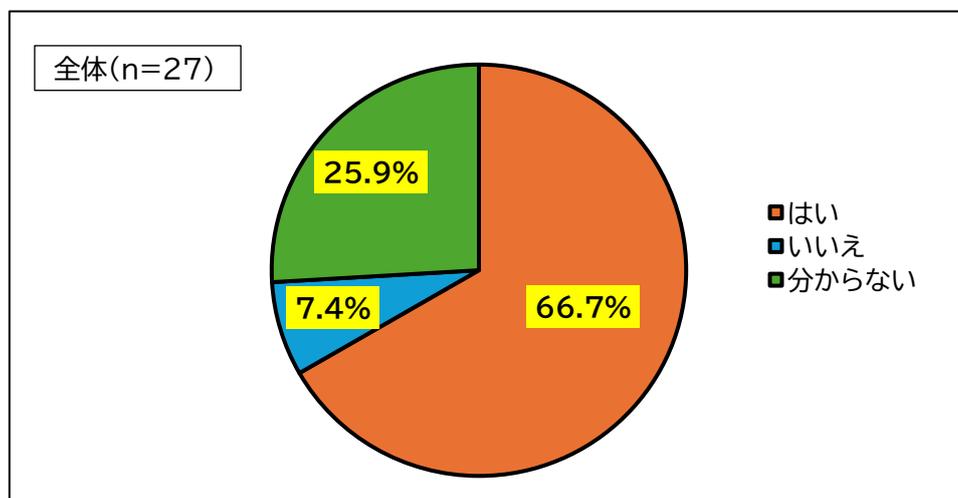
就労している若者の職場では、休暇制度は一定程度整っている一方で、育児期の経済的支援や復帰支援など、子育てを継続的に支える制度はあまり整備されていない実態がうかがえる。



### (2)育児休業

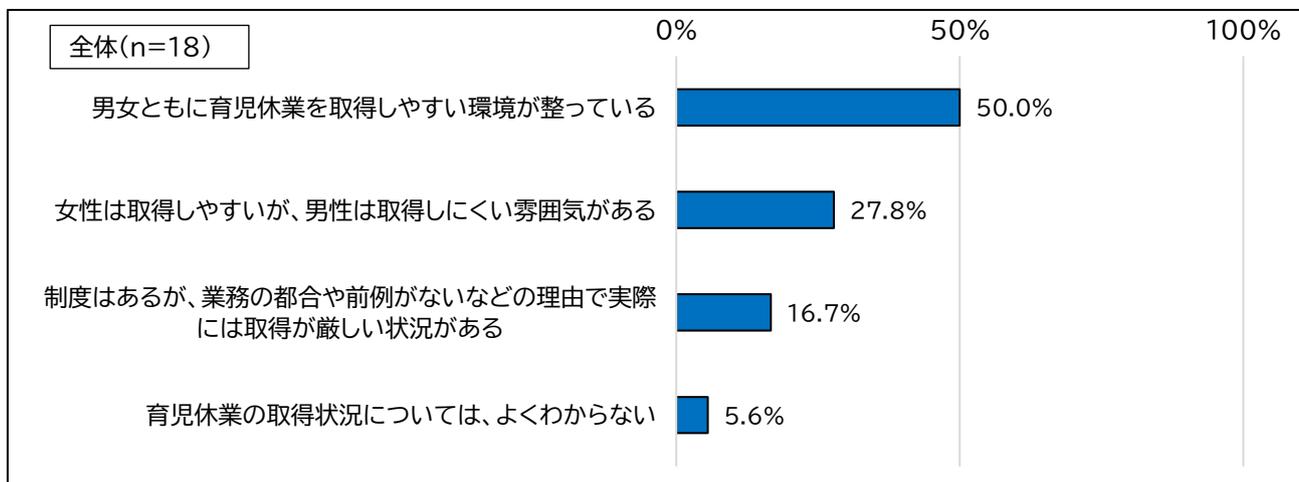
問6 「正社員・正職員」「契約社員・嘱託社員」「パート・アルバイト」の方  
～現在の職場には育児休業制度はありますか？～

4人に1人が制度の有無すら把握していないことから、制度そのものの有無だけでなく、若者にとって分かりやすく伝わっているかが課題といえる。



問7 現在の職場には育児休業制度はありますか？で「はい」を選んだ方  
～あなたの職場における育児休業の取得について～

制度上は育児休業が整備されていても、男性の取得については職場の風土や業務体制が障壁となっている可能性がある。

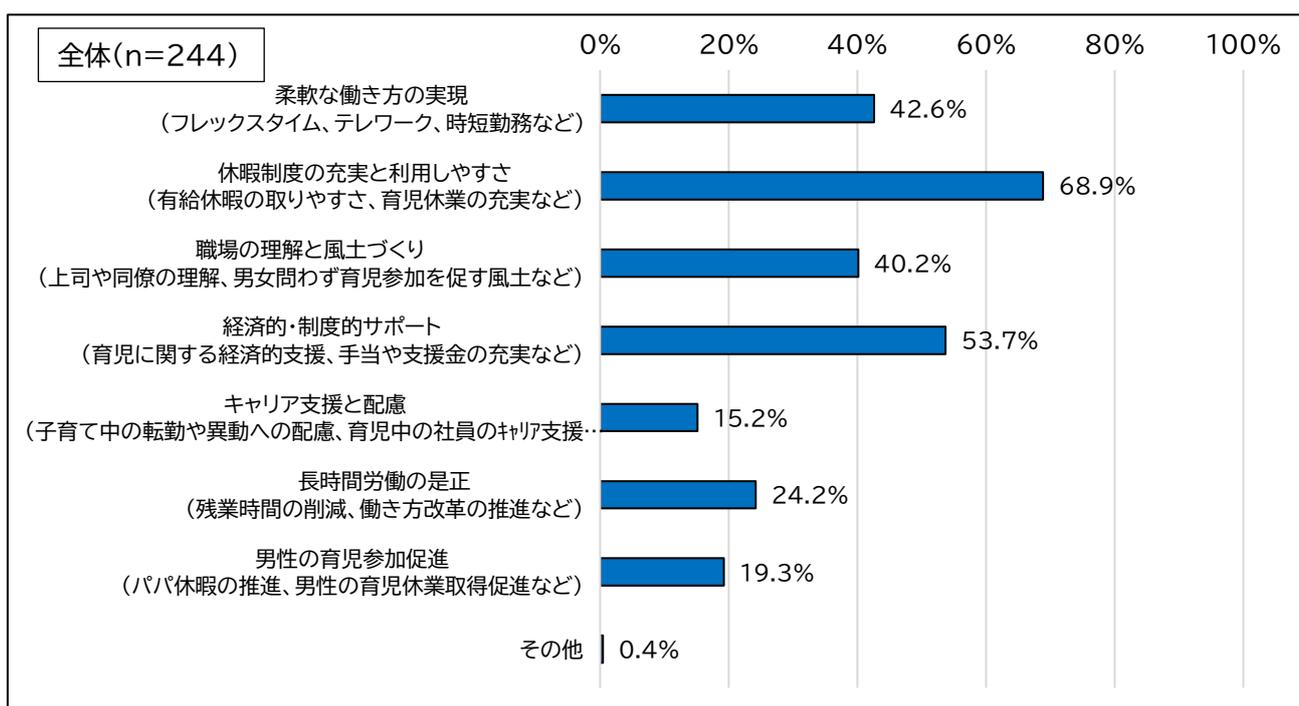


(3)理想の職場環境

問8 理想的な職場環境として、子育てと仕事の両立のために大切だと思うことは？  
(特に当てはまるものを最大3つまで選んでください)

「休暇制度の充実と利用しやすさ」や「経済的・制度的サポート」の割合が高いことから、制度の有無だけでなく、実際に安心して利用できる環境を求めていることが分かる。

また、柔軟な働き方や職場の理解といった職場風土の割合も高いことから、制度とあわせて、仕事しながら子育てしやすくなるような職場文化の醸成が必要と考える。

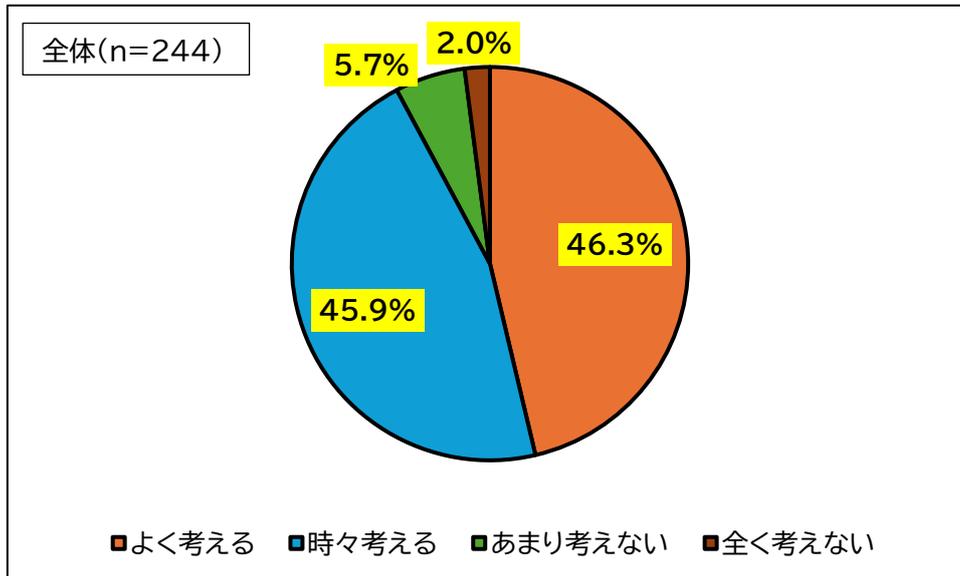


### 5-3 自分の将来

#### (1)考える機会

問9 将来の自分の人生について考えることがありますか？

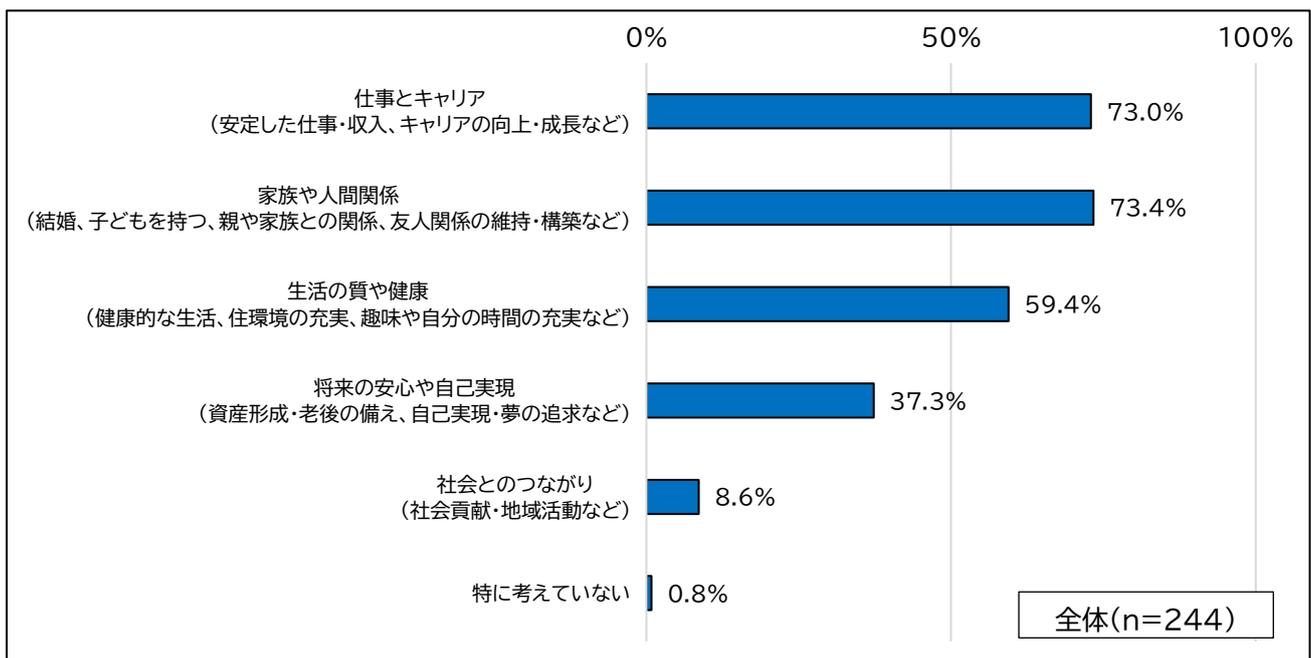
若者の将来について考える割合は、中高生に対して多い結果となった。



#### (2)人生設計

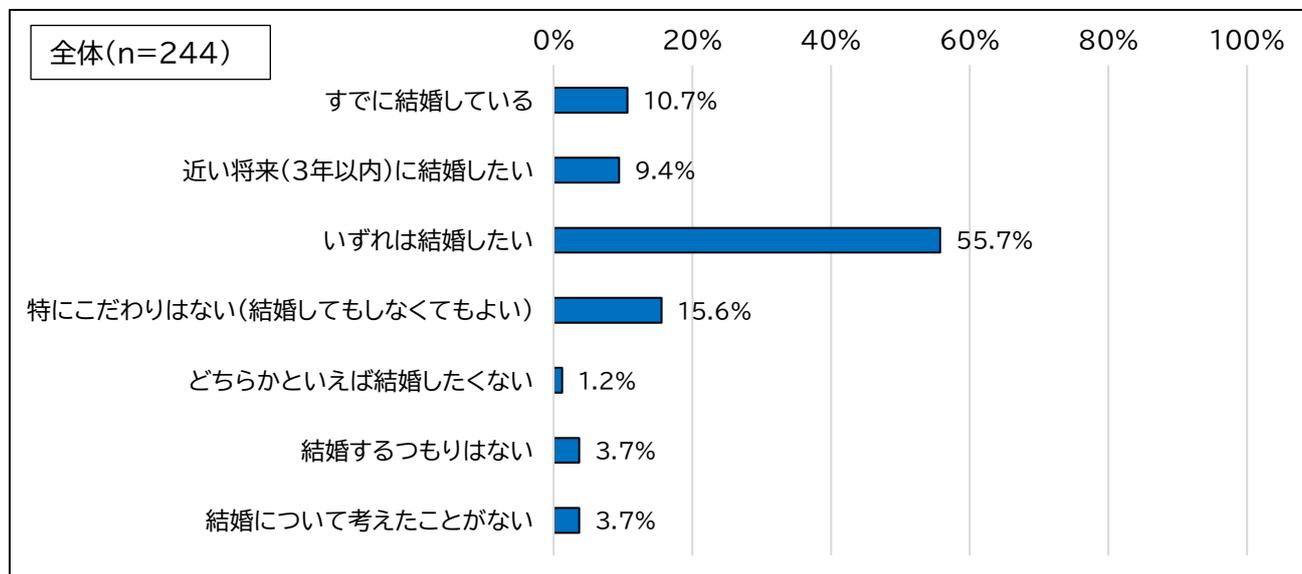
問10 あなたの人生設計において、重視していることは何ですか？  
(特に当てはまるものを最大3つまで選んでください)

回答割合としては、「仕事とキャリア」「家族や人間関係」が上位を占める結果となった。



### 問 11 結婚についてどのように考えていますか？

回答割合としては、「いずれは結婚したい」が最も高く、次いで「特にこだわりはない」であった。6割以上の若者が結婚へ前向きな意向を示しているが、結婚に否定的な意向も一定数いることが分かった。



### 問 12 結婚について「どちらかといえば結婚したくない」「結婚するつもりはない」を選んだ方 ～それはなぜですか？(自由記述)～

必要性を感じない、自由時間がなくなるなどといった意見が挙げられた。

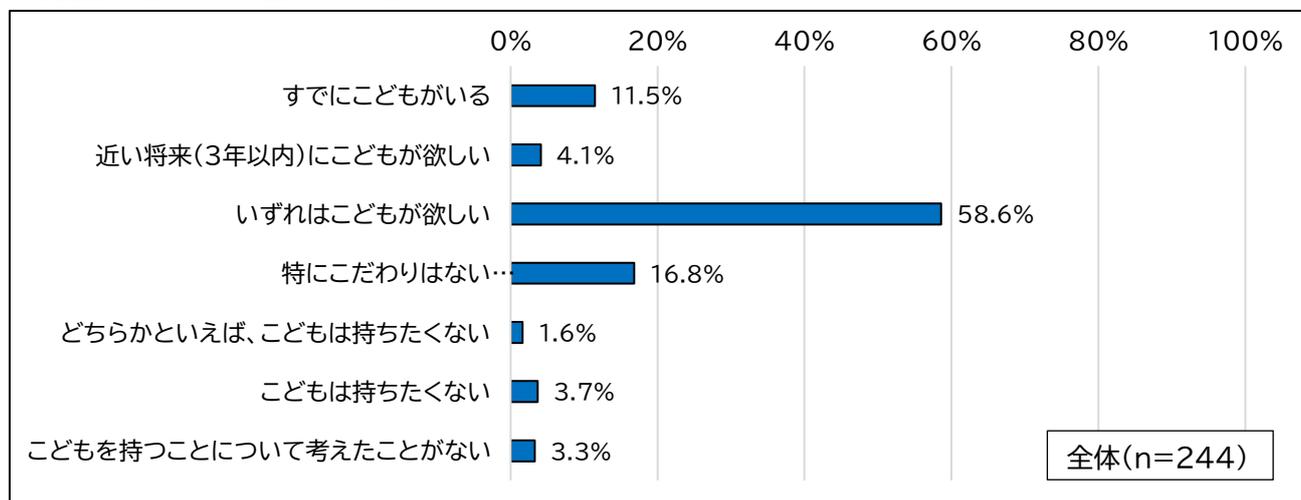
#### ※一部のみ記載

- ・結婚にメリットを感じないから。
- ・男性と住めないから。
- ・自分の時間が減るから。
- ・子供を育てるメリット、デメリットをある程度知っているから。
- ・自分のことで精一杯なので。
- ・結婚する必要が無い。
- ・自由がなくなるから。
- ・結婚すると、自分の自由が無くなるから(趣味やその他時間等の制限)。  
また、良い夫となれる自身がない。一度結婚すると人生の最後まで支え続ける責任が伴う。
- ・赤ちゃんを生むのがつらそうだから。1人は自由だから。
- ・気を使いながら相手と暮らすのがめんどろ。
- ・めんどくさそう。

## (4)こども

## 問13 こどもを持つことについてどのように考えていますか？

回答割合としては、「いずれはこどもが欲しい」が最も多く、次いで「特にこだわりはない」であった。6割以上の若者がこどもが欲しいとか回答しているが、こどもを持ちたくない割合も一定数いることが分かった。



## 問14 こどもを持つことについて「どちらかといえば、こどもは持ちたくない」「こどもは持ちたくない」を選んだ方～それはなぜですか？(自由記述)～

意見としては、こどもへの苦手意識や大変さ、負担感などが挙げられ、中高生と同様の意見が多く見受けられた。

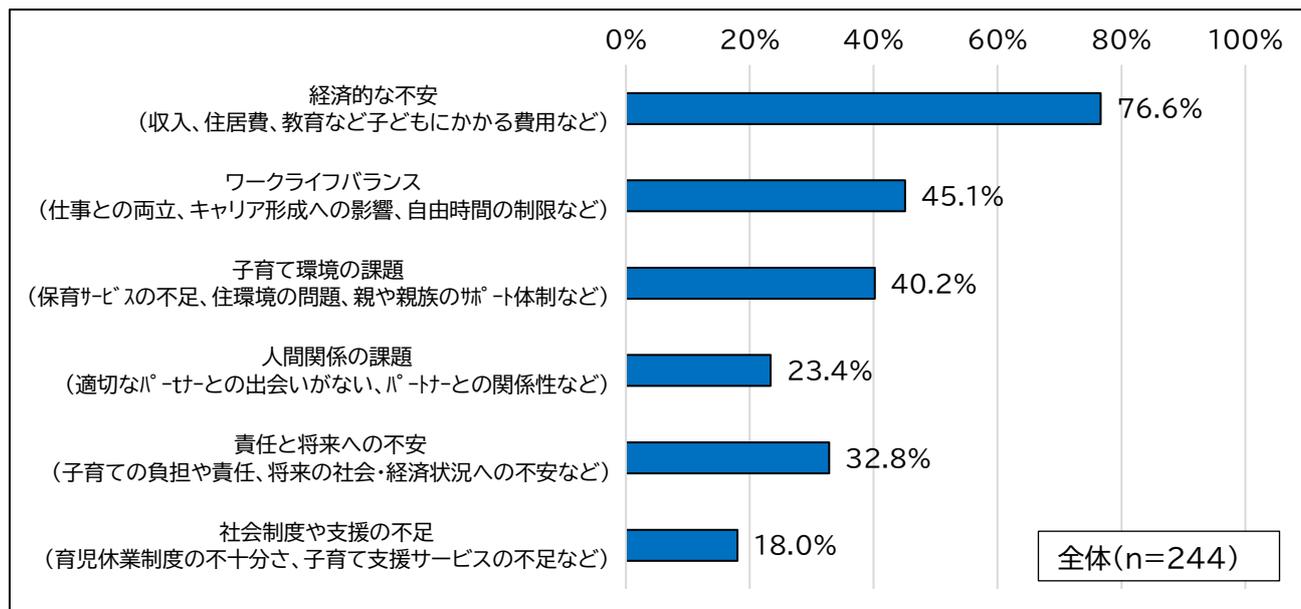
## ※一部のみ記載

- ・こどもが好きではないから。
- ・自由な時間がなくなるから。子育てや教育に自信がない。
- ・こどもを可愛いと思わない。
- ・子育ては大変や辛って話しか聞かないから。
- ・自分に子供ができることが想像できないから。
- ・子供があまり好きではないから。
- ・大変だから。
- ・子育ては大変で自分の精神状態が不安定になると思うから。
- ・一回子供を作ったら取り消せないから。
- ・自分のことで精一杯なので。
- ・責任負えない。
- ・一人暮らしで満足している。
- ・こどもとずっと一緒にいてお世話できる気がしないから。
- ・赤ちゃんを生むのがつらそうすぎるから。
- ・金がかかる。

### (5)結婚や子育てに関する不安

**問 15 結婚や子育てを考える上で、障壁や不安に感じることは何ですか？  
(特に当てはまるものを最大3つまで選んでください)**

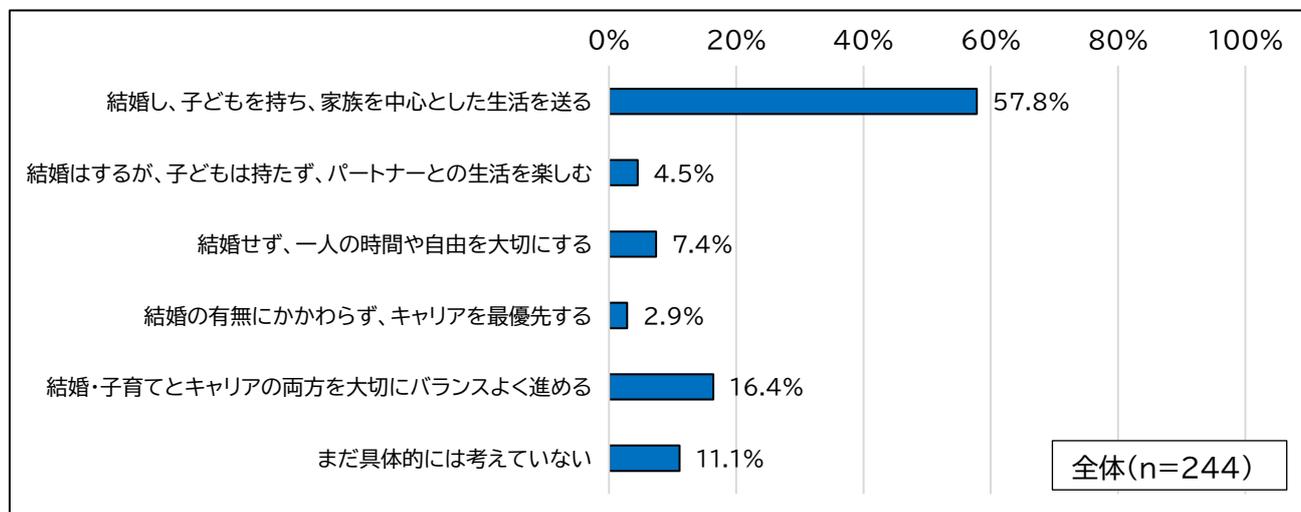
回答割合としては、「経済的な不安」が最も高く、次いで「ワークライフバランス」であった。若者は将来において、経済的な安定だけでなく、仕事か家庭かという二者択一ではなく、両立を前提とした生き方を志向しており、安心して働き続けながら、家庭や人間関係を築ける環境づくりが重要であるといえる。



### (6)理想の人生設計

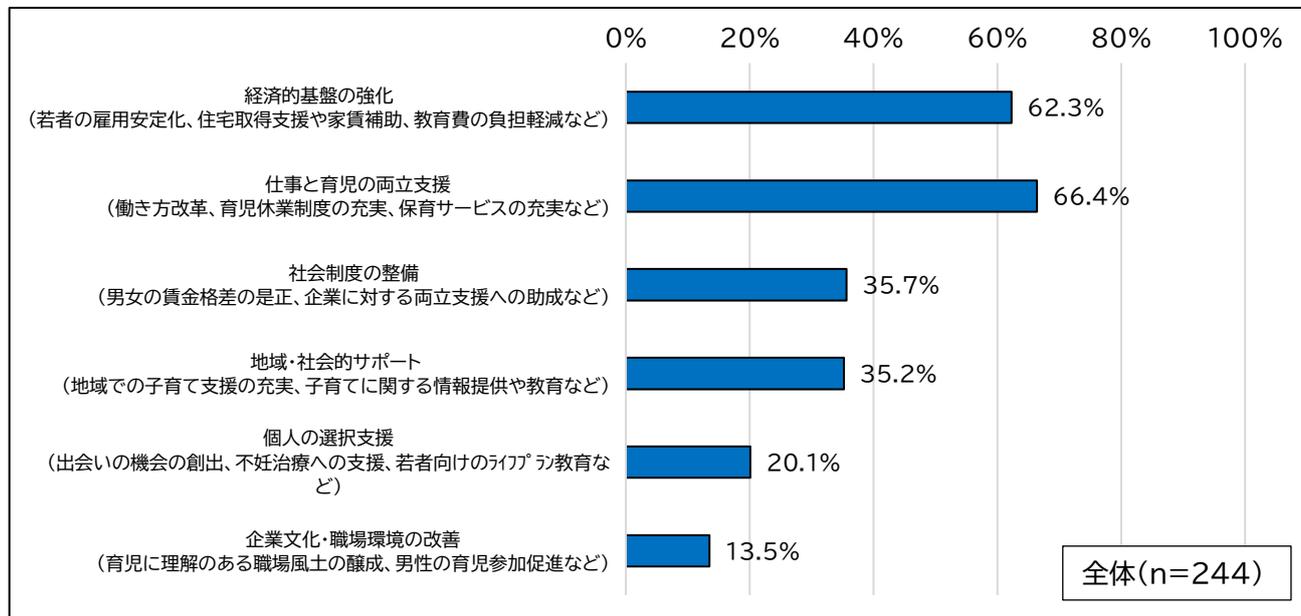
**問 16 理想の人生設計(ライフプラン)はどのようなものですか？**

7割を超える若者は、仕事と子育ての両立を望んでおり、結婚や子どもを持つことに前向きな意向を持っていることが分かった。



**問 17 結婚や子育てを含む人生設計の支援及び少子化対策として、あなたが効果的だと思う施策は何だと思いますか？**  
**(特に当てはまるものを最大3つまで選んでください)**

回答割合としては、「仕事と育児の両立支援」が最も高く、次いで「経済的基盤の強化」であったことから、若者としては、経済的支援とワークライフバランスを求めていることが分かる。

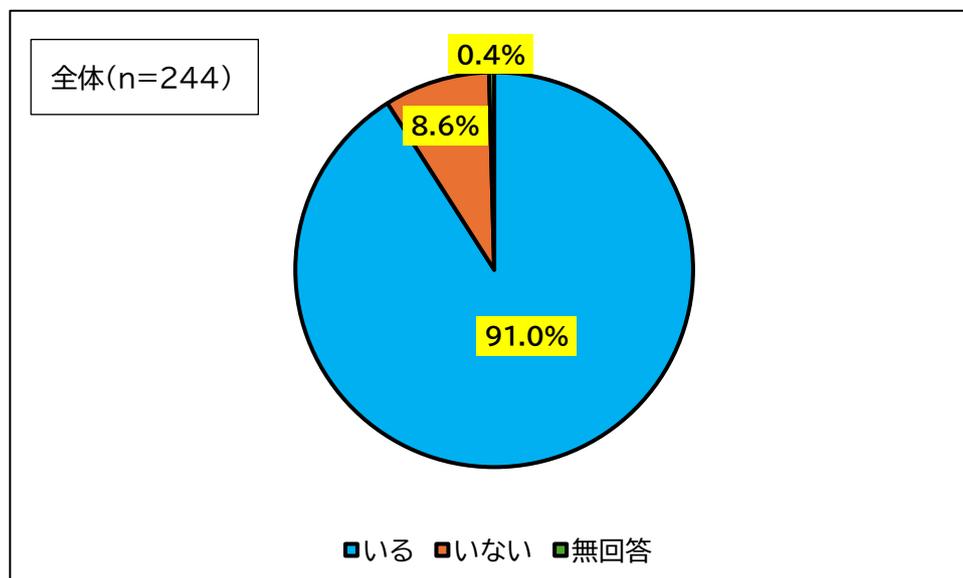


## 5-4 悩み相談

**問 18 困っている時や、悩んでいる時に相談できる人はいますか？**

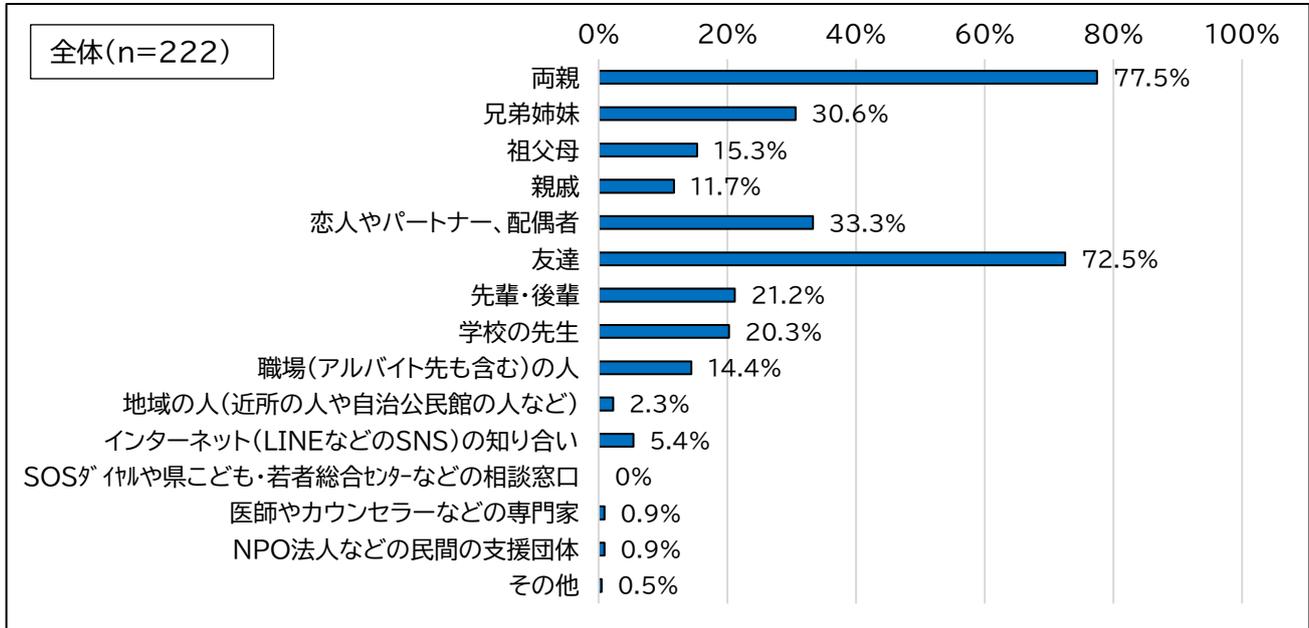
9割以上の若者が相談できる人が「いる」と回答しており、表面的には相談先を持つ若者は多数派である。

一方で、約1割は相談できる人が「いない」と回答しており、割合としては少数でも見逃せない層といえる。



問19 困っている時や、悩んでいる時に相談できる人は「いる」と答えた方  
～それは誰ですか？～(複数選択可)

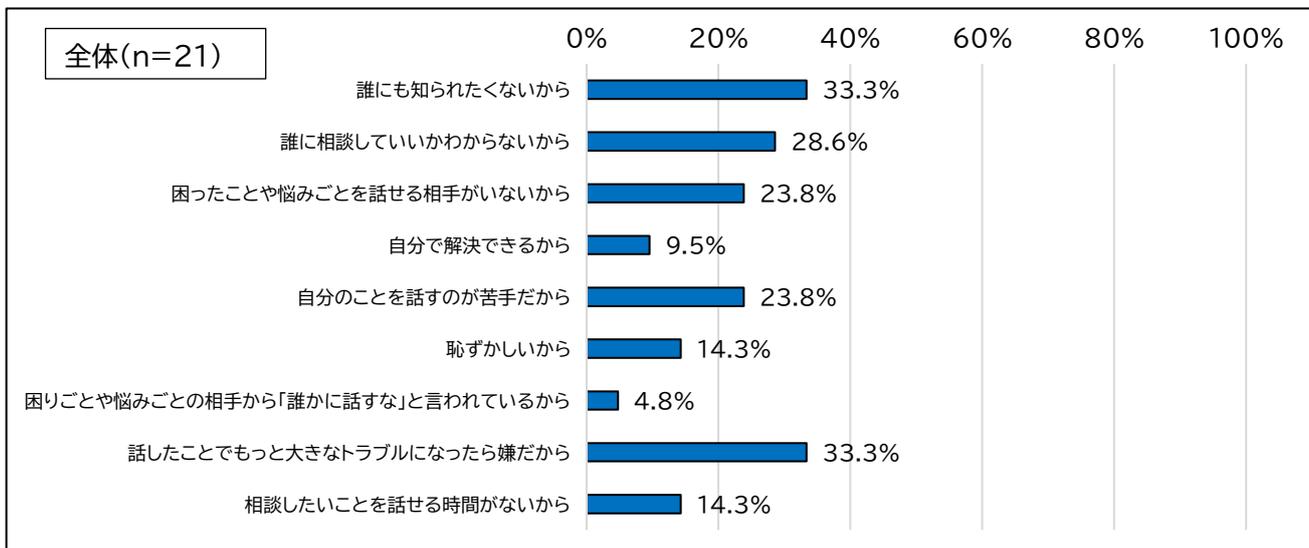
回答割合としては、「両親」「友達」が最も高い結果となったが、公的・専門的相談先はほぼ活用されていないことが分かった。



問20 困っている時や、悩んでいる時に相談できる人は「いない」と答えた方  
～その理由は何ですか？～(複数選択可)

回答割合として、『知られたくない』『トラブルが大きくなるのが嫌』などといった理由が高いことから、相談自体が人間関係悪化や状況悪化を招いてしまうという不安が強いといえる。

また、相談先が分からないといった情報不足や話すのが苦手等の内面的要因も高い水準にあることが分かった。



## 5-5 自由意見

問 21 将来の都城市がもっとよいまちになるための取り組みとして、何かご提案・ご意見があればお聞かせください(自由記述)

以下は、いただいた意見の一部を記載したものである。

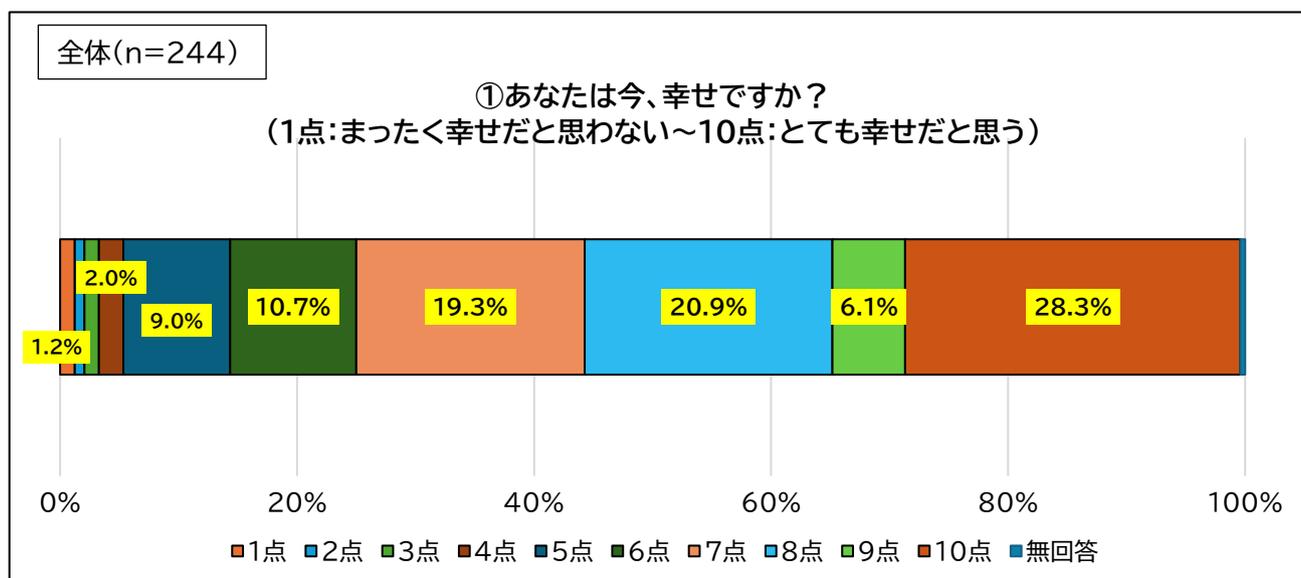
- ・チャイルドシートの助成金やオムツやミルクが宅配される自治体があると聞きました。都城もそういった自治体のサービスや補助金があると嬉しく思います。
- ・バスの本数、バス停を増やして欲しい。公共交通機関の拡充。
- ・都城を賑やかにする為、ショッピングモールなどの企業を増やしてみる。
- ・道路などにたまに見かける廃棄物を拾い集めて清掃するといったボランティア活動。
- ・もっと施設を増やして欲しい。若者が遊ぶ場所が少ない。
- ・パチンコだけでなく小さい子が遊べる施設を増やせば人が増える。
- ・大企業を作って都城で働きたい人を増やす。
- ・給料をあげてください。副業なしで生活できません。将来が不安です。
- ・歩道では、車道との距離が近いと少し不安に感じる事が場所によってはあります。そのため歩行者と車道の幅を歩きやすくしたり、また、用水路のふたや道がでこぼこで歩きにくいこともあります。もう少し安心してどんな方も歩けるようになると嬉しいです。
- ・小学生の中学年～高校生の遊び場が少ないのが気になる。まだ高校生は図書館や商業施設に行けるが、小学生4年～中学生にかけては少ない。
- ・安心安全な場所で仲間と集えて体も動かしつつグループでゆったり出来る場所ができればいいなと思う。徒歩か自転車で行ける距離にあって欲しい。
- ・自分の子供を守ってあげたいですが、ワクチンは3万円と高額です。助成があれば安心して妊娠できます。
- ・給料も低くて毎日カツカツな生活でしんどいです。
- ・幼稚園にいれようにも制服代など他にお金がかかる部分も多く、お金がないから早めに働きたいが、市内に両親がいても仕事をしているし、近くに保育園や幼稚園、認可外の空きもない。
- ・小学生などが使えるパソコンを児童館に置いて欲しい。(20分交代制など)
- ・子供がいても働きやすい環境の仕事を紹介して欲しい。
- ・働く場所が少ない。賃金が低すぎて生活できないのもっと給料を上げて企業を誘致してほしい。
- ・病児保育施設の充実化。

## 5-6 幸福度

問 22 次の質問について、1(最小)から 10(最大)の間で教えてください。

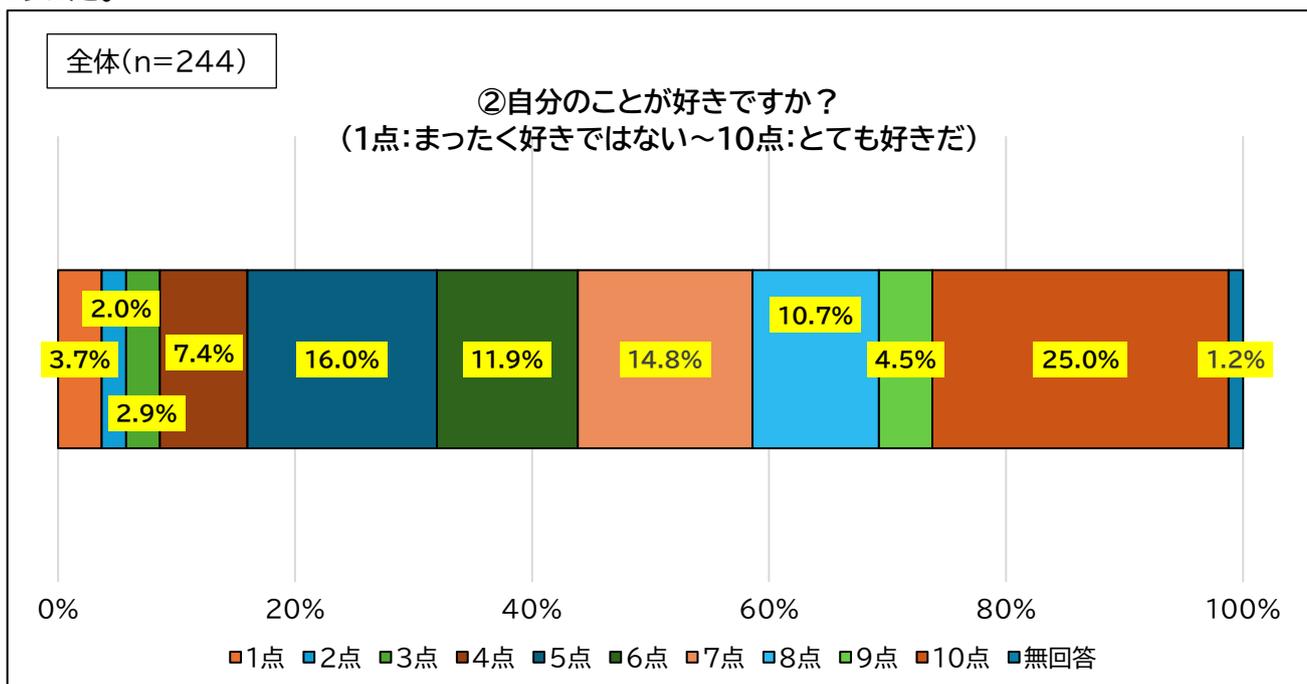
### ①あなたは今、幸せですか？

「10点」が 28.3%と最も高く、次いで「8点」が 20.9%であり、平均点をみると、7.6点であった。



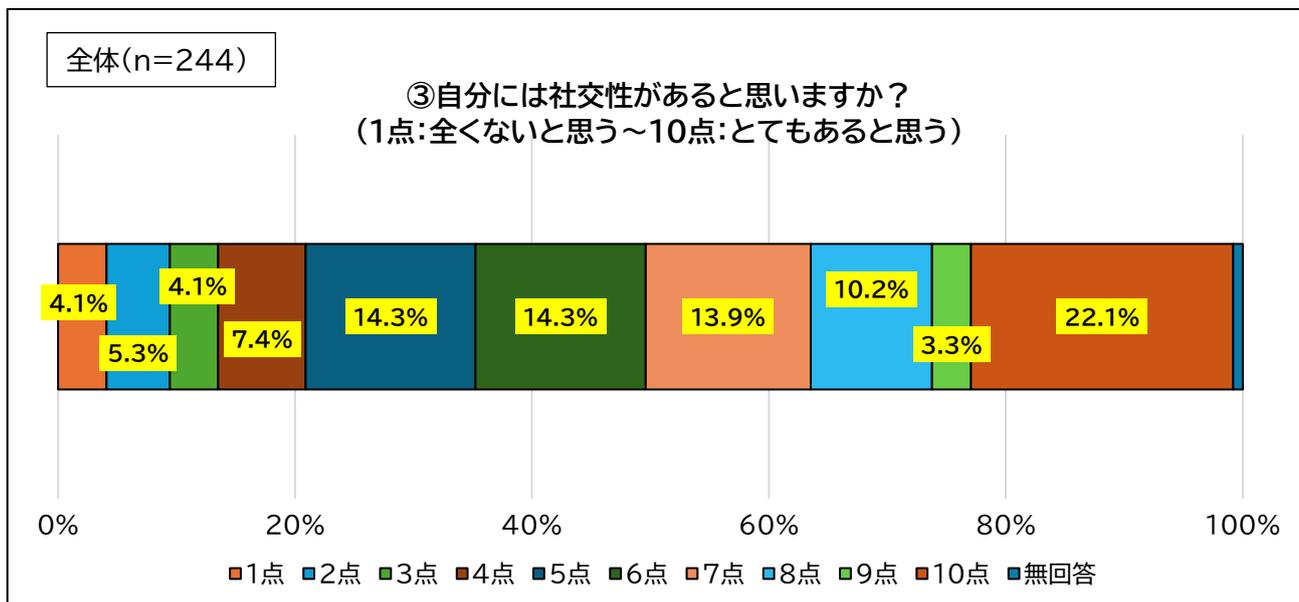
### ②自分のことが好きですか？

「10点」が 25.0%と最も高く、次いで「5点」が 16.0%であり、平均点をみると、6.8点であった。



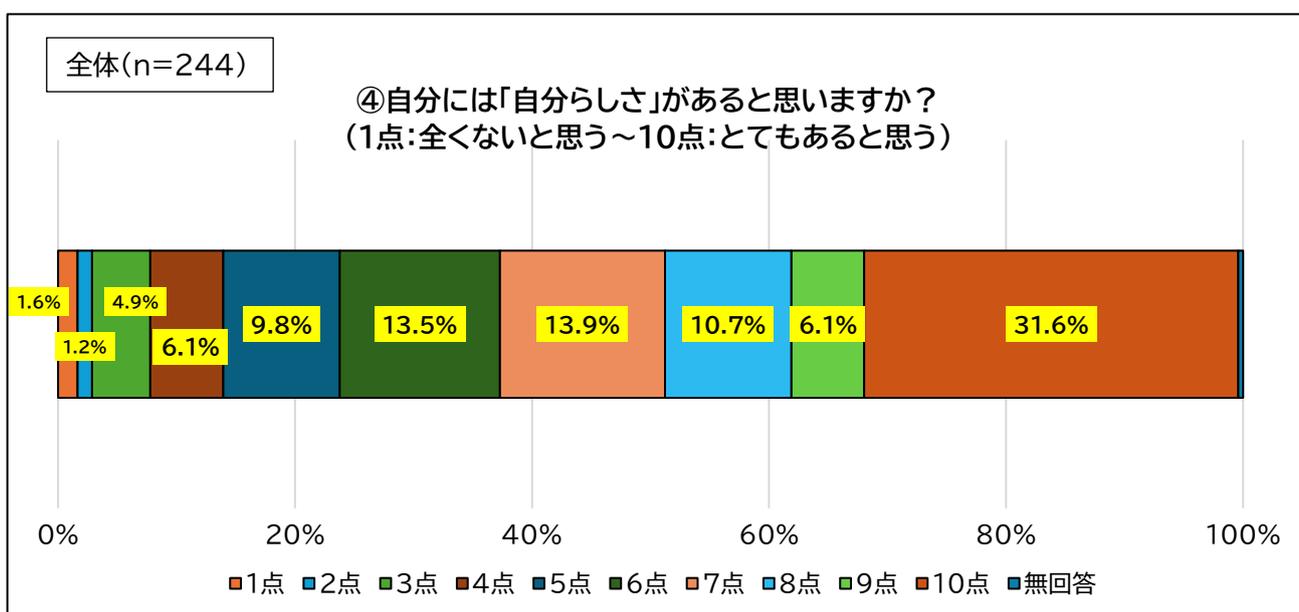
③自分には社交性があると思いますか？

「10点」が22.1%と最も高く、次いで「6点」「5点」が14.3%であり、平均点をみると、6.5点であった。



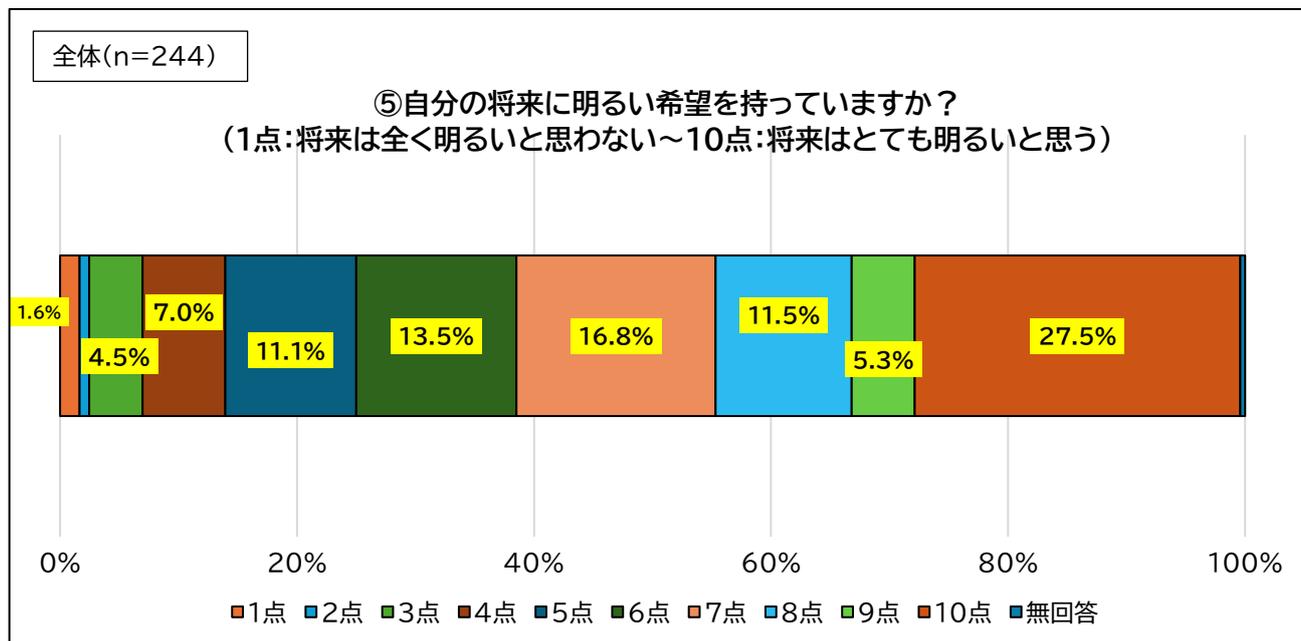
④自分には「自分らしさ」があると思いますか？

「10点」が31.6%と最も高く、次いで「7点」が13.9%であり、平均点をみると、7.3点であった。



⑤自分の将来に明るい希望を持っていますか？

「10点」が27.5%と最も高く、次いで「7点」が16.8%であり、平均点をみると、7.1点であった。



## 第6章 こども計画における数値目標

### 6-1 こども・若者の視点に立った数値目標

本調査では、小学生・中学生においては学校内での一斉回答ではなかったことから、4つの指標において基準値を上回る結果となった可能性があると考えられる。

また、基準値を下回った「誰とでも友達になれる（自分には社交性がある）」と思うこども・若者の割合については、SNS 中心の交流増加によって対面での関わりが少なくなっていることから、対面による社交性の自己評価が低くなっていることが考えられる。

指標	基準値 (R6 年度)	実績値 (R7 年度)	目標値 (R11 年度)
「今、幸せである」と思うこども・若者の割合	79.1%	85.5%	89.1%
「自分のことが好きだ」と思うこども・若者の割合	54.4%	63.9%	64.4%
「誰とでも友達になれる(自分には社交性がある)」と思うこども・若者の割合	67.7%	62.2%	77.7%
自分には「自分らしさがある」と思うこども・若者の割合	71.0%	76.0%	81.0%
「自分が大人になった時に幸せになっている(自分の将来に明るい希望を持っている)」と思うこども・若者の割合	73.5%	73.8%	83.5%

### 6-2 基本目標に向けた施策・取組の数値目標

小学生の回答割合が大幅に上昇している理由としては、保護者との共同認識が反映された可能性によるものと考えられる。

また、高校生以上の割合が低下している理由については、高校生以上は、相談相手の有無について、より厳密に自己評価する傾向があり、形式的なつながりではなく、実際に頼れる相手がいるかどうかを基準に回答した結果であると捉えられる。

指標	基準値 (R5 年度)	実績値 (R7 年度)	目標値 (R11 年度)
困りごと・悩みを相談できる人がいる割合 (小学生・中学生・高校生以上)	小学生 (3・4 年) : 69.9% 小学生 (5・6 年) : 77.9% 中学生 : 84.6% 高校生以上 : 90.0%	小学生 (3・4 年) : 92.3% 小学生 (5・6 年) : 91.0% 中学生 : 86.6% 高校生以上 : 84.8%	各年代 90.0%以上

## 第7章 共通設問の整理

### 7-1 自分の将来

#### (1)自分の将来を考えたことがあるか

以下は、自分の将来を考えたかという問いに対する回答を年代別にまとめたものである。将来の自分の人生について、「よく考える」と回答した割合は、中学生→高校生→若者と年齢が上がるにつれて増加しており、「あまり考えない」「全く考えない」と回答した割合は年齢とともに減少している。このことから、将来意識は年齢・経験に応じて段階的に高まっていることが確認できる。

中学生・高校生の多くは、将来について断続的・漠然と考え始めている段階にあり、「よく考える」ほど具体化はしていないが、将来への関心そのものは一定程度育まれていると考えられる。また、将来を「全く考えない」層が少数であることから、考えるきっかけや情報提供により、意識が深まる可能性のある段階と整理できる。

以上のことから、市としては、将来に関する支援や情報提供を年齢や発達段階に応じて内容を変えていき、段階的に行うことが重要であると考えられる。

区分	回答 (%)			
	よく考える	時々考える	あまり考えない	全く考えない
中学生	19.0	59.9	16.9	4.2
高校生	34.6	52.5	11.1	1.8
若者	46.3	45.9	5.7	2.0

#### (2)将来、どのような暮らしをしたいか

以下は、回答項目を「結婚有無+子ども有無」等に集約したものである。

中高生の回答を見ると、結婚・子育てと仕事の両立を前提とした暮らしを求めており、家庭と社会参加の両立を肯定的に捉えている学生が一定数いることが分かる。

一方で、結婚せず、子どもを持たない暮らしを望んでいる学生も少なくないことから、結婚や家族の形を一つに限定せず、多様な生き方を選択肢として捉えている傾向もうかがえる。

また、「今は何も考えられない」という回答が一定数あることは、将来を否定しているのではなく、判断を保留している段階と考えられることから、価値観が分かれているのではなく、多様な選択肢の中で考え始めている段階であるといえる。

区分	回答(%)			
	結婚する +こどもあり	結婚する +こどもなし	結婚しない +こどもなし	今は何も考えられない
中学生	45.0 (仕事あり:40.1) (仕事なし:4.9)	2.8	15.5	35.9
高校生	57.4 (仕事あり:53.5) (仕事なし:3.9)	2.7	20.0	19.3

### (3)将来、こどもを持ちたいか

以下は、回答項目を「持ちたい」「持ちたくない」「どちらともいえない・考えたことがない」の3つに集約したものである。

過半数以上の中高生が将来、こどもを持ちたいと考えている結果となったが、「どちらともいえない・考えたことがない」という回答も上位を占めている。

中高生の段階では、こどもを持つことに前向きな意識を持つ層が一定数存在していると同時に、「どちらともいえない・考えたことがない」とする層が一定数いることから、こどもを持つことへの意向が未形成の段階にある学生が少なくないと考えられる。

また、中学生と高校生で回答順位がほぼ同じであったことから、年齢が上がっても、意識が急激に否定的に変化している状況ではないと整理できる。

区分	回答 (%)		
	持ちたい	持ちたくない	どちらともいえない・考えたことがない
中学生	53.5	11.2	35.2
高校生	65.8	12.9	21.3

### (4)将来、こどもを持ちたくない理由

以下は、中高生から頂いた意見をカテゴリー別に集約したものである。

中高生の主な意見としては、経済的負担や子育ての大変さ、育てられる自信のなさなどが多く見られた。特に高校生では、出産や仕事との両立、社会状況への不安など、より現実的な視点からの回答が増加している。

これらの結果から、こどもを持ちたくないとする理由の多くは、子育てへの否定ではなく、経済面や責任、将来への不安による可能性であることが分かった。このため、年齢に応じた、将来を考える機会の提供や子育てに関する正しい情報等の充実を図り、自らの人生を主体的に選択できる環境づくりを進めていく必要があると考えられる。

カテゴリー別	主な意見（一部抜粋）	中学生の傾向	高校生の傾向
自信・責任への不安	自分に育てられるか不安 責任が重い	非常に多い	非常に多い
大変さ・負担感	大変そう 自分の時間がなくなる	多い	非常に多い
経済的不安	お金がかかる	多い	非常に多い
出産・身体的負担への不安	産むのが怖い 女性の負担が大きい	一定数	非常に多い
こどもへの苦手意識	泣き声が苦手 小さい子が好きじゃない	多い	多い
社会・制度への不安	物価高・支援が少ない	少数	一定数

ほかの意見としては、「今は分からない」「親を見て大変そうだから」「結婚にメリットを感じない」などといった理由も挙げられた。

## 7-2 子育て

以下は、中高生の子育てへのイメージに対する回答を「肯定的」「否定的」「中立的」に分類し、割合を算出したものである。

中学生・高校生ともに子育てに対して肯定的なイメージを持つ割合が否定的イメージを上回っており、特に高校生ではその割合が高くなっている。

また、「協力や支援の必要性」を選択した割合が低いことから、子育てが個人や家庭だけで担うものとして捉えられている可能性がある。

このことから、支援制度の周知などを通じて、子育てを社会全体で支えるという視点を育むことが重要だと考える。

区分	回答（％）		
	肯定的 （喜びと成長の機会） （家族の絆と新たな経験） （やりがいと人生の充実）	否定的 （時間と体力の制約） （経済的・社会的な負担） （悩みや不安）	中立的 （協力と支援の必要性）
中学生	49.0	44.6	6.0
高校生	59.3	36.5	4.0

### 7-3 居場所

以下は、中高生の放課後や休日に過ごす場所として多かった回答を一覧化したものである。挙げられている回答として、「自分の家」と「友達の家」については、私的空間であり干渉されず、ルールの少ない空間が好まれていることが分かる。

また、比較すると、特に放課後で過ごす場所として、中学生では学校や習い事等が中心である一方、高校生では学校外で過ごす割合が高く、成長段階に応じた居場所の変化が見られる。なお、商業施設は、学生にとって過ごしやすい場所であると認識されていることが分かる。

また、「オンライン空間(SNS、オンライン)」については、場所・時間・人の制約を受けない新たな居場所であり、現実の居場所における代替的居場所となっている可能性が考えられる。

#### ●放課後に過ごす場所

過ごす場所	中学生(%)	高校生(%)	割合差(高校生-中学生)
自分の家	97.9	93.2	-4.7
友達の家	14.8	15.2	+0.4
部活動や生徒会活動	51.4	31.6	-19.8
塾、予備校、習い事、スポーツクラブなど	100.0	5.7	-94.3
ショッピングモールなどの商業施設	6.3	21.3	+15.0
オンライン空間(SNS、オンライン)	24.6	25.0	+0.4

#### ●休みの日に過ごす場所

過ごす場所	中学生(%)	高校生(%)	割合差(高校生-中学生)
自分の家	95.1	92.6	-2.5
友達の家	17.6	23.0	+5.4
部活動や生徒会活動	43.0	21.3	-21.7
塾、予備校、習い事、スポーツクラブなど	13.4	3.9	-9.5
ショッピングモールなどの商業施設	30.3	39.1	+8.8
オンライン空間(SNS、オンライン)	29.6	25.2	-4.4

## 7-4 悩み相談

### (1) 相談相手

以下は、全年代の回答割合を一覧化したものである。

全体として8割以上の学生・若者が相談できる人が「いる」と回答しており、身近な人間関係の構築ができているといえる。

一方で、年代別に見ると高校生で相談できる割合が最も低く、また相談相手として友達を選択する割合が最も高くなる傾向が見られた。これは、思春期から進路選択期にかけて、大人に相談することが難しくなる時期であることを示していると考えられる。

項目	区分			
	小学生	中学生	高校生	若者
相談できる人 「いる」割合 (%)	91.6	86.6	81.8	91.0
相談できる人 「いない」割合 (%)	7.9	13.4	17.6	8.6
主な相談相手 (上位4位)	①両親 ②兄弟姉妹 ③友達 ④学校の先生	①両親 ②友達 ③兄弟姉妹 ④学校の先生	①友達 ②両親 ③兄弟姉妹 ④学校の先生	①両親 ②友達 ③恋人やパートナー、 配偶者 ④兄弟姉妹

### (2) 相談相手がいない

以下は、全年代の回答項目をそれぞれ「心理的抵抗」「相談先不明」「自己解決志向」「二次被害への不安」「時間・環境的制約」に分類し、割合を算出したものである。

相談相手がいない理由として、全世代で「だれにも知られたくない」「話すのが苦手」などの心理的抵抗が最も多く、相談先の有無以前に、相談行為そのものに高いハードルが存在しており、特に小学生ではそれが顕著となっていることが分かった。

また、中学生では、相談先不明の割合が高く、高校生では、自分で解決しようとする傾向が強まり、若者では相談による不利益などを理由とする割合が高く、年代ごとに相談につながる要因が異なることから、相談体制の安全性や柔軟性の確保が求められることが分かる。

項目	区分 (%)			
	小学生	中学生	高校生	若者
心理的抵抗 (誰にも知られたくないから、自分のことを話すのが苦手だから、恥ずかしいから)	53.5	37.8	36.4	38.5
孤立・相談先不明 (誰に相談していいかわからないから、困ったことや悩みごとを話せる相手がないから)	18.6	37.8	26.5	28.2
自己解決志向 (自分で解決できるから)	7.0	6.7	13.9	5.1
二次被害への不安 (「誰かに話すな」と言われているから、話したことでもっと大きなトラブルになったら嫌だから)	14.0	13.3	13.9	20.5
時間・環境的制約 (相談したいことを話せる時間がないから)	2.3	2.2	4.6	7.7

### (3)相談窓口の認知度

以下は、小中高生の「どれも知らない」と回答した割合を一覧化したものである。

相談窓口の認知状況を見ると、小学生の約半数が「どれも知らない」と回答しており、相談窓口が十分に知られていない実態が明らかとなった。

また、中学生・高校生の割合は減少するものの、約4人に1人が相談窓口を知らない状況にある。

これらの結果から、相談窓口は設置されているものの、年齢に応じた伝え方や接触機会が十分でなく、特に小学生においては身近な大人以外の相談先が認識されていないことが課題であるといえる。

区分	回答 (%)		
	小学生	中学生	高校生
「どれも知らない」割合	45.5	24.6	23.4

### (4)希望する相談場所や方法

以下は、小中高生の回答の割合を一覧化したものである。

年代別に特徴的な傾向を見ると、小学生は身近で顔が見える安心感を重視していること、中学生にとって学校という慣れた場所は依然重要ではあるものの、直接話すことへの抵抗が出始め、距離感や自由度を求め始めていることが分かる。

なお、年齢が上がるにつれて、対面による相談に加え、LINEなどのSNSやインターネットを活用した非対面・匿名型の相談を希望する割合が高まる傾向が見られた。

一方で、すべての年代に共通して「自分の好きなタイミングで相談できる」ことへのニーズは高く、相談体制には柔軟性が求められている。特に学校は、小学生から高校生まで共通して重要な相談の場であり、放課後など落ち着いて話せる時間帯の確保が有効であるといえる。

項目	区分 (%)		
	小学生	中学生	高校生
学校の中で放課後などに話を聞いてくれる場所	50.8	27.5	41.8
家に相談相手が来てくれる	27.2	12.0	8.2
家や学校以外の場所	13.6	17.6	12.7
LINE などの SNS での相談	13.1	43.0	37.5
手紙での相談	11.5	4.9	4.9
インターネットの専用ページによる書き込み	12.6	16.9	16.6
自分の好きなタイミングで話を聞いてもらうことができる場所	49.7	39.4	36.1